

令和5年度  
江戸川区学校応援団  
実践報告書

【小学校】

令和6年3月  
江戸川区教育委員会

# 目 次

小松川小学校	P	1
小松川第二小学校	P	3
小平井小学	P	5
平井西小学校	P	7
平井東南小学校	P	9
平井南小学校	P	11
松江小学校	P	13
西一之江小学校	P	15
西小松川小学校	P	17
大杉小学校	P	19
大杉第二小学校	P	21
大杉第三小学校	P	23
大杉東松川小学校	P	25
東小松川小学校	P	27
船堀小学校	P	29
船堀第二小学校	P	31
葛西小学校	P	33
二之江小学校	P	35
二之江第二小学校	P	37
第二葛西小学校	P	39
第三葛西小学校	P	41
第四葛西小学校	P	43
第五葛西小学校	P	45
第六葛西小学校	P	47
第七葛西小学校	P	49
南葛西小学校	P	51
南葛西第二小学校	P	53
南葛西第三小学校	P	55
西葛西小学校	P	57
新田小学校	P	59
宇喜田小学校	P	61
清新第一小学校	P	63
清新ふたば小学校	P	65
臨海小学校	P	67
東葛西小学校	P	69

瑞江小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P71
春江小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P73
新堀小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P75
下鎌田小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P77
下鎌田東小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P79
江戸川小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P81
一之江小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P83
一之江第二小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P85
鹿本小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P87
鹿骨小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P89
鹿骨東小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P91
松本小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P93
本一色小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P95
篠崎小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P97
篠崎第二小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P99
篠崎第三小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P101
篠崎第四小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P103
篠崎第五小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P105
南篠崎小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P107
鎌田小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P109
小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P111
東小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P113
下小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P115
上小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P117
上小岩第二小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P119
西小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P121
上一色南小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P123
南小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P125
南小岩第二小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P127
中小小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P129
北小小岩小学校	• • • • • • • • • • • • • •	P131

# 小松川小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

小松川小学校長            坂野 眞太郎  
コーディネーター        松田 守弘

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安全安心・旗振り	毎日	毎日2人ずつ
安全安心・交通安全教室	年1回	12人
学校図書・読み聞かせ隊	月2回	20人
学校行事支援	不定期	15人
学習支援隊	不定期	1人
環境整備隊	不定期	8人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 保護者による毎朝2名の旗振り当番の協力により、登校中の交差点での通勤通学で利用されている自転車との接触事故を今年度も0件にすることができた。
- 読み聞かせ隊（学校図書館応援団）の活動は月2回の頻度で実施できた。子どもたちは真剣な眼差しで読み聞かせを聞いており、読書活動の推進という点で成果を上げることができた。
- 学校行事支援については運動会でのお手伝いやハッピーファミリーデーの実施、ナイトキャンプの実施、学習発表会の会場準備や片付けなどバラエティーに富んだ活動を展開してくださり、子供たちの心の耕しに向けた活動を展開できた。

### <課 題>

- 学校応援団の人材については保護者に頼る割合が高い。地域の方による潜在的なサポート力の開拓を進め、応援団の充実を図っていく必要がある。
- ボランティアさんの募集を呼びかけてはいるが、少数精鋭化が進んできている。たくさんの方にご協力をいただけるようにし、継続的な支援が円滑に行えるようにしていきたい。
- 学校応援の内容について現場のニーズを検証してさらに充実が図れるようにしていきたい。

## 5 コーディネーターより

今年度の小松川小学校学校応援団は安全安心に関する部門、図書に関する部門、行事での支援を行う部門、環境整備に関する部門、学習支援に関する部門の5つの部門が活動を行いました。学年学級の枠を越えた関係が作れる他、子どもたちの普段の学校での様子がわかるなどメリットの多い活動であると考えています。今年は、これまでの実践を生かして、子供たちがより活動しやすい環境を整えることで学校に協力していけるようにしてまいりました。今後は学習面をサポートする活動が十分にできていないという現状がありますので人材を集め、協力できるようにしていきたいと考えています。

## 6 学校長より

今年度も様々な方にお力添えいただくことができました。おかげさまで子どもたちにとって安全で実りの多い学習の場としていくことができましたことを深く感謝いたします。ボランティアさんの人材確保等の課題点を解決しながら、今後も保護者や地域の方と力を合わせて子供たちのためによりよい環境を整え、充実した教育活動を行ってまいります。地域の皆様におかれましても小松川小学校に通う「こまっ子」たちのためにご協力のほどよろしく願いいたします。

# 小松川第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

小松川第二小学校長 五十嵐 一嘉  
コーディネーター 松本 樹也

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	15人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書ボランティア	月4回程度	15人
児童介助ボランティア	不定期	1人

### 学校図書ボランティアによる掲示



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

新型コロナウイルス感染症の位置づけが令和5年5月8日から5類感染症となり、行政が様々な要請、関与を行う仕組が落ち着きました。学校ではこれを契機に教育活動の内容の選択、児童主体の様々な活動を再考し、児童の教育活動を担う教育職員や協力者である地域自治会関係者、学校応援団等による取組を推進しました。

#### 【環境整備】

学校図書ボランティアに必要な予算を配付し、児童が親しみやすい図書室の装飾や掲示を行った。校内の壁掲示は学校図書ボランティアの発案により行い、児童が季節を感じる掲示物となった。

#### 【読書旬間】

学校図書ボランティアが児童の読書活動推進を図る目的でスタンプリーを実施したことで、来室者数が増加した。

#### 【読み語り】

P T A本部と学校図書ボランティアの連携により、月1回の割合で読み語り活動を行うことができた。

#### 【児童の話し相手】

学生ボランティアを配置したことにより、一斉指導に不安を抱える児童に対して教室で学習活動に対する助言を行ったり、児童の休憩時間に話し相手になったりする活動の充実につながった。

### <課 題>

学校配付予算をより有効的に活用し、学校図書の選書を進めること。また、学校図書ボランティアに関わる保護者の世代交代が進むため、活動に参加する保護者の募集を行うこと。

## 5 コーディネーターより

令和5年度、学校図書ボランティア事業の推進においては、多くのボランティアに定時的に活動していただきました。感謝申し上げます。

今後も保護者の皆様、地域の皆様に学校の教育活動を支えていただくことが必要です。学校応援団事業がP T A事業とより連携を深め、充実した活動が展開できるように努めていきます。

## 6 学校長より

学校応援団の皆様には、令和5年度も本校の教育活動を支える役割を担っていただきました。

児童の健全育成を図るためには、学校職員による教育活動のみならず教育環境の整備や大人が直接的に児童と関わる機会を欠くことはできません。児童は様々な教育環境の中で多くの人とつながり成長していくからです。

翌年度も学校応援団の皆様のお力をお借りして、本校の教育活動がさらに充実するよう努めます。

この一年の学校応援団である皆様の活動に感謝申し上げます。

# 平井小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

平井小学校長                      渡邊 法子  
 コーディネーター                笠松 志保

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	492人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
スクールガード	・登下校時の安全見守り、旗振り（毎日）	4人
登校時旗振りボランティア	・登校時の安全見守り（毎日）	440人
読み聞かせボランティア	・各学級での本の読み聞かせ（月2回）	18人
おやじの会	・学校行事、PTA 行事の支援（不定期）	30人

### 平井小学校学校応援団



PTA 平井小まつり

読み聞かせ

町探検出発式

登下校時の見守

ボッチャ交流

#### PTA・保護者

- ・読み聞かせ
- ・登下校時の交通安全指導（旗振り）
- ・親子安全見守り隊活動
- ・交通安全教室・自転車教室
- ・環境学習等校外学習の安全見守り
- ・地域パトロール

#### 地域

- ・登下校時の交通安全見守り
- ・荒川環境学習
- ・凧作り指導
- ・地域行事の準備、運営
- ・ボッチャ交流
- ・花いっぱい運動



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 「PTA平井小まつり」では、「楽しもう平井小まつり&楽しく学ぼう SDGs」をコンセプトにまつりを楽しみながら、昨年同様まつりを通して SDGs をより楽しく理解してもらうことを目的として実施しました。当日は、校庭、体育館とたくさんの模擬店とイベントが催され、多くの保護者ボランティアの方々にご協力をいただきました。大盛況であつという間に楽しい時間が過ぎていきました。
- 3年生は、ひらイルミナルの方々とボッチャ交流会を開きました。交流会開催の前には、ひらイルミナルの方から、さまざまな障害に関するお話をいただきました。一人一人の違いを認め合い、ともに手を取り合って生きていくことの大切さを学びました。
- 読み聞かせボランティアによる読み聞かせを、昨年度よりも実施回数を増やして実施することができました。子どもたちは、どんな本を読んでいたただけるのか、開始まで期待に胸を膨らませ、読み聞かせが始まると、本の世界に集中する姿がたくさん見られました。読み聞かせを通して読書の幅を広げることにもつながりました。
- 町探検や荒川の校外学習など、生活科や総合的な学習の時間に、多くのボランティアの皆さんに子どもたちの引率をサポートしていただきました。子どもたちも安心、安全に学習することができ、充実した活動となりました。ボランティアの方々も子どもたちの引率を通して、地域の新しい発見をすることができました。
- すくすくスクールでは、ボランティアを招いて工作教室など様々な教室を行う予定でいましたが、今年度も実施を見送りました。

### <課 題>

- 読み聞かせボランティアの活動人数をさらに増やしていきたいです。
- ボランティアに参加される方が限定してきているので、募集方法を工夫など取組が必要です。
- スクールガードの方々が通学路に立って交通安全の見守りをしてくださっていますが、参加人数が減少傾向にあります。少しずつ組織の再編成をしていく必要があります。

## 5 コーディネーターより

地域の皆様、保護者の皆様に支えられ、学校応援団としての活動が行われました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響も減少し、内容が精選されたこれまで以上の工夫された活動ができました。PTA 執行部・おやじの会をはじめ多くのスタッフが力を結集し活動しました。「平井小まつり」では、久しぶりに飲食が可能となり、大いに盛り上がるまつりとなりました。ありがとうございました。

来年度も、幅広く充実した活動となるように尽力していきたいと考えております。今後も多くの皆様のご支援をよろしく願いいたします。

## 6 学校長より

地域と共に歩む学校を目指す中で、登校から下校まで学校応援団の皆様には様々な教育活動を支えていただいております。「PTA平井小まつり」の成功に象徴されるように、コロナ禍の一連の危機から学び進化するべく、様々な新たな取り組みを行っています。今後も危機を乗り越え、これからも学校は地域・保護者・子供たちと社会をつなぐ場となるよう尽力して参ります。今後とも学校応援団の皆様のご理解・ご協力をよろしく願いいたします。

# 平井西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

平井西小学校長 藤澤 優子  
コーディネーター 前澤 勝三

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	22人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
下校安全指導	週5回	4人
読み聞かせ	毎週水曜	18人
花壇の環境整備	不定期	3人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 学校応援団下校見守り担当とPTA本部役員並びに生活指導主任をはじめとする教職員が、三者協議会の場で児童の下校時や放課後の様子について情報や課題を共有し、児童の健全育成に協働することができた。今年度は、警察が参加し、本地区で多い交通事故等について話が聞けた。今後もパトロール等で安全見守りの連携を確認できた。
- 読み聞かせの取組では、本の面白さや知識を得られる楽しさを伝えるとともに、ただ読むだけでなく子供たちと対話をしたり、クイズ形式で行ったりするなど工夫して実施している。今年度は Teams で、読み聞かせ活動の様子を動画掲載し、子供たちが、いろいろな本と出合える機会を増やすことができた。

### <課 題>

- 現在、見守り担当の方々の高齢化と読み聞かせ担当では、在籍保護者の人数が少ない現状がある。町会に呼び掛けたり、学校公開時に読み聞かせボランティアコーナーを作り参観に来られた保護者に呼び掛けたりしている。学校応援団の継続と発展の観点から団員を確保する必要がある。
- 下校の見守りをしてくださる学校応援団の方々や保護者に対しての挨拶が少ない。現在、生活指導部で挨拶運動の取組をし、児童が、学校応援団の方々等の大人への挨拶を啓発している。

## 5 コーディネーターより

学校応援団では、毎日の下校の安全見守りをはじめとして、読み聞かせや花壇の環境整備などを行って平井西小の子供たちと深くかかわってまいりました。下校時の安全見守りは交通事故を防ぐだけでなく、挨拶をすることの大切さを伝えていきます。学校で挨拶運動の取組もやってくださり、平井西小はすすんで挨拶をする子供が増えていと感じています。

現在、団員の高齢化も進み、新しい人材確保が必要なところであります。地域の方々に子供たちを育てていければと思っております。

今後も子供たちの健やかな成長のために少しでも協力ができるよう活動してまいります。これからもよろしく願いいたします。

## 6 学校長より

平井西小学校では、長くから学校・家庭・地域の「共育・協働」を行っています。そのため、地域を大切にしていこうとする風土も育まれています。中でも学校応援団の皆様には、学習（読み聞かせ）面、安全面など多くの活動をサポートいただいております。今年度は、長年にわたる学校教育活動の支援の功績に対し、東京都教育委員会より学校活動教育支援部門において感謝状をいただきました。これからも、学校応援団の皆様とともに、「共育・協働」が続いていくことができるよう努力してまいります。

# 平井東小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

平井東小学校長            大辻 隆夫  
 コーディネーター        村田 新司



## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	52人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ応援団	月1回	15人
図書整備応援団	月4回	15人

## 平井東小学校学校応援団

### 地域

- ・荒川環境学習のゲストティーチャー
- ・金管楽器演奏
- ・ナイトウォーク
- ・マラソン大会
- ・年末地域行事
- ・その他地域行事

### PTA・保護者

- ・図書ボランティアによる活動  
(月2回の読み聞かせ)  
(週1回の図書室整備等)
- ・荒川環境学習での安全見守り活動
- ・地域パトロール
- ・運動会の準備、片付けなど学校行事の支援
- ・PTAやパパスクラブ(父親の会)による行事

### すくすくスクール

- ・指導の一貫性  
(学校との情報交換)
- ・子供の活動の場の拡大  
(ウエルカムガーデン  
カヌー教室・工作教室  
車いすバスケットボール他)



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

○「図書応援団」と銘打って、図書のボランティアの方を募り、年間を通し活動することができた。具体的な活動としては、各学年の児童の発達段階に応じた図書を選定し、定期的（月1回）に、各教室を回り、選定した本の読み聞かせを行うことができたことである。

さらに、図書室の環境整備を定期的（週1回）に行い、本校の図書室が、児童にとって本に慣れ親しんだり、調べ活動を行ったりするという効果を効率的に行えるような場所にできたということである。

これらのことは、本校の教育活動の一環である「読書科」の充実にも大いにつながっている。

具体的な活動としては、以下の通りである。

（読み聞かせ活動）

- ・朝の時間（15分）を活用し、第1学年から第6学年までの各学級を訪問し、読み聞かせを行うことができた。
- ・読む本は、図書ボランティアの方が学年の発達段階に応じ選定し、「読み聞かせ」の楽しさを子供たちに味わわせることができた。子供たちにとっては、毎回の読み聞かせが大変楽しみに became。
- ・「1組の日」、「2組の日」、「3組の日」と、学年を縦割りにして、読み聞かせを行う学級を決め、活動内容を工夫しながら、取り組むことができた。

（図書室の環境整備活動）

- ・学校図書館の環境整備や本の修理を定期的に継続して行った。
- ・学校図書館の室内の掲示を工夫し、児童が、読書に親しめるような環境作りを行うことができた。



◎「読み聞かせ活動」からは、どの学年の教室でも子供たちが目を輝かせて「読み聞かせ」に聞き入る様子が見られ、確実に本好きな子供たちが育っている。

◎「図書室の環境整備活動」からは、学校図書館に子供たちがすすんで来室し、「本を読みたい」という気持ちをもつようになり、「調べ学習をすすんで行いたい」というような意欲をもって学習したりできる場となっている。

○4年生の総合的な学習の中に位置付けている本校の特色の一つである「荒川環境学習」には、児童が「互いに考え、楽しむ」という活動が実現できるような支援をしていただくことで、実際の現地である荒川でも、安全で充実した活動が展開できた。

○運動会の準備や後片付けの作業に、「バパスクラブ」をはじめとする PTA の方、保護者の方の協力が大変多くあった。「学校を応援したい」という気持ちをもつ方が多く、学校を支えていただいていることがよく分かり、大変ありがたい。

### <課 題>

○「読み聞かせ活動」や「図書室の環境整備活動」を授業や図書委員会の活動とリンクさせ、児童と応援団とがお互いに関わり合いをもてるような工夫を次年度以降も続けていく。

○読み聞かせ活動や図書室の整備活動等、図書に関わること以外にも、PTA 活動とリンクさせ、新たな取組を考えていくことを今後検討していきたい。

○応援団の活動の様子をホームページ等で紹介し、その活動を今後も、広く周知していくようにする。

○学校応援団は、組織編制上の課題として、子供の卒業とともに抜けてしまうメンバーの方もいる。無理なく多くの保護者の方や地域の方（卒業生の保護者も含め）が学校応援団として、参加できるよう、組織編成においても今後工夫していく必要がある。



## 5 コーディネーターより

PTA 活動と学校応援団が連携し、活動に取り組みました。特に、運動会においては、朝の準備から片付けまで、学校行事の一日を支援することができました。このブロックである小松川・平井地区には「地域で子供を育てる」という風土が強くあります。これから、本校児童「ひがしっ子」の身心共に、健やかな成長のために、互いに協力し合いながら、「出来ること」を「少しずつ着実に」行っていきたいと思います。日頃より、学校応援団の諸活動にご理解とご協力をくださる皆様に感謝いたします。

## 6 学校長より

平井東小学校は、子供たちの学校生活や学習活動を支援して下さる「学校応援団」の皆様によって、大きく支えられています。

本校では、読書活動の充実に向け、週2回以上設けている朝読書の時間がありますが、その中で、「読み聞かせ応援団」の皆さんが月に1回参加して下さる日があります。子供たちは、その時間を大変楽しみにしております。「読み聞かせ応援団」の皆様が選定して下さる本も子供たちにとってはどれも楽しい内容ばかりであり、大変ありがたいです。

さらに、「図書整備応援団」の皆さんは、毎週1回は図書室に集まり、本の整備等や、子供たちが、活用しやすい図書室を目指し、環境作りを工夫して下さっています。

また、学校に隣接する荒川を題材に、身近な自然の営みや、環境について主体的に関わる学習である『荒川環境学習』では、地域の方が講師となって、荒川について教えていただきました。その活動で、4年生の児童が、荒川に出かけて活動をする際の安全の確保としては、保護者の方々が見守りに来てくれており、これも大変ありがたいです。

このように、平井東小学校を愛する保護者・地域の方々が、学校応援団として活躍して下さることを大変ありがたく思っております。今後も、どうぞよろしくお願いいたします。

# 平井南小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

平井南小学校長            岡田 盛雄  
コーディネーター        阿部 美代子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	49人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登校安全見守り隊	登校日毎日 登校時の安全見守り	18人
クリーン作戦世話人	年2回 地域清掃	19人
読み語りの会	月1回 学級に入って読み語り	11人
盆踊り指導	年1回 運動会の「東京音頭」指導	1人
平和学習指導	年1回 平和学習・灯籠づくり指導	3人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

「登校安全見守り隊」の活動については、19 人にのぼる地域の皆様に、毎朝所定の交差点に立っていただき、児童の安全を見守っていただいています。登校時刻に往来する車や自転車に横断機で合図を送るなど、子どもたちの登校を助けていただくことができました。また、登校する子どもたちに「登校安全見守り隊」の方々から必ず「おはようございます。」と声をかけていただくなど、継続的に挨拶指導を行っていただきました。このことを通して、子どもたちの挨拶に対する意識や、地域への帰属意識などを高めていくことができていると感じています。また、登校中の児童以外の通行中の方にも率先して声をかけていただくなど、不審者等の防犯対策としても効果を感じています。

「クリーン作戦」と「平和学習」については、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により再開することができました。学校と地域との交流や清掃活動を通して、地域に対する理解や地域を愛する心を醸成していくことについて改めて強く感じました。

「読み語りの会」の活動については、11 人の地域の皆様に月1回、各学級での本の読み語りをしていただいています。毎回、読み語りをする本が重ならないように連絡を取りながら様々な本に触れられるようにしていただいています。読み語りに聞き入る子どもたちの様子からは、読み語りの機会を楽しみにしている気持ちや読書に対する意識の高まりを感じます。

「盆踊り指導」については、運動会に際し、1年生を対象に「東京音頭」を教えていただきました。地域にいらっしゃる日本舞踊名取の方にお教えいただき、初めて東京音頭を踊った1年生もすぐに踊りを覚えることができました。運動会では全校児童、卒業生、保護者や地域の方々と一緒に楽しく踊ることができました。

### <課 題>

各種の応援団では、常時協力者を募集していますが、新規協力者がなかなか集まらない状況が続いており、引き続き方法を工夫して勧誘をしていきます。

学校応援団の皆様に気軽に活動していただける環境を整え、特に学生から子育て世代を含む協力者の拡充が必要だと感じています。このことを踏まえ、持続的・発展的な学校応援団の活動について、幅広く検討していくことが課題となっています。

## 5 コーディネーターより

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、活動の再開や新たな形での活動に取り組んでいます。いわゆる「コロナ禍」以前の活動についてご存知でない方も多い状況の中、学校応援団の皆様のご協力の下、今年度も学校や子どもたちの活動を支援することができました。今後も支援体制の充実に向け、団員同士が交流できる機会の設定や、学校との連絡体制の整備など、団員同士のつながり、学校との連携を更に深めていきたいと考えています。

## 6 学校長より

平井南小学校の学校応援団は地域の皆様に多大な支援をいただき成り立っています。地域の皆様と学校が共に歩んで児童の健全育成に努めています。地域の方々を中心とした学校応援団の皆様の多大な支援に心から感謝いたします。温かい地域の皆様と共に歩んできたのが、平井南小学校です。これからも、団員の皆様をはじめ、保護者や地域の皆様からの応援をいただきながら児童のより良い成長のため、教職員一同、精一杯努力して参ります。ご協力の程、よろしく願いいたします。

# 松江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

松江小学校長 木村 紀朗  
コーディネーター 八武崎 秀紀

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇ボランティア	不定期（およそ2週に1日）	20人
読書ボランティア	不定期（およそ2週に1日）	20人
読み聞かせボランティア	不定期（およそ2週に1日）	10人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

・コロナ禍による制限がなくなり、「読書ボランティア」が蔵書の整理や季節ごとの飾りづくりなどに取り組んでいただいた結果、図書室の雰囲気明るく、本に親しめるすてきな環境に変わった。

また、松江図書館に出掛け、団体貸出し用の図書選定をしていただいた。毎月、その時期にふさわしい読み物や学習に関連した図書が届けられ、子供たちの本に親しむ姿勢も高まっている。

- ・読み聞かせボランティアによる朝の読み聞かせは、低学年が中心だが、子供たちにとって楽しい時間の一つとなっている。
- ・花の苗植えなど、学校環境美化についても協力できた。



### <課 題>

- ・それぞれの活動内容を明文化し、毎年、計画的に活動できるようにしていく必要がある。
- ・地域の方々の人材把握。連絡手段の確立する必要がある。
- ・今後も「共育・協働」をさらに進め、本校児童の心豊かな「育ち」と確かな「学び」のために地域の資源・人材をより積極的に活用していく。

## 5 コーディネーターより

「学校」「PTA」「地域」「子供会」が一体となり、子供たちの安全を中心に、そして子供たちが、安心して楽しい学校生活を送れるよう支援するために発足しました。今年も大きな事故や事件に巻き込まれず、子供たちが安全に過ごせたことが何よりです。松江小学校を、地元商店街や地域の方々にご協力いただき、さらに活気に溢れた学校にしていきたいと思えます。

## 6 学校長より

松江小学校の学校応援団は、子供たちの安全・安心の見守りを第一に、保護者や地域の皆様が地道な活動を展開してくださっています。読書ボランティア活動が一層組織的な動きとなり、活動が高まってきています。おかげさまで、本好きな子供たちが増えています。

既存団体をはじめ、ボランティアの方々の協力で、子供たちのために良い環境を作ることができています。子供たちの主体的・対話的で深い学びを実現するためにも、学校応援団の方の力を貸していただきたいと思っております。今後も、子供たちの伸びや高まりを目指すとともに、本校の「共育・協働」をさらに一層進めていきます。

# 西一之江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

西一之江小学校長      川浦 孝彦  
 コーディネーター      笠松 健

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	150人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア 「本はともだち隊」	図書整備：休み時間 及び 夏休み期間の 2日間	18人
	読み聞かせ：各学期1回(6月10月1月)	44人
父親ボランティア 「イクメンジャー」	校内外パトロール：学校公開など行事時の 不定期 昆虫飼育など教育活動支援：不定期	20人
安全指導	登下校見守り：不定期	100人
行事支援	学校行事・PTA行事支援：不定期	80人

図書ボランティア「本はともだち隊」  
本の読み聞かせ



カブトムシ小屋の整備



登下校の見守り



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

図書ボランティア「本はともだち隊」は図書室整備と読み聞かせの活動を、新型コロナウイルス感染症の予防対策を徹底しながら、ソーシャルディスタンスを図って行ってきた。読み聞かせは、6月・10月・1月に企画し、実際に本を使うところと、大型テレビを使うところがあり、工夫しながら実施することができた。

父親ボランティア「イクメンジャー」の活動としては、昆虫飼育小屋の整備、行事での見守り活動、終業式イブイブフェスティバル企画への協力があげられる。

本校の昆虫飼育小屋では毎年800匹以上のカブトムシの飼育を行っており、父親ボランティア「イクメンジャー」を中心に、児童・保護者・教員が毎年春から初夏にかけて幼虫を掘り起こし、土の入れ替えと幼虫の数を数えている。今年度は昨年度までのイクメンジャーと学校ボランティア、学校職員だけでなく、希望する児童も参加して実施することができた。今年度は116匹の幼虫を掘り起こすことができた。例年だと3年生には自然観察用に一人一匹配布し、飼育委員会で他の幼虫を飼育するのだが、今年度は3学年が学級ごとに飼育することになった。行事での見守りでは、体育科学習発表会実施時に、学校の敷地回りでの安全確保などの校外パトロールとして見守りを行った。

登下校時の保護者、地域の方の見守りの強化では、保護者・地域の方の協力を得ることができ、事故を減らすことにつながっている。また、登校時だけでなく下校時や放課後も危険であることを再認識し、交通安全を中心に呼び掛けることができた。(学校応援団以外にも、地域ボランティアや企業ボランティアによる見守りも実施され、連携していただいている。)

### <課 題>

人材確保が毎年の課題である。今年度も行事やイベントが中止となり、父親ボランティアの活動する場が少なく宣伝する機会が少なかったので人材確保が難しかった。学校管理職やコーディネーターが変わっても継続して行うことができること、世の中の情勢にも柔軟に対応できるように確実なものにしていくことが課題である。

また、登校時のみでなく下校時や放課後の見守りを学校応援団の方々の力を借りて充実させていくこと、児童の学力向上や体力向上につながる活動の充実を図ることも視野に入れていきたい。

## 5 コーディネーターより

西一之江小学校では学校応援団としての活動がスタートしてから13年になる。新型コロナウイルス感染症拡大による影響で活動が限られてしまった。そのような中、5月の昆虫小屋整備、6月の体育科学習発表会への協力を行うことができた。来年度は、秋に行われる文化的行事である「西一さくらっこまつり」への協力も行っていく予定である。今後も応援団の活動を広く周知しながら「西一応援団」の輪を広げていくことに努めていきたい。多くの方々のご協力をいただき、児童の安心・安全、笑顔のために、全力投球で学校、地域、保護者と力を合わせて取り組んでいく。

## 6 学校長より

本校は、「明るい学校」「楽しい学校」「魅力ある学校」を教育方針の柱とし、『笑顔』『元気』『思いやり』あふれる学校づくりを保護者や地域の皆様と協働して進めている。具体的には、「各教室での読み聞かせ」「昆虫飼育支援」「俳句指導」「地域の昔のお話」「鼓笛隊の地域行事でのパレード参加」等多岐にわたる教育活動でご支援いただき、学習支援や環境整備、健全育成等、様々な面でご活躍いただき教育効果を上げてきた。

コロナウイルス感染症が2類から5類となり、活動の幅が広がりつつある。今年度は、地域の皆様の登校時の見守りも定着してきたことで、児童とボランティアの皆様とのあいさつの輪も広がってきた。また、保護者の方の付き添いや見守りも増え、子供たちの安全は、地域、保護者、大人たちが守るという意識の高まりを感じた。

管理職やPTA会長が代わっても、地域の皆様の学校に対する熱い思いは、開校当時から今日までしっかりと引き継がれ息づいている。学校、地域、保護者が協働して、子供たちに郷土愛や愛校心を育む機会をつくり、「西一応援団」の更なる充実を目指していきたい。

# 西小松川小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

西小松川小学校長 落合 由美子  
 コーディネーター 塚原 一希

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	177人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登校見守りボランティア	毎朝、校門前で児童の交通安全の見守りをする。	2人
下校見守りボランティア	4月末まで、1年生の下校時の見守りをする。	0人
校外学習(行事)見守りボランティア	校外学習時に安全を確保し、指導の補助をする。	127人
調理実習指導ボランティア	調理実習時の安全見守りと指導補助を行う。	0人
図書室整備ボランティア	週1回、本の整理や修理、壁面装飾などをする。	0人
読み聞かせボランティア	月1回、朝読書の時間に本の読み聞かせをする。	48人
学校環境ボランティア	季節ごとに花壇に花を植える。	0人

登校見守りボランティア



読み聞かせボランティア



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 1・2年生の生活科校外学習や3～6年生の社会科、総合的な学習の時間、校外学習では、指導補助や見守りをしていただき、児童が安心して活動することができた。  
今年度、5・6年生の調理実習では、感染予防の観点から補助の見送りをした。
- 読書ボランティアでは、読み聞かせボランティアの方には、学年に応じた本を選び、読み聞かせ後に本の記録を残している。これを担任が読み聞かせをする際の参考にしている。  
整備ボランティアの方には、今年度はバーコード化の導入のため、招集をかけず、来年度から本の整備等を行っていただく。
- 今年度は読書ボランティアの4年ぶりの招集であったにもかかわらず、多くの方の参加をいただき、継続してくださる保護者が増えたので、定期的に活動をし、引き継いでいく下地ができた。

### <課 題>

- 4年ぶりの学校応援団の活動となり、内容を知っている人が少なく、活動を一から考えていかなくてはならない場面もあった。継続実施に向け、引継ぎをしっかりと行いたい。
- 学校ホームページや読書ボランティア通信などを通じて、ボランティアの活動を紹介し、ボランティアの人材発掘に引き続き、力をいれていきたい。

## 5 コーディネーターより

定期的開催される連絡会に出席する機会や地域との交流の中で、たくさんの方のご支援をいただいていることを実感するとともに、多くのボランティアの方々の活躍により、学校教育活動に協力できていることを大変うれしく思います。

今後も今まで以上に、学校と保護者、地域の方々を結び付けることに注力して、子供たちが、より充実した学校生活を送れるように活動をしていきたいと考えています。

## 6 学校長より

新型コロナウイルス感染症が5類の対応となり、来校者や校外学習の機会が増える中、本校の教育活動が様々に展開できますのも、ボランティアの皆様のお力添えによるものと感謝しております。学校全体、または、各学年の活動や学習のめあてについて、ご理解いただきご協力いただくことで、子供たちは安心して学習に取り組むことができっております。

ボランティアの皆様の中には、お子様が既に本校を卒業して20年以上たっている元保護者の皆様が多くいてくださることも心強い限りです。地域に愛され大切にされている学校だからこそ思い、ボランティアの皆様、地域の皆様の期待に応えられますよう、さらに子供たちと共に頑張りたいと思っています。

今後も、子供たちの安全安心な学校生活のために、多くのお力をお貸しいただけますよう学校の教育活動の様子を学校HPや学校だより等で、保護者の皆様、地域の皆様に発信してまいります。

# 江戸川区立大杉小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

大杉小学校長            浅野 努  
コーディネーター      池田 政弘

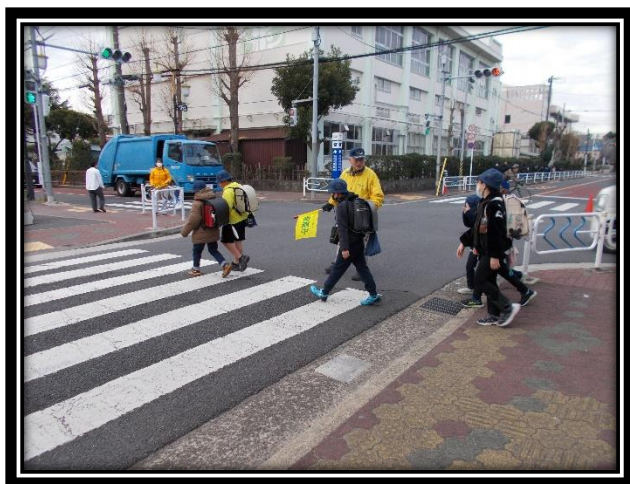
## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	0人

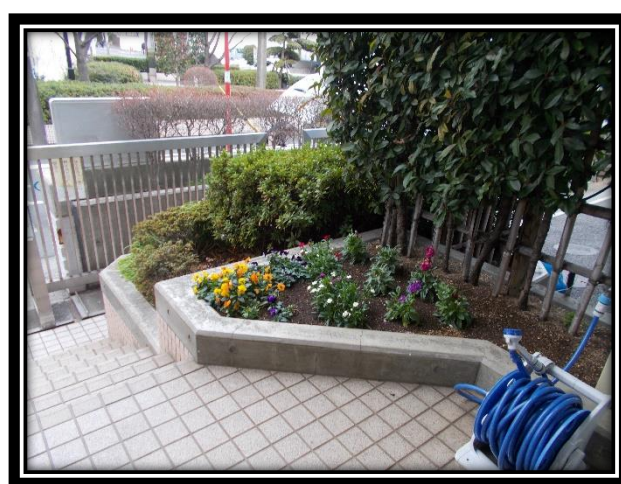
## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校見守り	週5回（土曜授業日含む）	10人
環境ボランティア	年4回の学校花壇の手入れ	6人

【登下校見守り】



【花壇の手入れ】



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

4月から毎日子供たちの安全のために、横断歩道で旗当番をしていただいている。特に大杉小学の通学路は車の往来が多く、今年度の10月24日の朝、通学路にて成人男性のオートバイでの死亡事故が起きている。いっどこで児童が犠牲になるかわかならない状況下、毎朝の登下校の見守りを継続していただけることが本当にありがたく、心から感謝を申し上げたい。

環境ボランティアにおいては、学校の正門に枯れることなく、1年中きれいな花が咲いている。正門は学校の「顔」であり、お客様、児童、保護者にとって心地よく感じられる。SDGs及び児童の教育の観点からも「植物を大切にする」情操教育に役立っている。

### <課 題>

「登下校の見守り」「環境ボランティア」の活動に限られてしまっていることが課題。「無理なく」「継続的に」「学校及び児童のために」の3つのキーワードをもとに活動を考えていき、地域応援団の方々と児童が交流する活動や年度末には感謝の思いを伝える機会を設けるなどしていきたい。

## 5 コーディネーターより

児童が安全に楽しく学校に登校できていることが何よりも嬉しく、この地域応援団の大きな成果。私たちは陰ながら「学校」「児童」「先生方」を支える活動ができればと思っています。

今後もこの活動を継続し、その中で「何ができるか」を考えて取り組んでいきたい。

## 6 学校長より

学校応援団の皆様、本校の教育活動にご理解のもとでの様々な活動をしていただき、心から感謝申し上げます。児童が事故なく安全に登校することができたには、皆様のお陰です。本当にありがとうございました。正門のお花も枯れることなく、季節に応じたお花を植えていただき、本当に気持ちよく毎日私も正門を通っています。

1年間、学校のため、子どもたちのために本当にありがとうございました。

# 大杉第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

大杉第二小学校長      笠井 三恵子  
 コーディネーター      田崎 國男

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	197人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
見守り隊	月2～3回	20人
登校班及び旗振り	常時	50人
ふれあいウェンズデイ	毎週第3水曜日	30人
読み聞かせボランティア	月1回（朝読書）	18人
学校図書館ボランティア	年間（随時）	9人
学校内外清掃環境整備	年間（随時）	30人
杉ニサポーターズ (児童の安全等サポート)	年間（随時）	40人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 「見守り隊」の活動は、4月から12月現在まで予定していたとおり21回実施することができた。1月以降も計画のとおり実施する予定である。1年生の下校に付き添って見守っていただいたことで、1年生の児童が安全・安心に下校することができたことはとてもありがたかった。見守り隊の活動は、五北町会及び大杉町会等の有志の方が地域の子供たちの下校時における安全を守るため17年間継続して活動し、今年度も続けることができていることが大きな成果である。
- 児童は通年、「登校班」で学校に登校している。登校中、PTAの方が毎朝旗振りを行うことで、安全・安心に登校することができた。
- 学校図書館ボランティアの活動は、学校図書館の整備や児童への読み聞かせを通して児童の読書活動を充実させることができた。児童の発達段階に応じて選書し、児童が本に親しむ貴重な時間とすることができた。

### <課 題>

- ボランティア活動に取り組んでくださる方は、意欲的に活動をしてくださっているが、固定化する傾向がある。今後も活動を継続してくださった方に加え、新規加入者を増やし、活動を継続することや活動の幅を広げていくことが課題である。

## 5 コーディネーターより

大杉第二小学校学校応援団の13あるボランティア団体は、「できるときに」「できる人が」「できることを行う」ことをモットーに自分の意志で積極的に大杉二小の子供たちのために活動しています。これらの活動は、平成22年5月13日に始まり、今年で14年目となりました。

活動を通して、地域の人がお互いにつながりを深めるとともに、児童にとって、地域にとって、よりよい環境づくりを目指しています。「見守り隊」は、五北町会、大杉町会、保護者の方など、常時20名程度のボランティアの方々が、学校から自宅まで1年生の下校を見守りながら送っています。

昨年度は感染拡大防止の観点から活動を自粛しておりました「ふれあいウエズディ」は、今年度再開し、子供たちと工作やゲーム、折り紙等を通じてふれあいを楽しんでいます。

これら「見守り隊」と「ふれあいウエズディ」の活動は、子供たちの健全育成に貢献する活動であり、私たちの誇りです。今後も、学校、家庭、地域が一体となったボランティア活動を推進することを通して人と人との絆を結んでいくためにも、協力を惜しまない応援団でありたいと思います。

(田崎 國男)

## 6 学校長より

大杉第二小学校は、1975年(昭和50年)の開校よりこれまで、町会やPTA、PTAのOBの方々、地域近隣の皆様に厚く支えていただいております。その中でも、大杉第二小学校応援団は、様々な分野のボランティア団体の皆様から組織されています。学校応援団田崎代表のお言葉にある通り、本校の学校応援団は「できるときに、できる人が、できることを」児童のために行ってくださっています。本年度は見守り隊のみならず、ふれあいウエズディの活動も再開することができ、本校の教育活動を支えていただきました。今後も引き続き、大杉第二小学校の子供たちの健やかな成長のためにボランティアの方々のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

(笠井 三恵子)

# 第三松江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第三松江小学校長      熊田 和則  
 コーディネーター      椎橋 治美

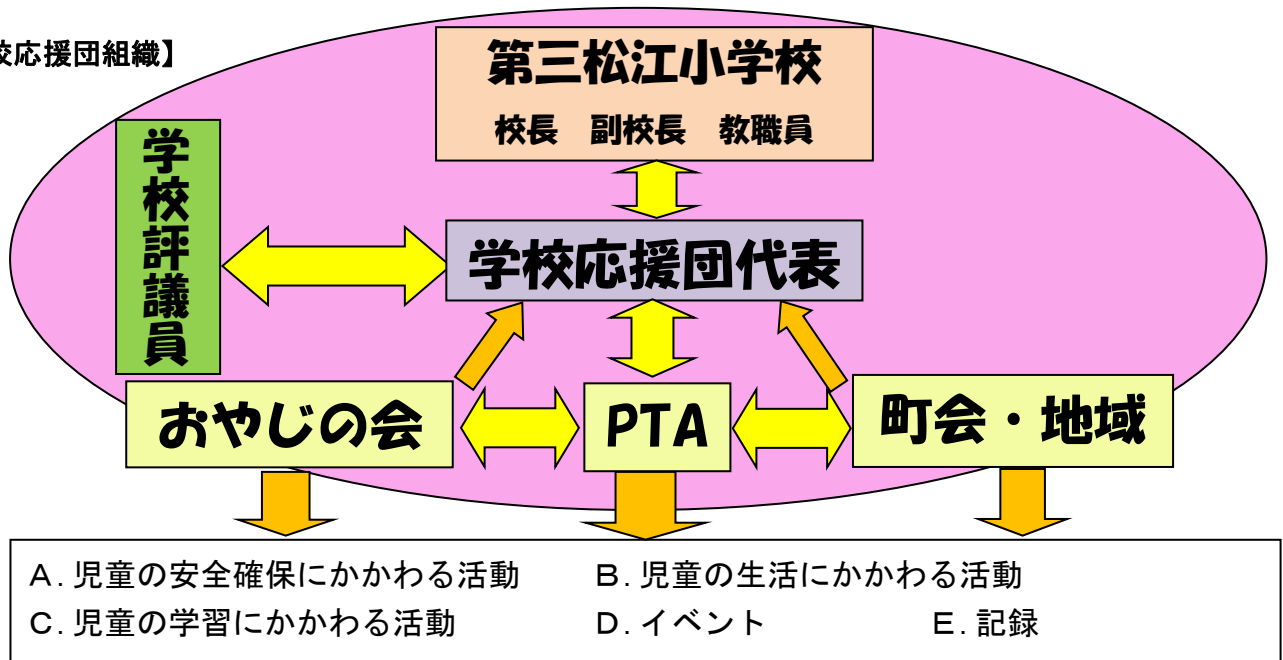
## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	217人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安全見守りボランティア	毎日	46人
読み聞かせボランティア	月1回	50人
図書ボランティア	月3～4回	30人
イベントボランティア	不定期	72人
動物飼育ボランティア	不定期	5人
草花栽培ボランティア	不定期	4人
学習支援ボランティア	不定期	10人

【学校応援団組織】



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

#### (1) 常時活動の定着と充実

登下校時の見守り、読み聞かせ、学校図書館の環境整備等のボランティア活動を充実させることをめざして数々の取組を行った。登下校の見守りは、全登校班に一人ずつ毎日行うことができた。多数のボランティアが登録している読み聞かせでは、全学級で月に1回の読み聞かせ活動を行うことができた。学校図書館の環境整備は、毎週1回行われ、年間を通して季節に合った壁面飾りが見られた。また、新聞記事のスクラップも確実に行うことができた。

#### (2) P T A・おやじの会のイベントの充実

今年は、コロナ禍以前の状態に戻すべく、充実したイベントを実施することができた。7月に「おやじんぴっく」と「PTA 納涼お楽しみ会」を合わせ、運動した後に花火を観て夕涼みをする会を実施した。また、9月末に4年ぶりに「学校宿泊会」を実施することもできた。11月には「三松グランプリ」を実施した。どのイベントも児童の参加率が高く、大いに楽しむ姿が見られた。2月に「おやじランド」、3月に「6年生を送る会」と今後もイベント実施予定があり、P T Aやおやじの会の熱意が感じられる。



### <課 題>

今後は、地域の方々とのかかわりを増やしていくことで、学校応援団の存在や活動内容をさらに地域全体に周知し、協力を依頼できる体制を整えたい。

本校の卒業生がP T Aやおやじの会の行事、学校行事や児童の教育活動に関わることができ、その輪は広がりつつあるが、今後はさらにそれを広げ、幅広い年齢層の応援団を継続的に組織していきたい。

## 5 コーディネーターより

今年度の活動を振り返り、応援団員である保護者、P T A、おやじの会、地域や町会のみなさまにお礼を申し上げます。大きな事故や事件もなく、安全に子供たちが登校し、学習できたのも皆様のお力のおかげだと思っております。

今後も、より「安心・安全な学校」になるよう、皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

## 6 学校長より

5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症になり、様々な制限が緩和されたことを受けつつ、6月までは慎重に感染状況を見極め、安全を確認しました。そして、7月以降はコロナ禍によって希薄になりつつあった絆を取り戻す取り組みを充実させることができたと感じています。そんな中、三松小を見守る地域・町会のみなさん、そして、P T A・おやじの会のみなさんの「子供たちの笑顔のために」という強くあたたかい思いによる、『最高のイベント』を安全に楽しく実施していただきました。

今後も「学校教育目標」達成に向け、三松小らしく前向きに教育活動を進めて行ければと思います。どうぞこれからも、引き続きご支援ご協力をよろしくをお願いいたします。

# 大杉東小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

大杉東小学校長 高橋 真  
 コーディネーター 水越 晃



## 2 ボランティア数（令和6年1月末現在）

見守り隊

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	72人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
見守り隊	毎日	31人
図書館整備	毎週火曜日	16人
読み聞かせ	不定期(月2回)	12人
サポーターズ	花火大会(年1回)	13人

### 大杉東小学校学校応援団

#### 地域・町会

- ・見守り隊
- ・学校行事補助

#### PTA・保護者・サポーターズ

- ・見守り隊
- ・学校図書館整備
- ・学校行事補助
- ・読み聞かせ
- ・各委員会活動
- ・登校見守り(旗振り)
- ・花火大会
- ・サイエンスショー

#### すくすくスクール

- ・絵手紙教室



図書館整備



読み聞かせ



寄席



学校行事補助



サイエンスショー

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・「大杉東小学校見守り隊」の活動が5年目となりました。今年度も保護者の皆様、地域の皆様と連携し「大杉東小学校見守り隊」を募集したところ、31名もの方々に賛同いただきました。また、令和2年度から小松川警察署交通課交通総務課「通学路安全呼びかけ隊」とも兼ねて活動しております。配付した「見守り隊」のベストを着て、自分のできる範囲で登下校の際に路上に立って見守っていただいています。今年度も交通事故の報告はありませんでした。これも保護者のみでなく、地域の目もある中で、児童の安全な通学が守られているからです。ありがとうございます。
- ・PTA旗持ち活動では、PTAの方が毎朝旗振りを行い安全・安心に登校することができています。
- ・図書ボランティアでは、毎週火曜日、学校図書館の本の修理や掲示物作成等の活動等を行っていただいています。季節を感じる掲示物をたくさん作っていただき、学校図書館が明るく楽しく使用できています。
- ・読み聞かせボランティアでは、不定期で月に2回程度、低・中学年に読み聞かせを行っていただいています。子供たちは、読み聞かせを心待ちにしています。
- ・今年で2年目になりました。前教育長の千葉孝先生に4年生の国語科の学習で落語を披露していただいています。子供たちは話に引き込まれ、楽しく体験させていただいています。

### <課 題>

新型コロナウイルス感染症が5類に引き下がったが、コロナ前にすべて戻すのではなく、以前の良かったところとコロナ禍での良かったところを合わせて、これからの時代にあった視点で活動内容を見直していく。また、「学校や地域、保護者がより連携できる活動は何か。」という学校応援団の内容について現場のニーズを検証して、さらに充実が図れるようにしていく。

## 5 コーディネーターより

保護者や地域の皆様方には、大杉東小学校の教育活動を支えていただいています。今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類に引き下がったので、夏休み明けの9月2日（土）に松江第四中学校の校庭をお借りしてサポーターズが花火大会を行いました。たくさんの方に参加していただきました。今後も少しでも大杉東小学校の教育活動のお手伝いできればと考えております。これからも継続して、学校と地域、家庭を結ぶお手伝いという応援を行っていきます。子供たち自身が地域の一員としての自覚がもてるよう協力して育てていきたいと思っています。ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

代表 水越 晃

## 6 学校長より

2年目の仮設校舎での生活。子供たちは様々な制限の中でも、学校応援団の皆様のサポートにより楽しく学校生活を送ることができました。また、見守り隊の皆様や旗振り当番の保護者の皆様のお陰で安全に登下校できています。日頃から子供たちを温かく見守り応援して下さる皆様に感謝申し上げます。また、今年度は開校70周年の記念すべき1年でしたが、各種記念行事も子供たちは立派に成し遂げました。

さて、いよいよ4月から新校舎での学校生活が始まります。まだ校庭の整備があるため運動場所などの制限はありますが、新しい環境における、子供たちがさらに輝く教育活動を展開したいと考えています。工事場所が変更する関係で、通学路に若干の変更がありますが、これまで同様、皆様のご支援をいただき安全に登下校させたいと思います。今後も学校は、「地域とともに歩む学校」「児童・保護者・地域の信頼に応える学校」を目指し、努力してまいります。ご理解並びにご協力をよろしくお願いいたします。

校長 高橋 真

# 東小松川小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

東小松川小学校長      高木 伊織  
 コーディネーター      池上 千恵子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	94人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
蓮田栽培支援	4月(蓮植え)、11月(蓮掘り) 不定期(蓮の世話)	24人
図書整備ボランティア	毎週木曜日	6人
学校行事支援	不定期	52人
おやじの会(行事支援)	不定期	12人

### ◇活動の様子



#### [蓮の栽培活動]

#### [図書ボランティア]

#### [学校行事支援]

- ・本校の特色ある教育活動を理解いただき、協力を得て取り組んでいます。
- ・仮設校舎での教育活動を支えていただき、また、多くの協力を得ております。
- ・不定期な取組もありますが、何年も継続して協力を得ています。

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 今年度は仮設校舎での教育活動が2年目となり、また、新校舎の建設工事が進められています。このような中、本校の伝統である蓮田の活動を継承するため、蓮田を守る会の皆様やPTAの本部役員の皆様、おやじの会やボランティアの皆様にご支援ご協力をいただきました。そのおかげで、4年生の代表児童による蓮植え、蓮堀体験や全校児童が蓮田の活動を見学しました。学校が新しく生まれ変わる中、長年続いている伝統行事を学校応援団の皆様のご協力により継承することができました。
- PTA本部役員をはじめ、ボランティアの方々の協力により、近隣校での運動会の実施、学習発表会での保護者の誘導、学校公開での受付などご支援いただきました。仮設校舎の中、児童が安全・安心に学校生活を送ることができました。
- 図書ボランティアの方々が、松江図書館司書と共に丁寧に図書整備を行ってくださり、学校図書館が活用しやすくなりました。

### <課 題>

- 感染症対策を講じる中、学校応援団の活動を特にご年配の方にこちらが依頼することが難しいと感じます。
- ボランティアの方が固定化する傾向にあります。また、活動内容によっては、ボランティアの方の確保が難しいこともあるので、より多くの方に関わっていただけるように働きかけていきます。

## 5 コーディネーターより

- 今年度も、感染症対策に加え新校舎建設工事のため教育活動に制限が加わった中での応援団活動となりました。このような中でも、蓮田活動や図書ボランティア、学校行事支援等、学校応援団の皆様のご協力により、状況に応じた活動を展開することができましたことに深く感謝申し上げます。今後もコーディネーターとして、地域の皆様、保護者の皆様にご協力をいただきながら活動の幅を広げ、児童がより安全に楽しく学校生活を送れるよう尽力したいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

- 仮設校舎での教育活動が2年目となり、新校舎建設工事が進む中、今年度も蓮田を守る会をはじめ学校応援団の皆様のご協力により蓮田活動を継続して行うことができました。蓮田の周りにはプレハブの仮設校舎や新校舎の建設と環境が変わりましたが、これまでと同様に立派な蓮に育ち、本校の良き伝統と地域とのつながりを児童に伝えることができました。また、近隣校での運動会の実施、学習発表会での児童の安全管理や保護者の誘導、図書ボランティアや学校公開での受付など、実に多くの皆様にご協力いただきました。感染症拡大防止対策を継続する中でも、年間を通して本校の教育活動を支援していただきましたことに感謝申し上げます。今後も皆様のお力をお借りしながら、教育活動をさらに充実させてまいります。ご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 船堀小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

船堀小学校長                    山下 靖雄  
 コーディネーター            田中 寿士

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	644人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館ボランティア	月2回	20人
おはなしボランティア	週1～2回	20人
安全見守り隊	週5回（月～金曜、および土曜授業）	3人
おたすけ隊	不定期	40人



今年度から、コロナ感染症が5類に移行したことにより、これまでの制限がなくなり、通常の活動に戻りました。

学校応援団の皆様のたくさんのお力と創意工夫のおかげで、有意義な活動を行うことができました。





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・これまで行っていた図書室の環境整備や、校舎2階の中心に位置する「絵本コーナー」の環境整備は、ここ数年、コロナ感染症の影響で規模を縮小した形で実施していたが、今年度は従来の「月2回」のペースで定期的に行うことができた。児童の読書活動および読書環境の充実のため、有意義な活動になった。
- ・読み語り（おはなし）ボランティアについても、ここ数年、コロナ感染症の影響で規模を縮小した形で実施していたが、今年度から週1～2回のペースで定期的に行うことができた。児童に読書の世界の楽しさを味わわせることができた。
- ・妨げなく図書館の団体貸出しの選定が実施できたことで、児童が様々な種類の本に触れることができ、読書の世界を広げることができた。
- ・おたすけ隊の活動の一環として、昇降口の時計の飾り付けや絵本コーナーの装飾、各学年の掲示資料など、校内の掲示物を季節に合わせて準備していただいた。特に各学年の掲示資料については、ことわざを覚えられるような布製の掲示物や、算数のかけ算九九を覚えられるような掲示物を整備していただき、児童が日常的に楽しみながら学習することができた。
- ・登校時に、登校班による集団登校実施した。その際に、毎日の登校の見守りを、旗振り当番を中心に継続的に実施し、児童の安全を守っていただいた。
- ・例年実施していた「船小まつり」やおやじの会の各種イベントは、従来の形で開催できた。今後に向けての方向性や課題についても改めて確認することができた。

### <課 題>

- ・例年行っていた、葛西地区の重要な産業であった海苔漉きの体験や地域の昔の話を聞く学習については、昨年度に引き続き今年度も中止とした。今後の活動の在り方を検討し、授業の中で地域について学び、地域を愛する心情を育てていきたい。
- ・コロナ禍を経て、学校応援団としての在り方や、どのような活動が有意義か、模索していく。
- ・学校応援団と教職員との連携をどのように図るか。
- ・活動の活性化を図るため、学校応援団の活動を学校だよりやホームページ等を活用して、さらに広めていく。

## 5 コーディネーターより

昨年度までと違い、今年度の活動はコロナ禍の制限がない、通常の形の活動となりました。コロナ禍で培った工夫や学びを生かしながら、有意義な活動を行うことができました。保護者や地域による「多くの大人の目や手」は、子供たちにとっては貴重なものであり、それによって子供たちの安全が守られ、充実した学びの体験となるので、今後も継続して、子供たちの心身の成長を豊かにする取り組みを、学校とともに積極的に行っていきたいと思っております。

## 6 学校長より

コロナ禍の制限がない通常の形の活動となり、「地域を愛し、次の時代を担う意識」を育むために、地域の自然や施設、文化を地域教材として、それらを知り尽くしている学校応援団のお力を借りながら、子供たちの興味関心を高めることができました。学校応援団の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。引き続き、来年度以降もどうぞよろしく願いいたします。

# 船堀第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

船堀第二小学校長      則岡 小織  
 コーディネーター      生井 敏昭

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	35人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
体験活動支援 親児の会 P T A	ウォークラリー（4月） 夏季デイキャンプ・起震車体験（7月） 船二オリンピック&秋の運動王決定戦！（10月） 縁日風 花火大会（12月）	10人
登校見守り	週5回	25人



↑ 船二オリンピック&秋の運動王決定戦！（10月）

→ 縁日風 花火大会（12月）



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 今年度は7月にデイキャンプを実施しました。昨年度よりも活動の範囲を広げ、起震車体験や、カレーライスなどの炊き出しも行いました。
- 10月には「船二オリンピック&秋の運動王決定戦！」を行い、親子で走ったり投げたり、思いっきり体を動かし、体力測定を行いました。親子で挑戦する姿も見られ、保護者の方もお子さんと一緒に楽しく参加していただきことができました。
- 12月には、「縁日風 花火大会」を実施し、フランクフルトや揚げパン、スーパーボールすくいなどの模擬店や校舎屋上を超える見事な打ち上げ花火など、大勢の参加者を魅了する出し物が盛りだくさんでした。一日笑顔で楽しむ子供たちの姿を見られました。
- 登校見守りボランティアの方々には、児童の登校の様子等を見守りに加え、通学路で危ない箇所はないか実際に見た上でのご意見もいただき、今後の生活指導にも役立っています。

### <課 題>

- 親児の会では、昨年度よりも今年度、今年度よりも来年度と、より楽しいイベントを考えているところです。新型コロナウイルス感染症の影響は昨年度までのほどではないとはいえ、実施時点でのインフルエンザなどの感染状況を踏まえ、夏の高温による熱中症や食中毒防止などの安全面・感染症対策を第一とした計画を立てる必要があります。そのためには、地域・保護者の方々の理解が必要です。児童に楽しい体験をさせるためにも、引き続き皆様のご協力をお願いしたいと思います。
- 児童の登下校の安全を守るためには、大人の見守りが必要不可欠です。車通りの多い場所や、見通しの悪い所など、事故や事件を未然に防ぐためにも、より多くの目があると安心です。

## 5 コーディネーターより

船二小の学校応援団としては、地域と協力して子供たちが安全に過ごせる街を目指しています。船堀は古くからの歴史ある地域としての面と、駅を中心とした新しい発展をとげた面をもち、新旧様々な素晴らしい文化がたくさんあるところです。今後も共働で活動する場面を設定し、多くの方々と学校を応援する態勢を築いていくことで、地域を愛する子供たちが増えてくれれば、と願っています。

## 6 学校長より

今年度は、昨年度よりもさらに活動の範囲・種類が広がり、子供たちだけでなく、一緒に参加してくださった保護者の方々の明るい笑顔を見ることができました。多くの友達・保護者の方々や地域の皆様と一緒に過ごす時間は、子供たちの成長にとって貴重なものだと感じました。

今後も保護者・地域の方々にご理解・ご協力いただけるように、学校の様子をお伝えしていくとともに、子供たちの良いところをさらに伸ばしていけるような取組を考えてまいります。引き続きご支援いただけますよう、よろしく願いいたします。

# 葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

葛西小学校長            内野 雅晶  
 コーディネーター      石川 勝

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	約70人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み語り	週1回（毎週水曜日）	43人
学校図書館環境整備	週1回（毎週水曜日）	23人
登校見守り	不定期（ほぼ、週2、3回）	5人
下校見守り	不定期（ほぼ、週2、3回）	5人

朝の「読み語り」



LAS図書館整備



「お話集会」



登下校見守り



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・学校図書館ボランティア(LAS)の活動により、学校図書館内の本棚は綺麗に整った状態であった。壊れた本の修復にまで力を入れてくれているので、常に児童にとって綺麗な本を手にすることができた。学校図書館内の細かなところにまで気を配っており、児童が使いやすいように工夫されている。
- ・読み読みの活動を今年度も実施した。水曜日の朝に行っている読み読りは、担任や自分の親以外の大人たちから本を読んでもらうことで、児童は真剣に話を聴き、話の内容を理解しようとする姿が見られた。
- ・12月の「お話集会」では、今年度もLASの方が綿密に計画を立て準備をし、本番当日には児童にとって面白く、そして興味深い発表をしてくださった。読み方はプロの読み手のように感じ、児童は質の高い読み聞かせを聴くことができた。発表後には児童から大きな拍手が贈られた。
- ・登下校の見守りの方には、多数の目で児童の安全を見守ってもらい、児童は安心して登下校することができた。特に東門を出た所の車道を渡る児童の安全を見守っていただき、大きな交通事故がなかった。

### <課 題>

- ・今年度も学校図書館ボランティア(LAS)の活動におけるデジタル化の課題が残ってしまった。パソコンやiPad等のタブレットを活用できるようになると、LASの方の負担は減ると思われるので、今後学校応援団予算等で購入できないか検討を行っていきたい。
- ・ボランティア活動の更なる発展のために本校としてどのような活動ができるのか検討をしていく。他校がどのような活動を児童のために実施しているのか情報を集めていき、新たな活動を模索する。

## 5 コーディネーターより

LASの皆さんのおかげで、常に学校図書館は整備されていて、図書館を利用する児童にとってただ本を読む場という意味合いではなく、憩いの場となっているようです。「お話集会」を今年度も実施していただき、質の高い読み聞かせを実施して下さったことは嬉しい限りです。葛西小学校や葛西中学校の全児童生徒のために活動していただいていることを心より感謝しております。

児童の交通安全を見守る地域の方々にも大変お世話になっております。特に下校時、東門から下校する児童が交通事故に遭わないよう、安全な歩行の声掛けを含めた見守りをしていただき、お陰様で事故なく登下校を行うことができます。

葛西小学校応援団として、児童のことを大切に思う気持ちを地域と共に育み、そして努めてまいりたいと考えています。どうぞ、今後ともご協力よろしく願いいたします。

## 6 学校長より

葛西小学校応援団の方々への活動は、児童にとって目立つような華やかなものではなく、地味で目立たなく、それでも児童のことを想って取り組んでくださる大切な活動だと認識しています。本校の教育活動が滞りなく行われているのも、応援団の方のお力添えによるものと感謝しております。

登下校時の見守りは、本校が今年度より登校班を一時休止としていることからすると、とてもありがたい活動です。見守り隊の方の声掛けや存在は児童の事故の未然防止につながっています。今年度も大きな交通事故がなく、本当に感謝しています。

学校応援団の方々には様々な場面でお力添えをいただき、児童の成長に多大な影響を与えてくださりました。今後も、学校と保護者、地域の皆様と互いに良い関係づくりをしながら、葛西小学校の児童を育てていきます。

# 二之江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

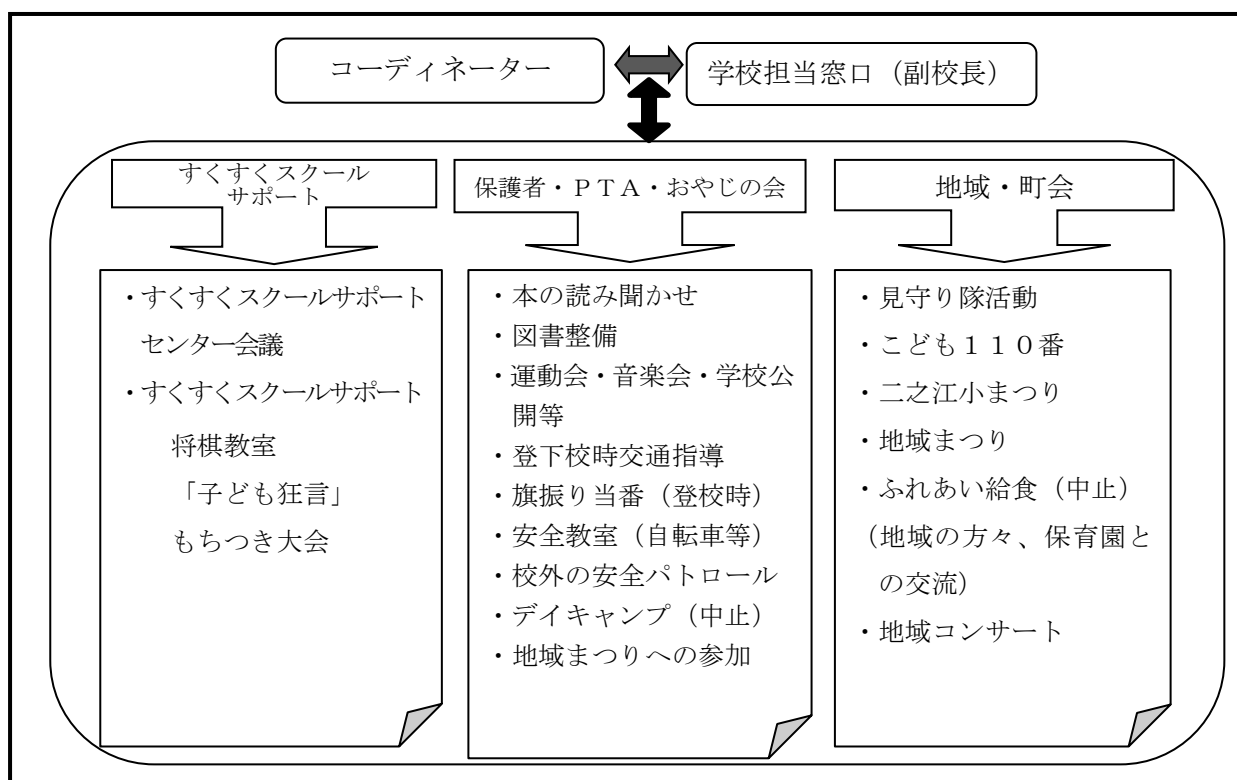
二之江小学校長 大須賀 慎一  
 コーディネーター 須賀 英昭

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	354人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ・お話の木	毎月1回	29人
図書整備	毎月1回	28人
登下校の安全	週5回	327人
行事支援・催し	不定期	135人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 1 読み聞かせボランティアによる月1回の読み聞かせが4月から定期的実施となり、児童が本に親しみ、朝の読書活動が充実した。読み聞かせボランティアには新たに1名の保護者が加入し、総勢29名での読み聞かせが可能となった。書画カメラで挿絵を大きくテレビに映し出し、教室後方の児童にも見やすくするなど適宜工夫をしながら取り組むことができた。学校応援団の委託金を使用して、より読み聞かせを実施しやすくし、児童の読書への興味関心を高める環境整備を行う。
- 2 本校は学区域が広く登校時の見守りの場所も多い。PTA校外委員会の調整を経て実施する保護者による「朝の見守り当番」、PTA成人委員会の長期休業中パトロール、地域の方のご理解ご協力により児童の安全が保たれ、防犯の強化が推進された。
- 3 運動会では、本校校庭が造成中のため使用できず葛西小学校で行ったため、受付や自転車置き場の案内、準備や片づけ等の支援をいただいた。

### <課 題>

- 1 地域やPTAの人材を探す。
- 2 新たな応援団の活動を構築する。

## 5 コーディネーターより

二之江小学校は古川親水公園に隣接し、また、統合した二之江第三小学校も新川が近くに流れ、両校ともにとっても地域に密接した学校です。特に歴代のPTAのOB会やおやじの会が中心となり、すくすくスクールの行事や伝統ある地域行事等に取り組んできました。皆、とても協力的です。

今年度は地域の行事が復活し、7月には「二之江神社まつり」「古川まつり」そして本校PTA主催「二之江小まつり」を11月に実施することができました。児童、保護者、地域の人たちがそれぞれ楽しめて、参加してよかったと思える祭りでした。今後も催し物をたくさん企画していきたいと思います。そして、児童と大人が古川・新川の自然の中でよりたくさんの思い出を作り、地域を愛する心を育んでもらえたらと思います。二之江小学校のコーディネーターとして皆様のご支援・ご協力を切に願う次第です。

## 6 学校長より

平成22年度から実施された「学校応援団」の取り組みは、学校を応援してくださる様々な方々のご協力をしっかりと意識できるよい機会となっています。地域やPTAのみならず、「おやじの会」の協力も、学校応援団としてとても大きな力となっています。多くの方々が、児童のために学校応援団として活躍してくださることは、とても喜ばしいことです。

本年度はコロナが5類扱いとなり、コロナ以前の状況にだいぶ戻りました。地域のまつりが復活し、大勢が集い、一緒に楽しむことができるようになりました。そのような状況下において、皆様方の心強いご理解とご支援は、本校職員一同が児童や地域のために一層頑張る大きな原動力になっています。

今後も子供たちのために学校と保護者、地域の皆様が相互の信頼で結ばれ、協力し合える二之江小学校を目指してまいります。

# 二之江第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

二之江第二小学校長      杉山 勇  
 コーディネーター      石澤 多恵子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
グリーンボランティア	月1回程度 不定期	4人
蓮田愛育会	4月蓮植え ・ 11月蓮掘り	7人
え・ほんの会	読み聞かせ月1～2回 図書整備不定期	35人
飼育ボランティア	連休 長期休業中	10人
金魚の養殖の紹介	4年生 年1回	1人
学習ボランティア	不定期	5人
登校ボランティア	週5回	9人

グリーンボランティア



運動会や周年記念式典、音楽会、卒業式前に、花壇に花を植えていただいています。

蓮田愛育会



3年生が、蓮の体験を行っています。植え方や掘り方等を教えていただいています。

え・ほんの会



朝学習の時間に、全学年への読み聞かせや、書籍の管理をしていただいています。



### 金魚の養殖の紹介



4年生が、実際に養殖場へ行き、金魚の養殖について学んでいます。

### 学習ボランティア



3年生以上の算数少人数学習に学習ボランティアとして支援していただいています。

### 登校ボランティア



毎朝、全校児童が安全に登校できるように見守ってくださっています。

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

今年度は、新たにボランティアを募集しました。PTAの方が、新たに登校ボランティア活動を始めてくださっています。安全に登校できるように見守っていただくことと、登校を渋ったときにお迎えなどもお願いできています。また、コロナ禍で滞っていた学習ボランティアも新たに始められました。特に、算数少人数の学習時や、外国語籍の児童への学習支援をお願いすることができています。

### <課 題>

新たにボランティア活動を始めてくださった方がいらっしゃいますが、なかなか長期的な継続や頻繁な活動への参加が難しい状況です。地域の方々に広く呼びかけ、応援団の活動内容をアピールしていき、さらに活動を活発にしていきたいと考えています。

## 5 コーディネーターより

本校の学校応援団の活動は、約10年前から始まりました。今年度も、学習支援・校内環境整備・飼育・読み聞かせなど多岐にわたって支援することができました。学校の教育活動を支え、保護者や地域の皆様と協力し合い、活動を広めたいと常に考えてきました。今後も、子供たちの笑顔のために、できることを模索しながら活動を広げていきます。

## 6 学校長より

ポストコロナとなり、開校50周年の記念行事も深め充実してきました。多くの学校行事や学習活動の中で、子供たちの笑顔が多く見られた1年でした。子供たちのため、学校のために活動していただいたボランティアの方々に厚くお礼申し上げます。

令和元年度より応援団長を引き受けていただいた堀口様をはじめ、石澤コーディネーター様、地域、保護者、PTA及びPTAのOB等多数の方々が一体となり、きめ細やかに子どもたちの安心安全と健やかな成長のために活動していただいています。

これからも、学校と共に児童の健全育成に向けて、ご支援・ご協力をお願いいたします。

# 第二葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第二葛西小学校長 平川 惣一  
 コーディネーター 五十嵐 英男

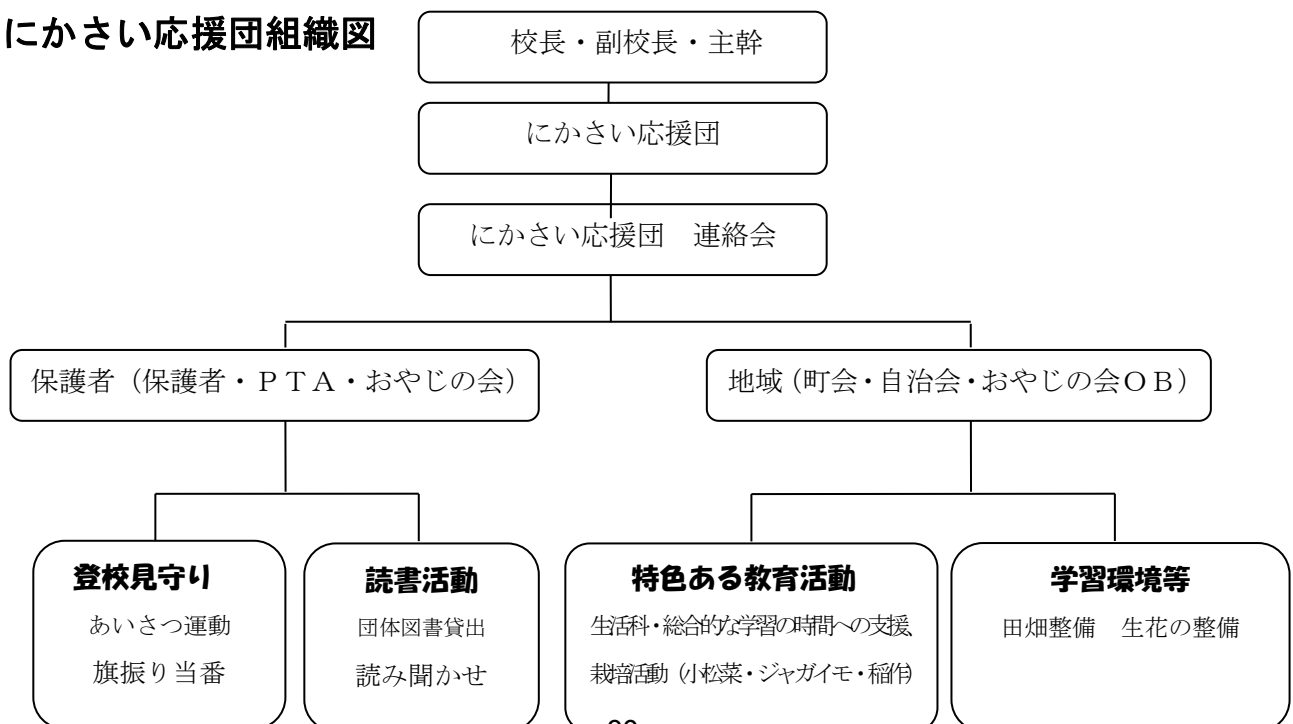
## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	784人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書室整備	毎週金曜日	225人
読み聞かせ	不定期	151回
団体図書貸出	月1回(年10回)	105人
登校見守り	週5日	770人
集団回収	常設	490人
おやじの会イベント	7月 11月 3月	150人

### にかさい応援団組織図



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

第二葛西小学校は、たくさんの善意で支えられており、学校応援団のみなさんは「子どもたちのために」を合言葉にさまざまな活動に取り組んでくださっています。今年度は、登校時の見守り（旗振り当番）、東葛西図書館の団体貸し出し、各教室での本の読み聞かせや集団回収等 PTA 活動の支援など、日常的な取組を継続していただきました。さらに、おやじの会のみなさんには、土曜授業日の登校見守りや二葛西祭り、地域のお祭りへの協力、災害時用テントの設営やクリーン作戦を中心とした親子イベントなど、企画力にあふれる計画と、連携の取れた役割分担で子どもたちを楽しませてくれました。

登校時の見守りには多くの保護者やおやじの会のみなさんが児童の安全を見守ってくださいました。学校応援団のみなさんの活動のおかげで、学校生活がより充実し、安全に送ることができました。

### <課 題>

今年度は、コロナ禍の制限から通常通りの活動に戻しています。そのため、3年前どのように活動していたか分からない部分があり、引き継がれていないことや再始動にあたり準備に時間がかかることがありました。その反面、漢検など新しい活動にも取り組んでおり、実施にあたっては、昨年度の反省を生かし実施時期や方法を改善しています。参加児童も200人近く、児童にとっても保護者にとってもよい活動となりました。今後も、今までの活動を見直しながら、充実した活動になるように工夫していきます。

## 5 コーディネーターより

「にかさい応援団」の活動は、地域の方々と PTA、おやじの会が協力して活動しています。コロナ感染症対策のため制限されていた活動も通常通りの活動ができるようになりました。図書館団体貸し出しのおかげで、学校の図書活動を充実させることができます。毎月、図書館に選書に行くことはたいへんなことですが、朝の読書タイムで子どもたちが本を選んでいる姿を見ると、にかさい応援団の活動が役に立っていることを実感できます。

今後も活動を続け、さらにその内容を充実させていくことを大切に、これからも「にかさい応援団」の活動を支援していきます。

## 6 学校長より

本校では、平成22年から学校応援団を「にかさい応援団」と名付け、10年以上がたちます。保護者、地域の皆様と一緒に子どもたちを育てることを目的にしております。

今年度も旗振り当番、図書室整備、読み聞かせなど、様々な取組の中で子どもたちを育てていただきました。今年度から通常の活動が再開されており、9月末には二葛西まつりも3年前と同じ形で再開され、たくさんの児童が楽しんだり、地域の方が参加したりして、楽しく活気のあるお祭りになりました。

さらに、おやじの会のみなさんが、子どもたちの楽しめる企画を立て、用意周到に準備し完成度の高いイベントを実施してくださいました。

こうした活動のおかげで、第二葛西小学校の児童は、支えられており楽しく学校生活を送ることができています。未来に向けて子どもたちの可能性を大きく広げるためにも、「にかさい応援団」の活動を今後もより一層充実させてまいります。

# 第三葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第三葛西小学校長 佐々木 恵子

コーディネーター 由良 江美子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	432人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登校の見守り	週5日	435人
図書ボランティア	週1回	10人
親子安全見守り隊	年2回(6月・12月)	40人
夏休みパトロール	夏季休業中(13日)	200人
校外学習安全見守り	不定期	10人



(読み聞かせの様子)



(図書室前の季節掲示)

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

保護者による毎朝の見守り当番の協力により、登校時の事故が無く安全に登校できている。ときに、警察と連携して行うこともできた。また、親子安全見守り隊の活動時に、通学路の危険な場所のアンケート調査を行い、危険箇所がどのように危ないかを記した安全マップを配布し、情報を共有できた。

図書ボランティアでは、学校図書館の環境整備と児童への読み聞かせを実施していただいた。定期的に季節や行事に関連した掲示物の飾りつけや本の紹介をしていただき、子どもたちの読書意欲も高まり、読書の幅を広げることができた。

### <課 題>

登校時、スクールゾーンを自転車や信号無視をしたり、スピード出して逆走したりすることがあり、児童の安全確保に苦慮している。児童には道路横断時には信号が青でも気を付けて渡るよう注意を呼び掛け、警察等と連携して対応していく。

ボランティアに参加できる人員確保が難しくなっている。学校応援団という組織の周知を工夫し、より多くの人に関わっていただけるようにしていきたい。



## 5 コーディネーターより

より多くの保護者や地域の方々に積極的に参加・協力していただけるような活動や体制づくりを今後も続けていきたい。子どもたちの心身の成長を豊かにする取り組みを学校、保護者、地域が一体となって実践していく。また、活動の幅を広げられるように呼びかけていく。

## 6 学校長より

本年度はコロナ禍以前までのことがたくさんできるようになった。多くの学校応援団の皆様が子どもたちを応援して、様々な取組をしてくださったおかげで、子どもたちのたくさんの笑顔が見られた。また、安全を守るための活動も変わらずに続けてくださっている。来年度も、コーディネーターの方を中心に多くのボランティアの皆さんと協力し、子どもたちのために教育活動をすすめていきたい。

# 第四葛西小学校 学校応援団 実践報告書



(マスコット ダイヨンくん)

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第四葛西小学校長 永浜 幹朗  
 コーディネーター 堤 尚之

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	571人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
葛西さざなみ会	年3回	10人
登校見守り	週5回	571人
図書読み聞かせ会	1・2・3年生 月1～2回	16人
行事支援	月1回	30人

### 田植え・稲刈り・餅つき体験



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 今年度はアフターコロナという環境になり、コロナ前の活動を少しずつ再開できるようになりました。保護者やPTA、地域の方々の多くのご協力をいただいて、体験的な活動を行うことができました。特に、登校見守りでは、「おはようございます」という挨拶や交通安全への声かけのおかげにより、登校時の事故ゼロを継続しています。第四葛西小の子供たちは、地域に見守られていることを実感し、感謝の気持ちが更に育ってきています。
- 葛西さざなみ会さんには、前年度に引き続き、田植え・稲刈り・海苔すき体験を実施していただきました。今年度はさらに餅つきの体験ができ、活動内容が充実しました。
- 継続して行っている1・2・3年生の読み聞かせでは、本への興味をもつ児童が増えており、たくさんの本に触れ合う機会となっています。学校図書整備や、読書週間の活動も継続して行います。
- サマーキャンプ、四小ふれあいまつりでは、開催準備から当日の進行まで協力していただいたことで、子供たちが地域の方々とふれあう機会となりました。子供たちの笑顔がたくさんあふれていました。

### <課 題>

- 今後も更に、学校応援団と学校がさらに協力し安全面に配慮しながら子供たちへの体験的な活動を充実させていきます。
- 活動協力団体の高齢化により、活動の継続が懸念されます。

## 5 コーディネーターより

- 例年は、地域の方、学校、PTAの多くの方々と協力し合いながら、子供たちや参加者の皆様と触れ合うことができていました。今年度は、体験活動が増えて、児童とのふれあいが増えて楽しく活動ができました。来年度も充実した活動ができるようにしていきます。さざなみ会さんには大変お世話になっております。来年度も充実した活動ができるよう、よろしく願いいたします。

## 6 学校長より

- 多くの方々のご協力の上、アフターコロナ禍での活動に取り組んでいただき、感謝しています。本校の伝統を大切に受け継ぎながら、学校応援団の活動を通して、さらに「笑・楽・好（しょう・がっ・こう）」のキャッチフレーズのもと、楽しく学校に通い、子どもたちの笑顔があふれる学校になるよう尽力していきます。

# 第五葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第五葛西小学校長 田中 雅生  
コーディネーター 田中 成治

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	104人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
見守り隊	週5日	42人
読み語り	月1回	36人
図書環境整備	月1回	26人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 「見守り隊」の活動によって安全な登下校を行うことができた。
- 「見守り隊」の方々へ学校だよりを配布する際に、下校時間のカレンダーを配布している。
- 読書ボランティアの方が、季節ごとに様々な掲示物を作ってください、児童への読書の意欲が高まった。
- 今年度から、図書館サテライトが始まり、図書館整備の環境がさらによくなった。掲示板なども共有することで内容が充実した。
- 読み語りの活動は児童も毎月、楽しみにしており、読書活動への興味関心が高まっている。読書に親しむ児童が増えた。

### <課 題>

- 「見守り隊」の人数が減る傾向にある。募集しているが、人員が増えないことが課題である。
- 読み語りは卒業後のボランティアの方も多く、今年度の活動の積み重ねを生かし、さらに充実した活動を行っていく。次年度に向けた引き継ぎを行う。

## 5 コーディネーターより

- 地域の方々とも協力し、学校応援団の代表として、日々努めてきました。「見守り隊」「学校図書館ボランティア」「読み語り」等、来年度もぜひ継続いただきたいと思っております。フェスタなどのお祭りも今年度は開催されました。今後の学校応援団の更なる充実を心掛けて取り組んでいきます。

## 6 学校長より

- 子供たちの安全・安心と豊かな学びのため、学校応援団の皆様の日頃の多大なるご協力とご支援に深く感謝申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類相当となり、様々な学校行事では、多くの地域や保護者の方々にご参加いただきました。また、教育活動やPTA活動につきましても、地域、保護者、学校が一体となり、推進してきました。

「見守り隊」の皆様には、今年度も雨の日も風の日も通学路の安全を欠かさず見守っていただきました。下校時刻の関係で、1日に何度も登下校を見守っていただくこともありました。

また、学校応援団による読み語りのボランティア活動も充実し、子供たちは金曜日の読み語りを大変楽しみにしていました。様々な本を読み語っていただくことで、子供たちの読書への興味関心が一段と高まりました。

今後も、地域や保護者の皆様と学校との絆を一層強くし、教育活動の更なる充実を図っていきます。これからもどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

# 第六葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第六葛西小学校長      中山 和義  
 コーディネーター      関口 光治

## 2 ボランティア数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	149人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
ぶっくまま・ぶっくままサポート	週1回(毎週木曜日)	79人
読み聞かせ	各クラス月1回(不定期)	70人
登下校安全指導	週5日	(523人対象) ※月2回募集
授業の補助	週1回(毎週水曜日)	2人
安全教室の補助	不定期	55人
行事支援・六雄会	各行事	40人



たこ作り



図書整備



自転車運転免許教室(3年生)



朝の読み聞かせ



ろくっこまつり  
47



サマーキャンプ(デイキャンプ)

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 1 昨年度まで中止や縮小となっていた学校応援団の皆様による活動は、5月の新型コロナウイルスの5類移行に伴い、5月以降、コロナ以前の活動に戻っていった。活動の際には、4年のブランクを徐々に取り戻すよう無理のない形で工夫して活動していただいた。
- 2 子供たちが毎年楽しみにしている「ろくっこクラブ」の活動は、4年ぶりに飲食を伴う形で行った。今年度で2回目となる「縄文土器を作ろう」の活動は、土器と一緒に焼き芋作りも行い、たくさんの親子が楽しい時間を過ごすことができた。
- 3 読み聞かせ活動は、コロナ前の形に戻し、対面式の読み聞かせに戻していった。子供たちは絵本の世界を大いに楽しむことができた。また、学年合同の読み聞かせスペシャルも実施していただいた。
- 4 図書室の環境整備を展開していただくことで、子供たちが「本が好きになった」、「本で学びたい」という意識の向上があり、読書への関心が一層高まった。
- 5 安全に関しては、日常的な登下校の見守りに加え、12月6日には「安全・安心パトロール」を実施し通学路の安全を確認していただいた。

### <課 題>

- ・ 保護者の関わりが多い応援団は、子供たちが卒業をすることで、人的な確保をどのように進めるかが常に課題である。さらに、アフターコロナにおいてコロナ前の内容に戻すには保護者の負担が大きいものもあり、新たな活動の工夫が求められている。
- ・ アフターコロナ後においても、新入生の保護者をボランティアにお誘いする機会が減り、人的な確保が難しくなっている。

## 5 コーディネーターより

家庭や学校だけでは体験できないことが応援団の皆さんのご努力・ご尽力により体験できることは嬉しい限りです。同時に子供の時の快感体験は成長しても忘れることのない思い出になり、次の世代に引き継いでいこうとする力になると考えます。

今年度はアフターコロナということで、できる活動がコロナ前に戻りつつあります。コロナ後の新しい活動の形を模索しながら、これからも学校の活性化とともに地域の活性化にもつながる「応援団の活動」をいっそう広げていきます。代表としてさらに活動を推進したいと考えています。

## 6 学校長より

保護者・地域の皆様による「応援団活動」は、子供たちが「保護者や地域」の温かい気持ちを感じるいい機会を生み出しています。「うちの地域の子供たち」の意識は、地域安全にもつながります。

今年度は新型コロナウイルスの5類移行を受けて、各活動がほぼ元の形に戻りました。アフターコロナにおける新たな活動の形を考えながら、持続可能な活動へと工夫して実施してくださる応援団の皆様へ感謝します。これからも蓄積してきたノウハウを活かしながら、子供たちの笑顔のために、さまざまな活動を工夫していただければ幸いです。

# 第七葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

第七葛西小学校長 山崎 美佐子  
 コーディネーター 小田原 備一

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	69人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ、パネルシアター	年間3回（読書月間） 年間2回	21人
図書環境整備	週1回（火曜日）	13人
図書見守り	不定期	10人
学習活動支援	年3回（凧作り・海苔づくり・環境学習）	10人
七小田んぼ愛育会	不定期（常時活動・苗植え・稲刈り・脱穀）	28人
登下校見守り	週5回	10人



5年 稲刈り体験学習（七小田んぼ愛育会）



1年 読み聞かせ（図書ボランティア）

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・学校応援団の方を講師に招き、1年生の凧作り（生活科）に取り組んだ。日本の伝統文化の一つである凧あげを知るとともに、作り方を知ることができた。
- ・学校応援団の方を講師に招き、4年生は、海苔づくり体験（総合的な学習の活動）に取り組んだ。昔は江戸川で海苔が取れていたことを知るとともに、その作業の仕方や生産者の苦労を学ぶ良い機会となった。また、SDGsの学習（総合的な学習）で学校応援団の方を講師に招き、環境についての特別授業を実施した。環境を維持することの難しさを学ぶことができた。
- ・保護者と地域の方で構成されている「七小田んぼ愛育会」の支援を借りて、5年生の稲作（総合的な学習の活動）に取り組んだ。校庭わきにある4畳ほどの花壇の他に、近くの緑道脇にある水田20畳ほどを本校専用として区より借り受け、年間を通して稲作を行っている。田起し、田植え、稲刈り、脱穀と授業で取り組む他、児童が世話をできない部分をこの愛育会のメンバーが担い、日常的に世話をを行い、無事に収穫ができるように管理していただいている。日本特有の農業である稲作を体験することができ、児童にとって大変有意義な学習活動になった。
- ・保護者で構成される「図書ボランティア」により、「読み聞かせ」「環境整備」「図書室の見守り」の3つの活動を実施することができた。読書科の推進のために保護者と教員が互いに連携して、充実した活動を実現することができている。「読み聞かせ」は朝学習の読み聞かせの他に、パネルシアター活動も2回実施した。今年度は、希望児童について体育館でも実施するなど、活発な活動を行い、児童に読書の大切さと楽しさを伝えることができた。
- ・PTAのボランティアにより、登校時の「旗振り当番」の活動を実施できた。本年度よりPTA活動自体がボランティア形式になったため、協力していただける保護者が減ってしまうことを予想していたが、PTA役員の呼び掛けにより、今年度も昨年と同様に旗振りを行うことができた。

### <課 題>

- ・学校や地域の歴史等に精通している方が年々高齢となり、協力いただくことが難しくなったこと。
- ・PTA活動がボランティア形式になり、協力いただける保護者の数を確保することが難しいこと。
- ・少人数でも効果の高い活動が組めるように組織と内容を変えていく必要が出てきたこと。

## 5 コーディネーターより

今年度も、PTA・教職員・学校応援団ボランティア・おやじの会・地域の皆様方の支援により、充実した教育活動が実現できていると考える。コロナ禍で活動が制限されてきたが、要約その状況も落ち着き、安定してコロナ禍前のような学習活動・各種行事を実施することが可能になってきた。半面、コロナ禍において、さらに人材不足が進み、コロナ禍以前の取り組みについて知る人がいなくなり、そのノウハウの伝承ができなくなった活動も出てきている。取り組む内容を精選し、より効率的・効果的な活動を工夫することが必要になっている。協力していただける方々の負担を減らしながらも、未来を担う子どもたちが充実した学習ができるように学校づくりに携わっていきたい。

## 6 学校長より

学びがい、働きがい、通わせがいのある学校にするために、心強い味方が学校応援団の皆様方です。子どもたちのためにご支援・ご協力をお願いいたします。今後も、学校教育のさらなる充実のために、『協力・共働・共育』のもと連携を深めて参りたいと思います。

# 南葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西小学校長 長内 好美  
コーディネーター 佐藤 俊介

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	554人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	週1～2回	5人
読み聞かせボランティア	年間8回	30人
安全見守りボランティア	毎日	463人
生け花ボランティア	月1回程度	1人
お花の教室	年間1回	5人
さざなみ会	田植え・稲刈り（年間2回）	20人
行事支援	不定期	30人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

今年も、南葛西町会、富士公園の皆様方からのご協力をいただき、子どもたちが、地域の一員であることを自覚できたり、もっと住みやすい地域にするためには自分たちに何ができるかを考えたりすることができました。

さざなみ会には、田植え・稲刈り・のりすきなど、3年社会・5年社会のまとめとして、子供たちが普段体験できない貴重な体験をさせていただきました。

保護者からの応援団では、読書活動のさらなる充実に向けて、読書活動の支援（お話し届け隊・図書ボランティア）において、読書環境がさらに充実してきました。

登校支援である旗振りにおいては、毎日安全に登校できるよう旗振り活動に取り組んでいただき、事故等がなく登校することができました。

2年生で実施した「お花の教室」では、花との対話を通して、生き物の大切さについても考えることができました。

「生け花ボランティア」の方には、月に1～2度、職員室前の廊下に季節のお花を活けていただきました。自然の移ろいや花の華麗さ、儂さに触れることができました。

### <課 題>

昨年度に引き続き、図書ボランティアは、参加者が固定され新たなボランティアが増えていない状況です。今後も引き続きお便りなどを通して、参加の協力を呼び掛けていきたいと考えています。

## 5 コーディネーターより

今年度も多くの方に南葛西小の学校応援団をご支援していただきましてありがとうございました。

昨年度に引き続き、「学校」「保護者」「地域」との連携をベースに活動を行ってまいりました。「読み聞かせボランティア」と「図書ボランティア」の方々の活動は、本校が進める読書活動の充実に向けて大きな力となっております。

「田植え」「稲刈り」（5年生）、「海苔すき体験」（3年生）「お花の教室」（2年生）は、子供たちの学習のまとめとして、貴重な体験となり、大きな力となっております。

これからも、『チーム学校』をキーワードに町会や自治会をはじめとして、保護者、地域とのかかわりを密にして取り組んでいきます。

## 6 学校長より

今年度も、保護者・P T A・町会、地域の皆様の協力をいただき、学習活動、教育環境、健全育成において多くのご支援をいただくことができました。特に、お忙しい中、南葛西町会の皆様方から多大なるご協力をいただき、充実した教育活動をすすめることができました。

また、「海苔すき体験」（3年生）や「田植え」「稲刈り」（5年生）についてもさざなみ会の皆様方のご協力をいただき、継続して取り組むことができました。

今後は、スクールコーディネーターを中心に、さらに子どもたちの学習活動における支援を充実させていきたいと考えています。

# 南葛西第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第二小学校長 高橋 徹  
 コーディネーター 藤野 尚志

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	83人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ・図書室整備	週1回（毎週金曜日）	20人
土曜チャレンジ講座	年複数回（学期1回）	20人
田植え・稲刈り体験	不定期	12人
登下校見守り	週5回	1人
行事支援	不定期	30人



<田植え>



<土曜チャレンジ講座>



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 毎年、地域の「さざなみ会」の皆様を開催していただいている5年生の「田んぼの田植え」を今年度も行うことができました。秋には、稲刈り（収穫祭）体験をさせていただいております。普段、なかなかできない素晴らしい体験を今年も行うことができ、経験を積むことができました。
- 今年度は、コロナで自粛をしていた土曜チャレンジ講座を年3回（学期1回予定したが1学期はインフル流行のため中止、実質年2回）実施することができました。PTAや地域の方のご支援・ご協力の下、さまざまな活動を用意し開催することができ、子供たちも大変喜んでいました。
- 今年度も登下校の見守りの方のおかげで、子供たちは大きな事故にあうことなく安全に登下校することができました。

### <課 題>

- 保護者による読み聞かせは、コロナ前のような学級内で行うことができていません。今まで協力いただいた方も年々減っていき、今後、継続するにあたって体制を整える必要があります。
- 土曜チャレンジ講座では、コロナの時代に自粛していた飲食を今年度も継続しました。今年度は、第1回の開催前に校内でインフルエンザが流行したため、実施を見合わせました。たくさんの児童が触れ合う活動がインフルやコロナの流行で今後も中止になることに心配を感じています。

## 5 コーディネーターより

地域の皆様には、日頃より本校の児童のためにご尽力をいただき、ありがとうございます。コロナ禍の制限がなくなるとはいえ、今年は、インフルエンザが流行するなど、活発な活動にまだ不安が残る1年だったように思えます。子供たちの笑顔のために今後も活動を続けていきたいと考えています。PTA・地域の皆様、今後どうぞよろしく願いいたします。

## 6 学校長より

今年度もPTA・地域の皆様には、本校児童のためにご協力をいただき、ありがとうございました。地域との関わりを通して、子供たちも成長した1年だったと思います。今後もさまざまな活動を通して、本校児童の成長にご協力をいただけると幸いです。田植えや稲刈り体験、土曜チャレンジ講座、登下校の見守り等々、学校を応援して下さる方々に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

# 南葛西第三小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南葛西第三小学校校長 佐久間 貴広  
 コーディネーター 森 友希

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	380人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備	図書館の本の修理・書架の整備等 児童への読み聞かせ（月1回程度）	41人
下校見守り	通学路での登下校安全見守り・横断歩道での旗振り	366人
安全教室（自転車）補助	自転車の安全な乗り方の指導支援	11人
行事支援	学校公開・運動会・三小まなびピア・ 持久走記録会時の受付・会場設営	18人
生活科・総合的な学習の 時間支援	校外学習時の往復時の安全確保等	20人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・今年度は、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、授業及び行事の公開を昨年度よりも幅を広げて実施することとなった。「運動会」では、テント設営・会場受付・学校周辺の見回り・後片付け等、組織的に行うことができた。「三小まなびピア」では、学年ごとの来校者の受付、入場の入替に伴う案内等を教職員と連携して行い、スムーズに実施することができた。「持久走記録会」では、沿道で応援する保護者の数が昨年度より大幅に増えたことから、安全確保の面で御協力いただき、学校と協力して開催することができた。
- ・図書ボランティアの活動では、今年度、図書室における蔵書管理のバーコード化に伴い、図書室の環境整備に積極的に取り組んだ。また、本の選定から読み聞かせまでを熱心に行っていただき、児童の読書への興味関心へとつながった。他にも、教員が薦める本の紹介コーナーの設置や、教職員による読み聞かせ等、図書ボランティアの活動から波及し発展的な取組へとつながった。
- ・毎朝、児童の登校時に、道路の横断の見守りとして学区域内の主な横断箇所、輪番で旗振りとして児童の横断の見守りをした。保護者の他に、地域の熟年者の方々にも協力を仰ぎ、登校時に加え、下校時の見守りもしていただいた。このような交通安全活動により、交通事故の未然防止につながっている。

### <課 題>

「学校応援団協力リスト」を有効に活用できなかった。来年度は、年度当初にリストを作成し、早い段階で各学年の年間指導計画に組み込み、学校応援団協力者を効果的に活用することができようにしていく。そして、学校外部とのつながりを広げ、人材を確保していく。

## 5 コーディネーターより

新型コロナウイルスが5類へ移行し、教育現場も日常を取り戻しつつある昨今、子供たちの元気な声や笑顔が戻ってきた印象を受けました。児童と保護者の安全・安心を第一に考えながら、より充実した取組を実施するにあたり、学校職員はさぞ大変だったことと思います。そのような中、学校ボランティア・PTA と連携して新たな取組も含めて今年度無事に活動できましたことを嬉しく思います。

今後も、地域や保護者の方々にさらに働きかけて、様々な専門分野の方に協力していただき、幅広く教育活動のお手伝いができるようにしてまいりたいと思います。

## 6 学校長より

多くのボランティアの皆様のご協力により、教育活動及び児童の安全な登下校につながっていることに感謝の念でいっぱいである。教育活動の充実を図るうえで、こうしたマンパワーはもちろん、子供たちを地域の宝として大事に見守り、サポートしてくださる保護者や地域の思いを大切に、より効果的に生かすことができるよう、「学校応援団協力リスト」の活用も含めて計画的に協力依頼できるようにしていきたい。

# 西葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

西葛西小学校長            高瀬 雄二  
コーディネーター        中村 岳

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	200人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
野鳥の巣箱づくり・ 巣箱かけかえ	7月・12月	20人
図書整備ボランティア	毎週火曜日	17人
ビオトープ管理	毎週木曜日	5人
うさぎの世話	長期休み期間	30人
読み聞かせ	不定期	33人
学習支援	都度	100人



巣箱づくりの様子



読み聞かせの様子

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- コロナ禍で中止していた野鳥の巣箱づくり、巣箱かけかえを昨年度に引き続き実施できた。これは、「東京都愛鳥モデル校」の事業として、学校応援団が主催し、東京都鳥獣保護員、PTA、区立行船公園の協力・連携のもと、毎年行っているものである。今年度は7月に「巣箱づくり」、12月に「巣箱かけかえ」を行った。巣箱づくりには35組の保護者と児童が参加し、鳥獣保護員からの鳥獣保護に関する説明ののち、木材の切断、やすりかけなどを行い、木工細工を楽しんだ。作った巣箱は、12月に校庭や行船公園の木に掛け替えた。地域の方々とともに、自然を愛し楽しむ心の育成を図っている。
- 四季折々の植物や昆虫、生物に触れることができ、授業やすすくすくスクールでも活用できる場になるようビオトープの維持管理を行っている。子どもたちは登下校時や休み時間等にビオトープを観察している。自然に触れる機会の少ない子どもたちにとって、身近に観察ができる環境は単に教科学習にとどまらず多くのことを学ぶ機会になっている。

### <課 題>

- コロナ禍でしばらく巣箱づくり実施されていなかったことや、中心で活動する人材が固定化されていること等から、巣箱づくりの進め方に関するノウハウが十分に引き継がれていない。在校生の保護者等の中から人材を発掘し、若手へ引き継いでいきたい。
- ビオトープ管理は、新しい人材が増えていないことが課題となる。中心となっているのは地域の方だが、その他は在校生の保護者であり卒業と同時に活動をやめてしまう。今年度、2人の在校生の保護者が新規で参加している。より活発な活動を目指し、人員増加を図っていきたい。

## 5 コーディネーターより

- 昨年度に引き続き、巣箱づくり、巣箱かけかえが実施できてよかった。子どもと保護者、地域の方が協力してできる活動なので、学校応援団の意義を十分に感じることができる。今後も継続的に実施していきたい。

## 6 学校長より

- ビオトープは本校の開校20周年の時に作られ、学校応援団の方のご協力を得ながら大切に守られてきています。四季折々の草花や昆虫が観察でき、春から秋にかけて子どもたちもよく観察していました。また、夏休みには巣箱づくりが実施され35組の親子が参加しました。東京都鳥獣保護管理推進委員の方のご協力もいただきながら、学校や近隣の公園にやってくる野生のスズメやシジュウカラの生態を学び、鳥たちが活用できるように作製しました。11月には作成した巣箱を実際に木にかける活動も行いました。外した巣箱のうち、実際に鳥が巣を作っていたものは、学校応援団の方が鳥たちの写真と共に展示してくださいました。子どもたちはもちろんのこと、教職員や学校を訪れた保護者も興味深く鑑賞する様子が見られました。応援団の方、保護者の皆様、地域の方と共に、自然を大切にする子どもを育む活動を今後も活発に行っていきたいです。

# 新田小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

新田小学校長                    大石 吉郎  
 コーディネーター            座間 久美子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	113人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安全見守り支援	4月、7月、12月	20人
学習支援	体育科学習支援 不定期	6人
	書道教室（3～6年）12月・1月	1人
	読書活動支援 月1回	13人
	図書団体貸し出し支援 月1回	14人
環境整備支援（畑）	不定期	5人
環境支援（花）	不定期	5人
環境支援（清掃）	6月、12月	30人
学校地域行事支援	お父さん会 不定期	20人



体育科学習支援  
 児童との交流



読書活動支援  
 読み聞かせ「えほんのとびら」



学校地域行事支援  
 新田ふれあいフェスティバル引率補助

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- コロナ禍で活動が途絶えていた読書活動支援「えほんのとびら」を再開することができた。今年度の活動立ち上げに際しては、子供たちにとってより良い読み聞かせとなるよう、ボランティア参加者が何回も話し合いを重ね、実施に至った。「えほんのとびら」の時間は、全校児童にとって本に親しみ、興味・関心を広げる機会となった。  
また、読書活動支援として、新たに、西葛西図書館の団体貸し出し支援を始めることができた。  
いつでもすぐ本を手にとることができる教室環境が整ってきている。
- 6年生の体育の授業で、タブレットを活用したクラスクラウドに「地域メンバー」として参加することができた。体育の授業の動画や6年生のコメントを地域メンバーが見て、コメントを返すという形で交流した。子供たちにとって、自らを振り返り、達成感・満足感を味わうことにつながった。
- 学校農園では、すくすくスクールとの連携を図り、「お野菜クラブ」として活動を継続している。主に収穫等で、すくすくスクールの児童が参加した。野菜を通して、自然の大切さ、人との触れ合いを実感することができた。
- 地域行事が久しぶりに再開されたので、新田ふれあいフェスティバルのパレードの引率・補助など、お父さん会が中心となって活動し、地域行事を盛り上げることができた。

### <課 題>

- 学校応援団構成メンバーを拡充し、応援団としての活動を充実させていくことが課題である。学校応援団への加入となると、保護者が遠慮する傾向にあるので、基本的に保護者は学校応援団の一員と理解してもらい、学習支援など随時募っていききたい。
- 活動内容について、保護者や地域の方に周知できていない面がある。ホームページや学校だよりなど、計画的に広報活動を行っていく。

## 5 コーディネーターより

新田小学校の学校応援団は、すくすくサポートセンター、保護者、PTA、地域の皆様、お父さん会、新田町会、公社新田住宅自治会の皆様で成り立っています。これらの団体がいろいろな活動をより計画的に組織的に行っていくものです。

今年度は、新型コロナウイルス感染のために中止されていた地域行事が順次再開し、学校応援団の活動範囲も元に戻ってきました。できる範囲でいいので、子供たちのために協力やお手伝いができる方にすすんで参加していただきたいと思います。これからも「たくさんの皆様で見守り、たくさんのお手で助け合い、より良い学校づくりをお手伝いしていきましょう。」と呼びかけていきます。

## 6 学校長より

コロナ禍の中においても「学びを止めない」ことを大切に、教育活動を進めてきました。応援団の皆様も子供たちのために何ができるかをいつも考えていただき、心より感謝申し上げます。子供たちのために、保護者・地域の皆様、PTA、お父さん会、新田町会、新田住宅自治会の皆様の熱心な協力と支援をよろしく願いいたします。

# 宇喜田小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

宇喜田小学校長            青山 美和子  
コーディネーター        増田 正敏

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	43人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
登下校の安全見守り	週5回	8人
学校図書館環境整備	週1回（毎週金曜日）	8人
図書選定	月1回	16人
読み聞かせ	年間9回	10人

登下校の安全見守り



読み聞かせ





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

毎月、学校便りを届ける際に下校時刻表も配布し、登下校の安全見守りにご協力をいただいている。今年度も変わらず、挨拶や声掛け等、児童との交流を進めながら、優しく見守っていただけた。地域の方々に見守られていることを感じながら、地域への愛着の心を育てられている。

学校図書館整備の方には、学校図書館環境整備の活動を行っていただいた。地域図書館との連携もあり、学校図書の商品登録作業や破れた本の修理、掲示物の作成等、貸し借りしやすい環境や、季節を感じられる掲示の中で本に親しめる環境を作っていた。

図書選定や読み聞かせにより、授業に関する本や季節を感じられる本、読書の幅を広げられる本等が教室にあることで、読書への関心を高めることにつながっている。

### <課 題>

コロナ前まで行われていた花壇・三段池環境整備が、中断している状況である。例年行っていた活動を維持できるように、活動内容や連絡先等を記録し、引き継げるようにしていく。

## 5 コーディネーターより

読書への関心を高める学校図書館整備の充実、読み聞かせの復活等、コロナ前のような活動が少しずつできるようになり、うれしく思います。今後も、子供たちが安全・安心して学校生活を送ることができる魅力ある学校になるように、少しでも協力していきたいと考えております。今後とも、よろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

日頃より、宇喜田小学校の子供たちのためにご支援を賜りありがとうございます。児童一人一人にタブレット端末が配布され、様々なことが簡単に調べられるようになってきました。しかしながら、本を読むという活動は、自ら考えていく力や豊かな心の育成につながるものです。

学校図書環境を整えていただいているおかげで、子供たちにとって本の魅力が自然と感じられるようになってきています。本当にありがとうございます。

登下校の安全見守りの方には、登下校時の見守りとともに、児童への温かい声掛けをしていただき、心より感謝申し上げます。

今後とも、子供たちのために、応援団の皆様と協力しながら、児童にとって安心できる・魅力ある学校にしていけるようにと思っています。今後とも、無理のない範囲でのご協力をお願いいたします。

# 清新第一小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

清新第一小学校長 石橋 悟  
 コーディネーター 池館 あや子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	75人
--------------	----------	-----

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ	月2回程度	2人
登校時見守り	不定期	2人
ラクロス	実施見合わせ	1人
どうぶつしょうぎ	実施見合わせ	2人
土曜日の工作教室	実施見合わせ	2人
影絵（PTAと協力）	実施見合わせ	16人
盆踊りレッスン	不定期	10人
夏休み工作教室（PTAと協力）	実施見合わせ	12人
わくわく広場（PTAと協力）	年1回	20人
フラダンス教室	月1～2回	3人
PC教室	実施見合わせ	2人
親子の絵手紙教室	実施見合わせ	1人
日本舞踊教室	月1～2回	1人
夏休みラジオ教室	夏休み中6回	1人
花壇の整備	不定期	3人



フラダンス教室の様子



日本舞踊教室の様子

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

活発なPTAボランティア活動が卒業後のOB・OGにつながっていくスムーズなボランティアシステムとなっています。コーディネーターを中心に学校応援団の輪が広がり、今年度も多くの方々が登録をし、子供たちのために様々な企画を実施しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症等による制限が緩和されたことにより、わくわく広場での活動、フラダンス教室や日本舞踊教室など、活発な活動が戻ってきました。

児童の登校時の見守り活動や花壇の整備については、これまで通り実施することができました。児童の安全・安心を最優先に考えながら、できる範囲の中で計画し、活動を進めることができました。

### <課 題>

児童数が約940人で、区内でも児童数が多い学校です。学区域変更により少しずつ児童数が減ってはいますが、状況は今後数年間変わりません。通学路にある大きな交差点は、多くの児童が通過します。そのため登校時の見守りも続けていきたいところではありますが、人手不足は否めません。今後も新しく応援団に参加していただき、継続した活動につなげていきたいと思えます。新型コロナウイルス感染症等による制限が緩和され、少しずつ活動が活発になっています。人員を増やしていく観点から、卒業生の保護者向けに「学校応援団協力のお願い」を配布するなどして、確保に努めていく必要があります。

## 5 コーディネーターより

今年度も前年度に引き続き、読み聞かせ、お話し会、フラダンス体験、日本舞踊体験は定期的で開催し、子供たちも楽しんで参加しています。朝の登校時警備も継続的に行い、子供たちの安全を見守っています。今年度からは、ラジオ体操、盆踊り練習も再開し、少しずつコロナ前に戻りつつあります。2月に開催される「すくすくスクールフェスタ 2023」には、日本舞踊体験教室が参加する予定です。今後とも、学校、PTA、すくすくスクールと連携しながら、子供たちのために活動を行っていきたいと思っています。

## 6 学校長より

本校は、PTAボランティア制度が大変充実しています。そのPTAボランティアがそのまま学校応援団という形になって本校の学校応援団はスタートしました。そして、そのPTAボランティアの方々が卒業し、OB・OGとして学校応援団に参加してくださる形が整ってまいりました。昨年度からの学校応援団コーディネーターである池館様を中心として、すくすくスクールサポートセンター及びすくすくスクールのスタッフ、PTAボランティア、お父さんの会などが一つになって、清新第一小学校を応援する活動をしてくださっています。多くの学校応援団の皆様へ感謝の気持ちでいっぱいです。

# 清新ふたば小学校 学校応援団 実践報告書



## 1 校長及びコーディネーター氏名

清新ふたば小学校長      三柴 祐子  
 コーディネーター      宮本 道子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読書応援団 おはなしクローバー	毎週金曜日	30人
読書応援団 こびとの本屋さん	毎週第一火曜日	10人
友達プロジェクト	不定期	10人
環境整備隊	不定期（活動なし）	

### 主な活動内容

- ・ 読書応援団（おはなしクローバー）  
本の読み聞かせ、学期に1～2回程度のスペシャル企画を行う。
- ・ 読書応援団（こびとの本屋さん）  
SSSと連携し、学校図書館等の掲示等を工夫するなど3の環境整備を季節ごとに行う。
- ・ 環境整備隊  
学校敷地内の環境整備活動を主事や飼育栽培委員会の子供たちと一緒にやる。
- ・ 友達プロジェクト  
外国籍の保護者が安心して子供を学校へ送り出せるために交流を行う。

※学校応援団本部会議を定期的に行い、今年度の方針等を精査し、共通理解を図る。

## おはなしクローバー



### 4 今年度の成果と課題

#### <成 果>

年度初めに友達プロジェクトとして、外国籍の保護者に対して、提出書類の書き方等について交流を行った。おはなしクローバーでは、新規参加者も含め、和やかな雰囲気での練習を重ね、団員の結束力も高めることができた。子供たちは、おはなしクローバーの時間を楽しみにしており、読み聞かせを楽しみにしている。こびとの本屋さんの活動を定期的に行い、学校図書館等の環境整備を行っている。

#### <課 題>

年度当初の保護者会等で活動について周知し、更に活動が充実していくよう、広報活動についても取り組む。また、活動の年間計画をつくり、誰でも参加しやすい体制を構築していく。卒業生や学生ボランティア及び地域の人材を積極的に導入し、活動の幅を広げることができるようにする。

### 5 コーディネーターより

おはなしクローバーの読み聞かせ活動が活発に行うことができた。学期に1～2回実施したスペシャルは大変盛り上がった。友達プロジェクトも活動の幅を広げられるよう計画を立てている。今後も、各グループの活動の年間計画をつくり、時間を設定するなど誰でも参加しやすい体制を構築していきたい。少しでも清新ふたば小学校の教育活動の支援ができればと思っている。

### 6 学校長より

清新ふたば小学校の教育活動をさらに充実させるためには、学校応援団団長・副団長を始め、各代表の方々そして多くのふたば小応援団の方々の支えが必要です。今年度も、子どもたちのために様々な活動をしていただき、本当にありがとうございます。

今後も学校応援団の皆様のお力をお借りしながら、教育活動を推進してまいります。皆様の活動がますます充実していき、その輪が広がっていきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

# 臨海小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

臨海小学校長            西澤 盛和  
 コーディネーター      高原 賢一

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	20人
	学生ボランティア	3人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ	月1回	各回15人以上
図書館整備	月2回	各回5人程度
登下校見守り	週5日	多数
安全教室	年1回	10人
環境整備	不定期	各回10人程度
挨拶運動	不定期	5人
校外学習の同行	不定期	各回10人程度



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 定期的な読み聞かせにより、児童の読書に対する興味関心が高まっている。
- 図書館を整備したり、学年の実態に合わせて学級文庫を入れ替えたりされることで、児童が積極的に本に関わるようになってきた。
- 日々の登下校見守りにより、保護者が安心して児童を通わせることができています。
- 校外学習等の同行ボランティアにより、学習の幅を広げることができています。

### <課 題>

- 保護者から学校応援団として活動してくださっている方々が卒業等によりいなくなることで、ボランティアが減っている。OBOGとして残ってもらえるよう呼び掛けていく必要がある。
- 「学校応援団」という括りでのボランティア編成が保護者の参加を躊躇させていることがある。より自由に参加ができるよう、呼びかけを工夫していく必要がある。
- コロナ禍により停止していた活動について、より良い実施の形が考えられるものもある。コーディネーターを中心に活動の在り方について検討し、子供にとってもボランティアにとっても学校にとっても、より良いものに変えていく姿勢が必要である。

## 5 コーディネーターより

- 令和5年度は新型コロナウイルス感染症予防の関係で中止になっていた様々な行事が再開され始めた。新たな形で進めている活動もあり、今までの活動にとらわれず子供たちにとってより良い支援の在り方を考えている。次年度もPTAや地域、学校応援団との連携を密にしつつ、頑張っていきたいと考えている。

## 6 学校長より

- 校外学習の同行や児童の見守り等、さまざまな形でご協力いただき、また、児童が安心して学習できる環境づくりにもご配慮いただき、ありがとうございます。学校応援団の方々を始め、日頃から学校の教育活動のために様々な支援をしてくださっている保護者・地域の皆様に改めて感謝いたします。今年度は新型コロナウイルスの様々な制限が緩和され、以前の活気が戻ってきたように思います。様々な事情により形を変えたまま実施している行事や活動もありますが、学校応援団コーディネーターのご支援をいただき、臨海小学校の子供たちの活動がより有意義なものとなっております。今後ともご協力いただくことが多いと思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

# 東葛西小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

東葛西小学校長 武内 広明  
コーディネーター 横内 人志

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	16人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
芝生ボランティア	不定期	15人
本の読み聞かせ	不定期	16人





## 4 今年度の成果と課題

### < 成 果 >

本校の校庭は比較的広く、児童がのびのびと遊べるスペースがある。これまでの活動で、数年前より校庭の安全対策の観点から、芝生の移植と手入れを行っている。少しずつではあるが、芝生の場所を増やし、遊具や鉄棒の下に敷き詰めてクッション的な効果を担っている。芝生の移植や整備は学校ではしきれない部分であるため、休日や夏季休業日などに、少人数単位による芝刈りを実践している。

図書ボランティアも新型コロナウイルス以前より行っており、児童の本への興味・関心を高めようと活動をしている。児童が普段選ばないような本を紹介したり、季節に合った本を紹介したりしている。高学年の児童に絵本の読み聞かせをすることもあり、過去に読んだことのある本を振り返って読むなど、児童の本の選択が広がっている。

### < 課 題 >

今年度は感染症等から行わなくなっていた行事等も少しずつ活動を始めた。しかし、それ以前の行事が全て行われたわけではなく、活動を見合わせたものもある。今後は、活動を精査しながら行っていく。

## 5 コーディネーターより

感染症が落ち着き、近隣小学校でも様々な学校行事・PTA 行事が活動しはじめました。芝生の活動に関しては、感染症による活動の縮小は限定的で、今年度も新たに芝生を植えて、場所を広げることが出来ました。

今年度は芝生を植える際に、子供達が30名程。保護者が15名程。東京23FCのプロ選手も20名程参加して頂き、芝を植えると共に、サッカーや体を動かす楽しさを子供達に伝える時間になっていたようです。

芝生は安全面だけでなく、小さな生態系もつくり、児童が校庭を利用する前の朝の時間帯には、芝生に潜む虫を食べに鳥がやってきて校庭を使っています。これからも、少しでも自然に触れ合う時間が学校に広がっていく事を願います。

また、児童の読書の時間が増え、その影響か国語の学力が上がったと伺いました。図書ボランティア活動もその一助となっていることは間違いのないと思います。

我が子も、去年実施して頂いた、学級での読み聞かせボランティアの時間が印象的だったようで、その本を書店で見かけると未だに説明してくれます。児童にとって本がより身近になる機会を与えて頂き感謝いたします。

## 6 学校長より

昨年度までは感染症対策により、学校行事やPTA活動等が大幅に削減されていましたが、その期間でもできることはないかと、使用しなくなった屋上庭園の手入れ等ご協力いただきました。

今年度は、主に児童の遊具の周辺を中心に、怪我の防止等を目的に新たに芝生の植込みと手入れをしていただき、大変感謝しております。また、図書ボランティアによる朝の読み聞かせは児童が楽しみにしており、本に触れる喜びを知り、本を選ぶ際の選択肢の幅が広がりました。

今後も、学校応援団の方々と連携し、子供たちが育った地域や母校を大切にできる心を育むことができるよう、教育活動を行っていきます。

# 瑞江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

瑞江小学校長                    中村 敬子  
 コーディネーター            花輪 牧子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	90人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
旗振り(朝の交通安全見守り)	登校時の安全見守り	20人
下校時安全見守り	すくすくスクール下校時の安全見守り	20人
花ボランティア	校内畑・花壇の整備、畑での学習支援	20人
読み聞かせ	朝学習時、全学級での本の読み聞かせ	23人
図書室整備	本の修理や書架の整頓、図書室の整備	17人
学習支援	個別の支援が必要な児童への学習補助	2人
瑞小まつり	模擬店(焼きそば)の出店	10人
豆まき大会	伝統行事「豆まき」の体験	12人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 令和5年度も多くの方々のお力添えやご協力により、瑞江小学校学校応援団の諸活動を順調に進めることができました。
- 畑や花壇の管理を担当する「花ボランティア」は主に畑の整備・管理を行っています。児童の学習用に植えた作物の管理のほか、季節に合わせた花や野菜の整備を行い、年間通して畑や花壇を華やかにしました。植え付けや収穫の際には作物に関する話や作業の仕方の説明などを行い、学習支援においても活躍しました。
- 運動会や学芸的行事、学校公開での安全管理や交通整理、朝の交通安全旗振り活動など、児童が安心して学習できるよう全保護者で取り組んでいます。
- 「読み聞かせボランティア」は、令和5年度は年間17回の読み聞かせを実施しました。読み聞かせした本を毎回ノートに記録し、読書科担当教諭と情報共有をしています。また、「図書館整備」は、実際の図書館と同様の分類にするとともに、児童が図書に親しみやすく使いやすいよう整備しています。さらに、学年ごとにお勧めの本を選んで定期的に学級ごとに配布し、教室で読めるよう工夫しています。図書館司書とも情報共有し、図書室整備を協力して行っています。
- 町会を中心とした地域の皆様には、朝のあいさつやすすくからの下校時など見守り隊として児童の安全確保、健全育成に協力していただいています。見守り隊をはじめ、花ボランティアを中心に、小松菜畑見学、各種事業所見学等にも、町会・地域の方々の協力をいただいています。今後も、これらの活動をますます充実させていきたいと考えています。

### <課 題>

- 「図書ボランティア」活動は、OB・OGの方の協力なしにはできない状況です。また、「見守り隊」についても、町会からの参加者が減少傾向のため募集を行っています。新しくボランティア活動に参加して下さる方が少ないところが課題です。
- 花ボランティアは今後も活動していくことができるようリーダーの引継ぎを模索しています。また、安定した連絡手段の確保をしていく必要があります。

## 5 コーディネーターより

- 登校時の旗振りやあいさつ運動、すすくスクールの下校時の安全見守りの活動を通して、子どもたちの安心安全な学校生活を支えることができました。
- 有志のお父さんで構成したグループ「ダディーズ」の中には、OBの方もいらっしゃいます。参加メンバーが明確になっていないので取りまとめをしてくださっているお父さんと相談し、名簿を作成しています。OBの方も安心して活動いただけるよう保険加入を進めていきます。
- 花ボランティアでは、地域の方を中心に子どもたちの学習の場である畑や花壇の整備をしていただきました。継続して活動いただけるよう町会とも連携し、計画を立てていきます。

## 6 学校長より

本校の学校応援団は花ボランティア、図書ボランティア、登下校時の見守りが主な活動です。毎週土曜日の午後には花ボランティアの活動では、地域の方々が集まり、苗植えから草取り、整地、植え替え等の活動を1年中継続して行っていただいています。今年度は猛暑の中、毎日数回水まきをしてくださったりひまわり迷路の整備をしてくださったりして、夏の間、子どもたちの休み時間を充実させてくれました。さらに、大きな大根やきゅうり等の野菜を収穫し、子どもたちの食育にも役立っています。また、登校時やすすくスクールから下校時の見守り隊をはじめ、朝のあいさつ、朝の時間の絵本の読み聞かせ等々、子どもたちの健全育成に力を注いでいただいています。本校の子どもたちを愛する熱い思いに、感謝しかありません。学校応援団の皆さんの思いにも応えられるよう、学校も日々の教育活動に努めてまいります。

# 春江小学校 学校応援団実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

春江小学校長 小林 麻子

学校応援団長 芦田 孝二      コーディネーター 三羽 由紀子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	113人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読書活動支援	月4回(毎月隔週 水・金曜日)	60人
学習活動支援	不定期(必要に応じて)	11人
安全安心支援	毎朝の登下校時	6人
栽培活動支援	不定期(必要に応じて)	36人



読書活動支援 環境整備



図書ボランティアによる読み聞かせ

## 4 今年度の成果と課題

### 今年度の成果と今後の課題

#### <成果>

- ・読書活動支援（読み聞かせ・校内環境整備）や登下校時の見守り支援、体力テスト（ソフトボール投げ）の補助の実施などの活動を計画的に進めることができた。
- ・読み聞かせは絵本の紹介会を開催し、交流や情報交換等で共有を図ることができた。
- ・ドッチビーやネオホッケーの練習会を毎月1～2回開催することができた。また、大会にも参加することができた。
- ・予算を有効に活用し、学年向けの本を購入し、学校図書館整備の作業を進めることができた。
- ・活動の様子を保護者に参観していただくことで、学校応援団の活動に関心をもってもらうことができた。またそれぞれでLINEグループを作り活動について共有したり、連携を図ったりすることで充実した活動ができた。

#### <課題>

- ・今後学校応援団の活動について経験のない方にも、気軽に応援団の活動に参加していただけるように情報の発信、活動時間の設定など見直しを図っていく。

## 5 応援団長より 芦田 孝二

「だれでも参加できる応援団」をめざして、全ての地域の方・保護者にも分かりやすい活動を目指して取り組んできました。

「できる時にできる人が、できることを。安全で元気で楽しい学校生活を子供たちのために」の精神は確実に春江小学校の学校応援団のポリシーとして根付いてきました。

今年度は、コロナウイルス感染症の制限も解除され、体力テストにおけるソフトボール投げ等のスポーツ支援や、農園ボランティアによるさつまいも掘りの手伝い、草むしり等、従来行っていた活動もできるようになりました。

また、ボランティアに参加する保護者の数も増えてきており、より広がりをみせています。

今後も、更に春江小学校学校応援団が充実していけるよう心掛けていきます。

## 6 学校長より 小林 麻子

学校応援団の皆様には、1年を通じてたくさんお力添えをいただき、深く感謝しております。本当にありがとうございます。登下校時の見守り、読み聞かせ、校内掲示等に取り組んでいただいたことで、子供たちの学校生活が安全で楽しく豊かなものになりました。今後とも、どうぞよろしく願いいたします。

# 新堀小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

新堀小学校長 佐藤 永樹  
 コーディネーター 笠井 雅世

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	80人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安全見守り隊	不定期（毎日）	8人
校外学習の安全の見守り	校外学習時に要請	30人
運動会 学芸会 行事ボランティア	年3回	20人
読み語りボランティア	年3回	20人
学校図書館整備 ボランティア	月2回	15人
新堀小フェスティバル	年1回	30人
ふれあいガーデン作り 手伝い	年1回	2人
さつきのさし芽指導	年1回	4人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

今年度は、コロナ以前の活動を計画・実施することができた。運動会や校外学習、学芸会、マラソン大会などの行事の実施に対し、安全対策を十分に考え、快くボランティアを引き受けてくださった方々のおかげで滞りなく運営できた。

「ふれあいガーデンづくり」では環境委員会の児童とたくさんの花を植えることができた。また、今まで花植えのボランティアに参加していた方が、今年度も家で寄せ植えを作って学校玄関に飾ることを継続していただいている。

「読み語りボランティア」・「学校図書館整備ボランティア」は、事前に児童や担任にアンケートを取って読む本を選定したり、学校図書館支援員と協力して整備を進めたりするなど、連携して活動できた。

ここ数年は地域との行事を中止せざる得ない状況が多かったが、4年ぶりとなるマラソン大会やお父さんの会が主催する夏まつりへの協力もあった。みんなで力をもちよれたことは、大きな成果である。

昨年度から始まった「新堀小フェスティバル」は今年で2回目となり、地元の中学生にボランティアとして会の運営に携わってもらった。地域に住む相撲部屋の親方に来ていただき、「ちびっこ相撲大会」を開催したり、非常食を参加者の皆で食べたりする中で、子供たちの活動を復活させることができた。

### <課 題>

コロナ禍が明け、以前のような活動を再開させようとした時に、その実施方法を知り、舵取りをする経験者が少ない現状がある。一部の方に負担を偏らせず、皆で進めていくための方法を考えていきたい。活動人数、人材の確保は継続した課題となっているが、中心となって活動してくださる方や保護者の方の参加を促進していくことが今後の学校応援団の充実につながると思う。

## 5 コーディネーターより

今年度は、これまでより活動を増やすことができました。4年前から、もちつきフェスティバルは実施していませんが、防災教育を絡めてアルファ米の混ぜご飯を参加者全員が校庭で食べられたことはとてもいい経験となりました。これからも開催方法の工夫を考えていきたいです。今年も地域も巻き込んで「新堀小フェスティバル」を実施できたことは、大きな成果だったと思います。今後も子供たちのための活動を学校とともに積極的に行っていききたいです。

## 6 学校長より

昨年度まではコロナ禍における制限がたくさんあったが、今年度は活動を再開する方向性での活動を行うことができた。学校応援団が主催する「新堀小フェスティバル」での「ちびっこ相撲」は2年目を迎えた。開催にこぎつけることができたのは、コーディネーターの尽力の賜物である。今後も継続していくためには、協力してくださる人材確保等、いくつかの課題解決が必要である。

# 下鎌田小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

下鎌田小学校長 黒澤 義和  
 コーディネーター 宇佐美 慎一（応援団長）

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	58人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
交通安全	毎日	9人
図書ボランティア	読み聞かせ学期に各学級1~2回 図書室の整備月に数回	44人
栽培ボランティア グリーン	随時	12人



毎朝、交差点に立って子供たちの安全を守っています。



子供たちが興味のある本を選び、臨場感たっぷりに読み聞かせをしています。



学習で使う植物の栽培や、学年園の整備を支援しています。



季節やイベントを意識して、図書館の飾りつけをしています。



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

4月1日に開校し、統合前の旧下鎌田小学校、旧下鎌田西小学校の応援団の各部門の代表の方々と連絡を取り、それぞれの立ち上げを行った。

交通安全は4月6日の始業式の日より通学路各所に立ち、児童の安全を毎日見守った。応援団に加え、地域の見守りの方々も加わり、児童の登校を安全に実施できた。

図書ボランティアは統合して増えた書籍の整理や学校図書館の整理をはじめ、児童への読み聞かせを学期に1～2回実施した。児童は大変楽しみにしており、また、興味関心をもって応援団の読み聞かせを聞いている。

栽培ボランティアは学校の学年園の栽培の補助や学校花壇の花上などを理科主任や委員会担当とも連携し計画的に進めた。年度をまたぐような取組もあり調整に苦労したが、栽培自体はとてもスムーズに進み、教育活動を円滑に進めることができた。

### <課 題>

2校の統合により新しくそれぞれの部門が立ち上がった。組織が新しくなったことで、「今まで通り」ではなく、模索しながら進めることで時間がかかるが、学校との連携もできてきた。

その一方で、活動を進めていくのに必要な人員不足が予想される部門もあり、今後、現役の保護者や地域の方のお手伝いの方など、ボランティアの数を確保していくことが課題である。

## 5 コーディネーターより

新しい下鎌田小学校が開校し、もうすぐ1年になります。統合前の旧下鎌田小学校では交通安全、読み聞かせ、図書館の整備、土づくりや栽培を通した食育を、旧下鎌田西小学校では交通安全、図書の読み聞かせや図書館の整備、花壇の整備や花の栽培などをそれぞれの学校応援団が担ってきました。

今回の統合を機にそれらのボランティアのリーダーが集まり、「交通安全」「図書ボランティア」「栽培ボランティア グリーン」として、新たなスタートを切ることができました。今後は、それぞれの学校応援団の良さを継承しつつ、学校、地域、保護者の連携を大切にしながら、子供たちのためにできることを考えていきます。

## 6 学校長より

今年度は開校という大きな変化のある年でしたが、地域や保護者の皆様に大変ご尽力いただきました。子供たちが心豊かに、学ぶ力を身に付けていくために、私たち教職員は日々の教育活動を進めているところですが、学校だけではなかなかすべてを満たすことはできません。学校応援団の皆様には、安全、読み聞かせ、学年園や花壇の整備など学校だけでは手の届かないところにきめ細かく対応していただきました。お陰様で教育活動がより充実したものになりました。

今後も、皆様の力を借りながら、子供たちの更なる成長のため学校教育の充実を図ってまいります。引き続き、ご理解、ご協力をお願いいたします。

# 下鎌田東小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

下鎌田東小学校長      山本 浩一  
 コーディネーター      棚橋 義隆

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	105人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校行事支援	学期2～3回程度	25人
登下校見守り	週5回	10人
図書読みきかせ	感染防止のため中止	15人
授業支援	不定期	20人
ひがしボランティア	学期1～2回程度	20人
漢字検定支援	年1回	15人



様々な学校行事において、児童の見守り、保護者の誘導、会場整理のご対応をしていただくなど、教育活動へのご支援をいただいております。

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 今年度は新型コロナウイルス感染症の制限が緩和され、少しずつ教育活動が戻ってきました。そのような状況の中、様々な学校行事等の支援にご協力をいただきました。感染症拡大以前のような教育活動に全てを戻すのではなく、内容を精選したり工夫したりして取り組んできました。計画的に準備をしていただいたおかげで円滑に学校行事を行うことができたとともに、児童の見守り、保護者の誘導、会場整理のご対応をしていただくことで一同、安心して児童の指導に専念することができました。また、学習支援等にもご協力いただき、児童の安全管理を行っていただく中で、頑張りを認め励ますとともに優しく丁寧に支援をしていただき、子供たちも安心して意欲的に学習課題に取り組むことができました。
- 昨年度から再開した漢字検定の取組を今年度も実施します。多数の児童から申込みがあり、取組に対する児童や保護者の期待が伺えます。引き続き保護者・地域の方々の協力をいただきながら、児童の基礎・基本の定着を目指してまいります。

### <課 題>

- 新型コロナウイルス感染症の制限が緩和されたことで、今後の学校行事の在り方や、ボランティアの方々のかかわり方等について検討を進めていきます。
- 活動内容によっては、ボランティアをしていただける方の確保が難しいこともあるので、本校の教育活動をより多くの地域の方々に知ってもらうよう、さらに働きかけを進めていきます。そして様々な地域の方々に関わっていただけるように地域や町会の方々との連携を深めていきます。

## 5 コーディネーターより

- 本校は、地域からの大きな力添えをいただきながら、地域とともに歩んできております。町会や地域の各施設の方々、PTA役員、ひがしボランティアなど、様々な組織が学校の教育活動を支援しています。今年度は、感染症の制限が緩和され、学校や地域での活動などが徐々に元に戻ってきました。これまで様々な取組が行うことができなかつたため、引継ぎができていないこともあります。今後、様々な状況を判断して課題解決を図り、学校、PTA、地域が連携して、子供たちのためにできることに取り組んでまいります。今後とも多くの皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

- いつも本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。町会や地域の方々をはじめ、PTA役員の方々等、多くの皆様に教育活動を支援していただいております。本年度は、After コロナ、with コロナの教育の充実を目標とし、学校行事等を工夫しながら進めてまいりました。そのような中、年間を通して本校の様々な教育活動を支えていただきました。おかげさまで、安心・安全な教育活動を進めることができています。子供たちも、日々の教育活動をとおして、明るくたくましく育っております。保護者・地域の方々に信頼され、集いの中心となる学校を目指し、今後も皆様のお力をお借りしながら、学校の教育活動をより一層充実させてまいります。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

# 江戸川小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

江戸川小学校長            江島   しのぶ  
 コーディネーター        三田   栄一郎

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	33人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館整備ボランティア	図書館整備・充実（月1回第3木曜日）	11人
読み聞かせボランティア	児童向けの読み聞かせ（月1～2日）	3人
旗振り・見守りボランティア	登校時の児童の安全確認（毎日）	16人
下校見守りボランティア	下校時の児童の安全確認、指導（週1日）	1人
学校施設充実ボランティア	学校施設の修繕、什器・備品の制作、 樹木の剪定、（週2～3日）	1人
藤棚整備ボランティア	藤棚の剪定（年2回）	1人



学校図書館整備



読み聞かせ



登校時旗振り・見守り



下校時見守り



藤棚剪定



学校施設充実・修繕

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・本校は令和4年度より、PTA組織の活動内容を精選してスリム化し、従来PTAで取り組んできた活動のうち必要と思われる登校時の旗振りや図書館整備、修繕等の活動を学校応援団（本校では江戸小サポーターズクラブ（ESC）と称しています。）のボランティア制に移行しました。
- ・特に児童の安全確保に欠かせない「旗振り・見守りボランティア」は、当初、10名程度でスタートしましたが、地域の方々も参加して下さるようになり、今では16名となりました。皆さん意欲的に取り組まれています。
- ・各種ボランティアの方々のお陰で、自由登校に移行した後も子どもたちは無事故で登校でき、校舎内で快適な日々を送ることができています。

### <課 題>

- ・年々児童数の減少に伴い家庭数も減少していく中において、安定的に人材を確保していくことが最大の課題です。今後も、保護者の方々はもとより、さらに地域からも幅広くサポーターを増やしていきたいと思えます。
- ・現在、ボランティアの募集や日程調整等を学校が行っています。今後は、これらの作業を江戸小サポーターズクラブの方々に引き継ぎ、主体的に行動していただくことが次の課題と考えています。

## 5 コーディネーターより

「江戸小サポーターズクラブ（ESC）」は、早いもので4年が経過しました。新型コロナウイルス感染症は5類に移行し少しずつではありますが、コロナ前の感覚を取り戻してきた活動となっていいます。

ボランティアの皆様には、引き続き子どもたちのためにご協力をお願いいたします。

読み聞かせボランティアをはじめ、図書館ボランティア、旗振り見守りボランティア、藤棚整備などなど順調に進んでいます。子どもたちにとっての良い環境を目指し、微力ながら協力してまいりたいと思えます。

結びに、学校応援団の取組について、ご理解とご支援を賜りました皆様方に心より感謝申し上げます。

## 6 学校長より

本校では、「学校応援団」の活動に対してより親しみをもつていただくために、「江戸小サポーターズクラブ（ESC）」と令和元年度より名称を変更しました。「江戸小サポーターズクラブ」では、学校と学校の教育活動を支援される皆様方が協働で児童の学習環境の充実に向けた活動を行っております。

これまでの活動内容を「江戸小サポーターズクラブ」として学校ホームページで紹介することができました。

関係者の皆様方には本校の教育活動を支えていただき、深く感謝申し上げます。

今後も新規に登録していただける方が増加するように、サポーターの皆様方との連携・協働を推進していきたいと思えます。

# 一之江小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

一之江小学校長            伊藤 秀一  
 コーディネーター        牧島 孝行

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
本よみ隊！	学期に2～4回	15人
登下校見守り	週5回	全保護者
ゲストティーチャー	不定期	2人
図書室整備	年2回	20人
全校花いっぱい活動	年2回	20人
書初め練習	年1回	3人

## 4 今年度の成果と課題

### <成果>

「本よみ隊！」

朝読書の時間に、読み聞かせボランティアを募集して、本の読み聞かせを行ってくださっています。子供たちが興味をもつ本を選定し、工夫して読んでくださいます。

また、掲示物を定期的に作成し、本への関心を高めてくださっています。右図は、2学期末の、コーナーの様子です。

読み聞かせ計画は、上学年の日、低学年の日、と分け、

- (1) 計画
- (2) 募集
- (3) 調整
- (4) 実施
- (5) 振り返り、計画

の流れで、今年度は、年間を通して、実施しました。



1、2月についても計画中です。

「図書室整備（本の分類を中心に）」

○ボランティアを募集し、区立図書館職員の方と連携して、行いました。使いやすく本に親しみやすい環境をみんなで作りました。図書が整理され、児童も図書室を喜んで使っていました。

○図書の分類・シールの貼り替え



「登下校見守り」

○毎日たくさんの保護者様が来てくださり、児童の安全が確保されました。



「書初め練習」

○すすすくスクールの時間に講師の先生を中心にサポートセンターの方にも参加いただき、子供たちが、熱心に取り組みました。



「全校花いっぱい活動」

○保護者ボランティアの皆さんが、雑草を取ったり、土を柔らかくしたりして花壇を整備してくださいました。子供たちは、ボランティアの方々の声かけを聞き、一緒にお花を大切に植えていました。学校が花でいっぱいになり、自然を愛する気持ちが育っています。



「ゲストティーチャー周年記念に向けて」

○連合町会長さん、学校応援団長さん、PTA会長さんに、昔の一之江小学校についてお話をいただき、みんなで聞いたり、卒業生のハーモニカ奏者の方にお話と演奏をいただいたりしました。



## <課 題>

今年度は、読み聞かせも4月から、計画的に実施できました。楽しい読み聞かせの時間を普通に楽しむことができ、子供たちの笑顔が広がりました。図書室整備ボランティアも図書室の整理にお力を貸してくださいました。

全校花いっぱい活動では、花壇整備から、苗植えの準備、児童との活動、すべてに活動できました。

活動人数、人材の確保は何年も続いている大きな課題となっています。中心となって活動して下さる方々、卒業生OBで活動して下さっている方々に加えて、保護者の方・地域の方のさらなる参加を促進していくことが、今後の学校応援団の充実につながると考えます。児童の笑顔を共に創っていく喜びを伝え、今後も活動を工夫してまいります。

## 5 コーディネーターより

子供たちの笑顔を大切に、学校応援団としてできることをこれからも考え、多様な体験の機会が持てばうれしく存じます。健全な子供たちの成長をめざし、小中連携も念頭に、地域の学校としての一之江小学校を支えていくことに力を尽くしていきます。

## 6 学校長より

今年度は、70周年記念の年でした。子供たちが、地域の皆様との絆を深める体験をさせていただけて大変ありがたかったです。温かいご支援により、子供たちが心豊かに育っていることに感謝申し上げます。皆様それぞれの思いと努力が子供たちの大きな支えとなっております。今後も学校応援団の皆様と手を携えて、さらに地域に誇れるよりよい学校づくりに励んでまいります。

# 一之江第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

一之江第二小学校長 木野 治喜  
 コーディネーター 溝口 泰志



## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	70人
	学生ボランティア	0人

3 今年度の活動状況 応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
金魚会 (子供活動応援団)	PTA ふれあいまつり手伝い・クリスマス会 不定期	20人
ぐりぐら会 (環境応援団)	毎月の整備 ・図書整備 本の分類・整理、修復等の実施 ・図書室の装飾、特設コーナーの設置	15人
いち・にの・くれよん♪ (読書活動応援団)	読み聞かせ 毎月1回	25人
見守り隊 (安全・安心応援団)	登下校時の安全の見守り 週5回	10人



見守り隊



いち・にの・くれよん♪



ぐりぐら会



金魚会 クリスマス会





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・金魚会（子供活動応援団）の行事は、4年ぶりにクリスマス会を開催することができた。子供たちの多くが初めての経験となり、ゲームや工作などで楽しむことができた。
- ・昨年同様、学校図書館の整備は、活動制限の影響を受けにくく、計画的・定期的に環境整備を進められた。季節感に満ち溢れた装飾により、楽しい雰囲気の中、児童が学校図書館を利用している。また、オススメ本が展示され、気軽に親しむことができている。
- ・読み聞かせが継続的に行うことができ、児童は学年を問わず、お話の世界に浸ることができた。豊かな情操を養っていく上でも、有効であった。

### <課 題>

- ・継続していくためには、人材の確保していくことが必要であり、そのために活動を広めていくことが今後の課題と考える。

## 5 コーディネーターより

学校応援団は、学校と地域、そして保護者が協力して子供たちにとってよりよい環境づくりを推進するということを大切に運営してきました。

今年度は、4年ぶりに金魚会の活動も行うことができるようになり、学校応援団の全ての活動を行うことができました。今後も、子供たちのために保護者や地域と協力して、二小応援団の活動内容を可能な形で、充実したものにしていきたいと考えています。

## 6 学校長より

学校応援団の取組は、学校を応援してくださる皆様のご理解とご支援をいただきながら、安全対策を講じて実施されています。

地域安全「見守り隊」の皆様による児童下校時の見守り、「いち・にの・くれよん♪」の皆様による読み聞かせは、子供たちとの交流もあり、心のつながりが生まれています。「ぐりぐら会」の皆様による図書館整備は、子供たちの目にはふれない活動風景ながら、装飾や推薦図書の展示を見ながら感謝の気持ちをもっています。そして「金魚会」の活動は、多くの子供たちが他学年と楽しみながら交流する機会となっています。

今後も「人の和」を大切にしながら「笑顔あふれる一之江第二小学校」を目指してまいります。

# 鹿本小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

鹿本小学校長            奥村 孝史  
コーディネーター      飯沼 倭雄

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学習ボランティア	不定期	3人
読み聞かせ	週1回（毎週金曜日）	10人
図書室環境整備	月2回	
おやじの会	7月8日（土）に水鉄砲大会を開催 10月28日（土）に飯盒炊爨・学校探 索のイベントを開催	17人
子供見守り隊	朝の登校時週5日、 6月、11月の一斉下校時各1回	14人

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

#### [学習ボランティア]

- ・学習ボランティアの活動を再開する予定であったが、実質的な活動は行えなかった。
- ・ボランティア活動を行う際に、会議室を利用しているため、活動が再開した時のことを考え、室内の整理や整頓を行った。いつでも再開できる準備ができています。

#### [図書ボランティア（おはなしバンビの会）]

- ・図書室の整備や壁面装飾の作成、読み聞かせの練習・講習等を月に4回程度行った。
- ・児童の読み聞かせは、毎週金曜日の朝読書の時間に全学年で4クラスずつ行った。
- ・読み聞かせの活動は定着しており、児童も楽しみにしている。

## [おやじの会]

- ・おやじの会が主催して、7月9日（土）に水鉄砲大会を行った。児童からは、「またやりたい」等の言葉が多く聞かれた。また、10月28日（土）に飯盒炊爨・学校探索のイベントを行った。在籍児童の半分の児童が参加した。高学年は飯盒炊爨及びカレー作りを行った。体育館でのゲームや夜の学校探索など、児童にとって楽しい活動ができた。

## [子供安全見守り隊]

- ・集団登校は年度初めの5月の連休終了までと、2学期の学期初めの1週間、児童の安全のために、地域に立っていただき安全を見守っていただいた。3学期の学期初めの1週間も集団登校を行う予定である。また、6月と11月の一斉下校の日には、子供見守り隊の方にも参加していただき、登校班ごとに児童との下校に付き添っていただいた。

## <課 題>

- ・学習ボランティアはご高齢の方も多くいらっしゃるために、ほとんど活動が行えていない。また、コロナ前の学習ボランティアの活動をしていたところを知っている教職員もほとんどいなくなり、どのような場面で学習ボランティアの方に入ってお手伝いいただけるかがよく分からず、なかなか活用することができなかった。高齢の方も多くいらっしゃるのので、どの程度の活動をお願いしていくか、今後検討をして活動を再開していきたい。
- ・図書ボランティアの活動はコロナ前の活動に戻りつつある。メンバーをさらに増やし、安定した活動ができるようにしていきたい。

## 5 コーディネーターより

コロナ以降、学校に出向くことができず学習ボランティアの活動は全くできなかった。活動ができないことで、メンバーの気力が無くなることの心配や、現在の1年生から4年生は学習ボランティアとの関わりが無いことから、再開した際に上手に関われるかが心配である。また、学習ボランティアの活動が止まってしまっていることで、新しいボランティアの方を迎えられていないことも課題である。このままの状態を一旦終わりにしてもいいのではないかという意見もあったが、学校と相談し、3学期から少しずつ活動を始めることになったので、今後、続けられる範囲で進めていければと思う。

## 6 学校長より

学校における教育活動の制限も緩和され、これまで学校で行ってきた活動の多くが再開されました。それに伴い学校応援団の方たちの活動も再開し始めました。中でもおやじの会を中心とした活動では、これまで制限のあった接触を伴う活動ができるようになり、水鉄砲大会、カレー作り、学校探索等、毎年楽しみにしていた活動の再開に子供たちの笑顔が溢れました。今後は学習ボランティアの方々も可能な範囲で協力していただけるといことなので期待をしています。

# 鹿骨小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

鹿骨小学校長            渡邊 浩輔  
 コーディネーター      進藤 康之

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	50人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
放課後オンライン教室	週1回	2人
花と緑のボランティア	年3回	10人程度
英会話教室ボランティア	月2回	8人
漢検・数検ボランティア	年2回	5人程度
運動会やマラソン大会での安全確保等	年2回	10人程度
夏祭り（花火会）ボランティア	年1回	10人程度
屋上ガーデンボランティア	不定期	5人程度

### 放課後オンライン教室

学習用タブレット端末を使って、  
電子ドリルに取り組んでいます。



### 屋上ガーデン

「雑草抜き→種まき→収穫」  
小松菜を育ててみました。



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 今年度も地域の小松菜農家の方が全面的にサポートしていただき、3年生を中心に小松菜やラディッシュの栽培を行った。畑づくりや種まきの際は、保護者ボランティアの方も参加していただき、昨年度に引き続き児童にとって貴重な体験となった。今後も学校応援団を中心に運営していく中で、より多くの保護者や地域の方の参加を促し、大人同士の憩いの場、コミュニケーションの場となるような活動に発展させていきたい。
- 「放課後オンライン学習」は、ボランティアの方の見守りのもと、参加児童は、学習用タブレット端末を使って「電子ドリル（ドリルパーク）」の学習問題に取り組み、楽しくも実のある学習機会となった。「友達と一緒に学習することが楽しい」と感じている児童も多く、学習用タブレット端末を巧みに操作しながら、自主的に学習に取り組んでいる。
- 昨年度に引き続き、夏季休業中に、本校校庭で、学校応援団主催の夏祭り（花火会）を実施した。昨年度より参加者も増え、親子で思い出となるイベントとなった。また、当日は、昨年度以上に多くのボランティアの方が準備や近隣の見回りをしてくださり、安全・安心な運営につながった。
- 低学年を対象にした「放課後英会話教室」は、2回で1クールのレッスン内容に変更し、レッスン内容がより明確になったことで、参加児童の保護者がより主体的に運営できるようになった。また、今年度も昨年度と同様、参加児童の保護者が中心に運営することで、下校時等の安全を確保することができている。

### <課 題>

- 協力してくださるボランティアの方が固定化してしまう傾向は変わっていない。学校ホームページや配布物等を活用して保護者への呼び掛けを活発にし、学校応援団の活動に興味を持っていただくとともに、参加しやすい環境を整えていくことで、より多く方に参加していただけるようにしていきたい。
- 来年度末で閉校となり、令和7年度には松本小学校との統合が控えている。来年度以降は、両校でこれまで取り組んできた内容を整理し、統合後の学校応援団の活動の在り方や内容について、計画的に調整する必要がある。

## 5 コーディネーターより

- 今年度も、これまでご協力いただいたボランティアの方々に引き続き参加していただくだけでなく、新たなメンバーも迎え、充実した活動を行うことができました。特に、屋上ガーデンは、昨年度に引き続き地域の方のご協力もいただき、子供たちにとってもよい体験となったようです。本当に感謝しております。  
令和7年度には統合も控えており、来年度は、鹿骨小学校最後の年となります。学校応援団として、子供たちにやってあげられること、喜んでもらえることをこれまで以上に意識しながら、学校と連携して、活動していきたいと考えています。

## 6 学校長より

- 今年度のスローガンを「一歩先へ」とし、学習面でのサポート、レクリエーションでのサポート、安全のサポートなど、多岐にわたる活動をしていただきました。これらの活動は、子供たちと対面した形での活動が多くありました。子供たちは、学校応援団の皆様の活動を通して、これから地域に貢献していこうとする心が育っています。これからも、学校応援団の皆様とともに、楽しい取組、地域への貢献について考え、実践していきたいと考えています。

# 鹿骨東小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

鹿骨東小学校長 中田 伸代  
 コーディネーター 杉田 省吾

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

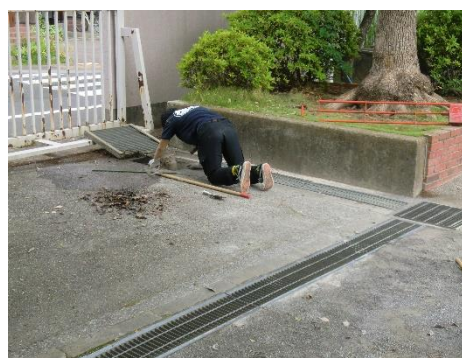
学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	82人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安全・安心見守り隊	週5回	23人
図書ボランティア	学校図書館週1回 児童読み聞かせ月1回	13人
グリーンボランティア	不定期 学校菜園の整備 米作りの指導・助言	16人
環境整備（おやじの会）	不定期 学校の側溝清掃 各種イベントの企画・運営	30人



グリーンボランティア  
による稲刈り指導です。



おやじの会の皆さんに、側溝清掃をしていただいています。



図書ボランティアによる読み聞かせをしています。

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

本校は、全学年実施の「ふるさと学習」をはじめ、様々な教育活動に地域の方々の協力をいただいている。まずは、安全見守り隊の方々のお力添えである。毎朝の登校の見守り、児童にたくさん声掛けをしてくださるので、児童の挨拶が活発になり、児童の変化も共有できる。また、登校時の交通事故は発生していない。大変心強い存在である。

次に、グリーンボランティアの方々には、稲作の準備や刈り取った米の脱穀、菜園での植物栽培にご協力をいただき、教育活動を円滑に進めることができた。おやじの会の皆さんには、学校の側溝清掃や各イベントの運営、学校図書司書と図書ボランティアの方々には、学校図書館の環境整備をできたことで、図書指導が充実した。前述のふるさと学習を含め、みずからの地域「鹿骨」を愛する気持ちを育てる教育活動を展開することができた。

### <課 題>

本校を支える応援団の皆さんが、高齢化している。体力的に厳しい中でも少しでも協力して下さろうと毎日、登校を見守ってくださっている。若い世代の応援団員を加えることが課題である。

本地域は、学校への愛着と期待、協力への温かい気持ちが強い。教育活動をできる限りオープンにし、児童・教員と地域の人々が触れ合える機会や地域の方々の能力を教育活動に発揮できる機会を増やしていきたい。PTAをはじめとして、地域への呼び掛けを新年度初頭にする予定である。

人材を確保・維持することと、併せて、学校職員の多数の異動者があったとしても、ふるさと学習等で地域の方々から得た知見を継承できるようにしていくことが必要である。

## 5 コーディネーターより

今年度も事故などなく、無事に完了でき感謝申し上げます。特に見守り隊の皆様におかれましては、毎朝子供たちのために取り組んでくださり、本当に頭が下がります。ありがとうございました。

今年度は、学校側のご配慮により各イベントの参観を応援団の皆様にも公開していただけたことは良かったです。

## 6 学校長より

本校は、地域の皆様の子供たちを大切に育てようとするあたたかい想いに支えていただいています。ボランティアの皆様には在校生の保護者のみでなく、本校の卒業生や以前、お子様やお孫様が在校していた方々がいらっしゃいます。何世代も続いて鹿骨東小の児童に愛情を注いでいただくボランティアの皆様は心より感謝申し上げます。

# 松本小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

松本小学校長 吉田 佳代  
 コーディネーター 二村 寿三

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	93人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
グリーン ボランティア活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農園や校庭果樹の管理 [通年]</li> <li>・果樹・作物の栽培、収穫の指導と補助 [通年]</li> <li>○みかん（1年） ○さつまいも（2年）</li> <li>○小松菜（3年） ○梨（4年）</li> <li>○稲 田んぼでの田植え、稲刈り、脱穀（5年）</li> <li>○サクランボ（6年）</li> <li>・校庭の芝生の管理[通年]</li> </ul>	5人
「心のごはん」活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学級での読み聞かせ [毎月1回]</li> </ul>	13人
安全・安心の見守り活動 朝の挨拶運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、当校時の安全見守り [通年] (通学路の交差点、横断歩道等で)</li> <li>・毎朝、正門・東門での登校時の安全見守り、挨拶の言葉かけ [通年]</li> </ul>	35人
ヤギのお世話	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校が休みの時のやぎのお世話 [通年]</li> </ul>	40人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

心のごはん「読み聞かせ」では、子どもたちが毎回楽しみに聞く様子が見られた。絵本ではなくてもしっかりと耳を傾け、情景を想像しながら聞く姿に、子どもたちの成長を感じた。

実のなる木の活動では、5年生が稲を苗植えから、刈り取って脱穀し、米にして食べる活動まで行った。この活動を自分たちでまとめ、発表方法を考えて学習発表会で発表した。体験しないと分からないこと、体験して広がった考えが込められた素敵な発表となった。

やぎのボランティア活動も2年目を迎えた。「人が好きで人が来るのを待っていて、鳴いて出迎えてくれます。」「とてもかけがえのない経験です。」「無心で掃除をしていると、気持ちがすっきりします。」など、やぎのお世話を通してさまざまな感想が聞かれるようになった。

挨拶運動を継続することで、自分から挨拶ができる児童が増えてきた。ヤギと一緒に出迎えることで子どもたちの笑顔が増えている。

### <課 題>

5年生では、1年を通して稲と関わることでさまざまな学びとなった。しかし、そこまで関わりを広げることができなかった学年もあったので、5年生同様、学習とどのように関連させ、体験を様々な学びとしていけるかを考えていく必要がある。

心のごはん「読み聞かせ」では、新たにボランティアを経験していただいた方もいたが、なかなかメンバーを増やすことができなかった。子どもたちにとって学びが多く、また、やりがいのあるボランティアなので、ぜひ活動の素晴らしさを広めて、メンバーを増やしていきたい。

来年1年で鹿骨小学校と松本小学校が統合することになるので、次年度のことは見据えて活動の継続を考えていく必要がある。

## 5 コーディネーターより

今年度も学校応援団コーディネーターとして、松本小学校の児童と1年間関わることができました。様々な活動を通して、子どもたちのたくさんの笑顔に触れることができたことは嬉しく思います。学校の先生とは違った立場で、また違った目線で子どもたちと触れ合い、子どもたちの可能性を引き出すことのお手伝いが少しでもできたのなら何よりです。

松本小学校は、来年度を最後に統合となります。統合した後も子どもたちにとって実りのある応援団となれるよう、応援団員みんなで力を合わせて様々な活動に取り組んでいきたいと思えます。

## 6 学校長より

今年度も学校応援団の皆様には、「グリーンボランティア活動」「朝のあいさつ運動」「心のごはん」「やぎのお世話」「安全・安心見守り活動」と、多大なるお力添えをいただき、ありがとうございました。皆様のご協力があり、他ではできない様々な体験と共に、子どもたちのたくさんの笑顔を見ることができました。心より感謝申し上げます。

今年度、初めての学習発表会が実施され、学校応援団にご協力をいただいた学習をもとに、立派な発表を行いました。体験を通して得た知識は、子どもたちの心に様々な疑問や探究心を生み、皆さんに伝えたいという意欲にもつながりました。また、「やぎの誕生会をやりたい。」と、自分たちで考えた誕生会も実施しました。やぎとの触れ合いが優しい心も育てております。子どもたちの成長が楽しみです。今後どうぞよろしくお願ひいたします。

# 本一色学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

本一色小学校長           末松 睦士  
 コーディネーター       吉野 誠司

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	52人
	学生ボランティア	3人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせ	月2回(隔週水曜日)	37人
図書館壁面装飾	月1回(第1木曜日)	37人
農園整備	不定期	2人

### 学校園での活動



図書館壁面装飾ボランティア作成の装飾



読み聞かせボランティアの活動



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・月2回、水曜日の朝の時間に保護者の方が本の読み聞かせをしてくださっている。読み聞かせを通して子どもたちは本に親しみをもつようになっている。
- ・図書館装飾ボランティアの方々は、季節に合った装飾で、図書館を居心地のよい空間にしてくださっている。また、使いやすい図書館を目指し、図書の整理にも取り組んでくださり、図書館が活用しやすくなった。
- ・地域の方から貸していただいている学校園での活動は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかったが、今年度から活動を再開することができた。学校園での活動は、子供たちにとって貴重な体験となっている。

### <課 題>

- ・学校応援団の取り組み活動内容を保護者や地域の方に周知しているがメンバーが集まりにくいことが課題である。学校便りやホームページ等で広くその活動内容を知らせ、関心をもっていただく。
- ・学校応援団メンバーを増やしていくために、参加しやすい組織作りや運営方法などを改めて考えていく。

## 5 コーディネーターより

今年度も地域の皆様、保護者の皆様にご協力いただき、学校応援団の活動が行われました。そのおかげで、子供たちの教育活動が充実したものとなっています。これからも、多くの方に学校応援団の仕組みや活動について、協力していただくことが必要です。地域・保護者・学校が協力して関わっていくことが大切であると思っております。

今後も、PTA・学校と連携を深め、学校の活動に協力できるような充実した活動が展開できるようにしてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

学校応援団の皆様は、読み聞かせや学校図書館整備など、子供たちの健全育成のために活躍してくださいました。また、ゲストティーチャーとして授業に協力していただいた方も多くいらっしゃいました。子供たちにとって地域や保護者の方との学習は、自分の生活に結びついた学習になるので、学習意欲の向上につながります。ご多用の中、今年度も本校の教育活動にご支援、ご協力いただきましたことに、深く感謝申し上げます。

# 篠崎小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎小学校長 佐藤 美緒  
 コーディネーター 佐々木 堂至

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	65人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせボランティア	隔週火曜日	13人
図書整備ボランティア	不定期（月3回程度）	12人
農園栽培ボランティア	不定期	30人
凧作りボランティア	不定期	10人

図書室整備の様子



サツマイモのつる切りの様子



読み聞かせの様子



凧揚げの様子



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

#### ○図書整備ボランティア

5月30日より図書室での授業がない時間や児童が使用しない給食の時間に2～11名程度で集まって図書室の本の整理や清掃・補修、また図書室内の季節ごとの装飾等を行ってくださった。新校舎となり、壁面の掲示が難しくなった中でも工夫して行ってくださったことに大変感謝している。また、図書館職員とも連携し活動できていた。新しい図書室の中で、児童が気持ちよく読書活動ができるよう常に子供目線を入れた環境作りを続けてくださっていた。

#### ○読み聞かせボランティア

5月16日の1年生を皮切りに今年度は読み聞かせボランティアがスタートした。季節や行事に合わせて本を選択し読み聞かせを行ってくださったりすることで、学年問わず集中して楽しんで本の世界を味わっている。ボランティアの方もいつも楽しみながら取り組んでくださる。それが子供たちにも伝わっており、身を乗り出し聞き入っている児童がいるクラスもあった。

#### ○農園ボランティア

「サツマイモのつる切り」では、今年もボランティアの方を中心に丁寧につる切りをしていただいた。そのため、児童の活動を無駄なく進めることができた。また、水まきや雑草抜き、その他畑を耕してくれたり、農園の状況を見ながら声をかけあって取り組んでくださった。

#### ○凧作りボランティア

今年度も全学年の担任へ凧の下絵書きから凧作りについて丁寧に指導してくださった。凧揚げは河川敷で12月の土曜日に揚げたが、当日、児童へ凧の揚げ方についても指導もしてくださった。また、今年は開校140周年記念式典の開催にあたり、大凧を沢山作成し、体育館で来賓の出迎えを大いに盛り上げることができた。

### <課 題>

○コロナ禍が続いたことで、ボランティアを集めることが現在も大きな課題となっている。年度当初に募集をかけるだけでなく、様々な案内や紹介方法を検討し、周知していかななくてはならないと感じている。

## 5 コーディネーターより

いつもたくさんのボランティアの方が協力してくださることで、篠崎小学校の児童は大変気持ちよく学校生活を送れているのではないのでしょうか。子供たちがこの篠崎小をもっと好きになってくれるよう、これからも活動をいろいろと工夫していければと思っています。学校、保護者、地域を少しでもつなげていけるように取り組んでいきたいと思っています。

## 6 学校長より

令和5年度も、学校応援団ボランティアの皆様が篠崎小学校のために積極的に関わってくださいました。本校は今年度、開校140周年と新校舎落成を祈念する行事がありました。日常の活動に加えた活動もあり、本校の特色である地域の伝統文化の凧作りや学校農園等を充実していくことができました。農園ボランティアの方々は開校140周年を記念する農園の看板を作ってくださいました。凧作りボランティアの方々も開校140周年を記念する大凧を作ってくださいました。大変ありがたく思っております。引き続き、「篠小応援団」の皆様と協力しながら、篠崎小学校の教育活動がさらに充実していくよう、教育活動を進めてまいります。



### 1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第二小学校長 高橋 宏幸 コーディネーター 佐々木 仁

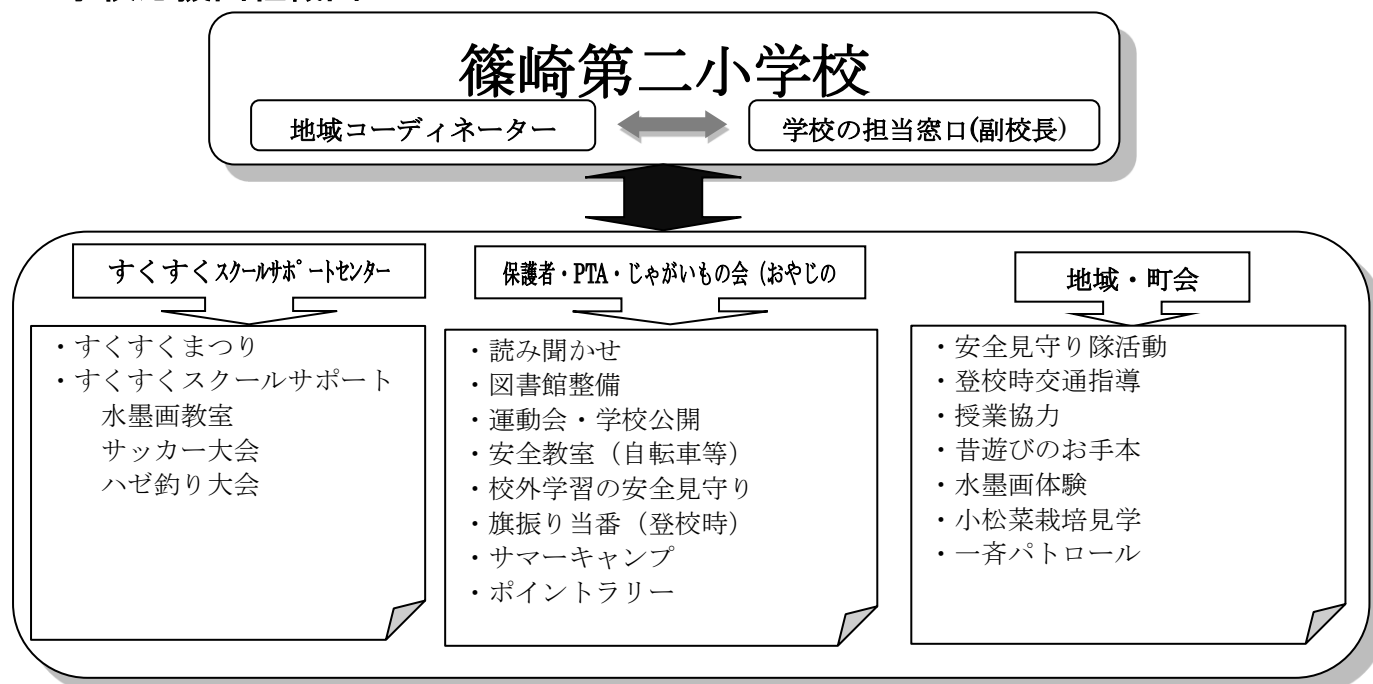
### 2 ボランティア登録数（令和6年1月現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	63人
	学生ボランティア	0人

### 3 今年度の活動内容

	応援団の名称	活動内容
地域・町会	登下校パトロール	○通学路で登下校の安全を見守る。 4人【一斉下校パトロール時】
	水墨画指導	○総合的な学習での水墨画の指導 1人
	読み聞かせ	○学級に入って本の読み聞かせをする。 3人
	小松菜栽培見学	○小松菜栽培の指導や見学をさせてくれる。 2人
保護者・PTA・じゃがいもおやじの会	旗振り	○登校時の安全を見守る。(毎朝) 25人
	登下校パトロール	○通学路で登下校の安全を見守る。 5人【一斉下校パトロール時】
	交通安全教室	○自転車教室等でのお手伝い。 10人程度
	学校行事の際の受付対応	○学校公開、運動発表会等の受付 10人程度
	読み聞かせ	○学級に入って本の読み聞かせをする。 5人
	ミシン学習支援	○安全を見守り技術指導の支援をする。 4人(今年度はなし)
	調理実習支援	○安全を見守り技術指導の支援をする。 5人(今年度はなし)
	図工学習支援	○安全を見守り技術指導の支援をする。 随時募集(今年度はなし)
	図書館整備	○本の修理や本の整頓を行う。 随時募集(今年度はなし)

### 4 学校応援団組織図



## 5 今年度の成果と今後の課題

### <成果>

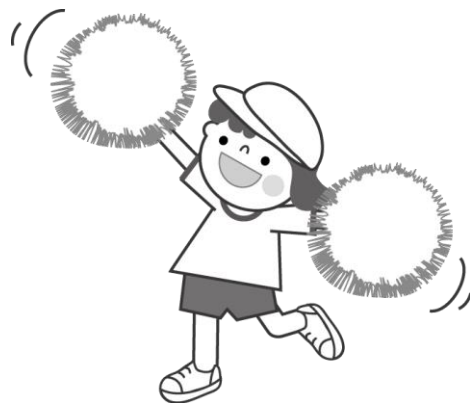
篠崎第二小学校のさまざまな教育活動に、「学校応援団」の方々の協力を得ることができました。朝の読み聞かせは低・中・高学年の全学年で行われ、子供たちが読書への興味・関心を高めることとなりました。授業では、校外学習時の安全確保や5年生の「水墨画」の専門的な要素の高い内容を地域の専門家の方にお越しいただき実施することができました。その他にも、学校図書館の整備や学校行事の際の安全パトロール、お花を植える協力など多くの場面で応援をしていただきました。

### <課題>

学校応援団は、これまでも「おらが学校」のために一肌脱ぐ方々で実質的に組織されてきました。本校では開校当時から脈々と続く「応援団」魂が受け継がれ、現在、「篠崎第二小学校学校応援団」として教育活動のサポートをいただいています。そのサポートは副校長を窓口として各応援団員の方々に依頼をし、協力していただいています。しかし、現在応援団の方々の高齢化が進んでおり、今後、地域人材の発掘と学校応援団の理解を求めていくことが課題です。

## 5 コーディネーターより

地域の方々の中には、自分自身がまたは子供が篠崎第二小学校にかかわった方が多いようです。母校のために何か協力ができないかと思っている方は多いです。コーディネーターとしてそのような応援の「心」と学校からの「要望」をつなぎ合わせて、篠二小の教育がさらにより良いものにしていこうと考えています。



## 6 学校長より

いつも、篠崎第二小学校のために様々な場面で、保護者、地域の方々に支えていただいています。子供たちの安全と学びの向上のために、付き添っていただいたり、パトロールをしていただいたりと、その応援ぶりには頭の下がる思いです。こうした保護者・地域の「応援団」の方々の姿そのものが子供たちにとって、「ふるさと江戸川」を知る良質な『教材』となっています。今後とも、子供たちが健やかに育つ学びの場としての学校を応援団の方々と一緒に創っていきたいと考えています。よろしくお願ひします。



# 篠崎第三小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第三小学校長 佐藤 敬一  
 コーディネーター 関口 晃

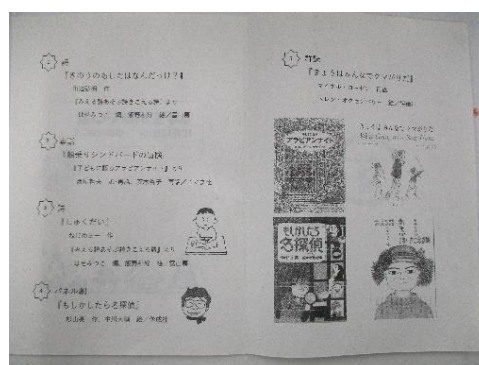
## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	43人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
安心・安全見守り隊	毎日の登下校時 SPSパトロール	26人
学校図書館業務	毎週木曜日	15人
読み聞かせ	毎週水曜日	15人
学校行事・PTA活動 支援・サンクラブ	不定期(学校公開受付・フェスティバル運営・体 育学習発表会・学習発表会受付・見回り)	15人
授業支援	不定期(9月職場体験 10月金管バンド引率 11月はこべ学級琴指導 1月書き初め大会手伝い 2月家庭科ミシン学習補助)	26人

ウェズレーの会による「お話し会」



クリスマス ツリー準備



毎日の見守り



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 新旧のコーディネーター、PTA 会長・副会長・管理職と顔を合わせ、今までの活動の引継ぎや、今年度の活動について情報共有をすることができた。今後も学校・学校応援団・PTA で連携を図っていく。
- 6年生の職場体験のグループの引率をしていただき、事業所への往復の安全管理を行うことができた。
- 家庭科のミシン授業や書き初め大会、金管バンドの引率サポートなどしていただき、大変有難かった。
- はこべ学級の学習発表会の出し物として、琴の指導や練習のサポートをしていただいた。当日も見守っていただき練習の成果を発表することができた。
- 雨の日も風の日も毎日登下校を見守ってくださったおかげで、安全に登下校ができた。保護者からも感謝の声を聞いている。
- 定期的に本の読み聞かせやお話会を行い、読書活動が充実し児童が本を好きになった。また低学年の学級文庫の入れ替えを定期的に行い、子供たちが新しい本を手にする機会を得ることができた。
- 定期的に本の整理や修理を行い、学校図書館がきれいになり使いやすくなった。

### <課 題>

- コロナにより様々な学校行事の開催形態が変わったことで、学校応援団の方々による支援の機会が減少したが、できることを検討・実践し、活動の充実を図る。
- 学校応援団の活動を児童や保護者に今以上に周知するために、活動の紹介などの啓発活動を行っていく。
- 教員と学校応援団との打ち合わせ時間を確保し、より充実した活動となるようにする。

## 5 コーディネーターより

学校応援団コーディネーター 関口 晃

コロナにより、学校行事等が制限され、学校応援団としての活動が縮小していましたが、今年度、新旧のコーディネーター・PTA 会長・副会長・学校と打ち合わせ、活動の確認や今後の流れについて、共通理解を図ることができました。

安全見守り活動や、学校図書館支援活動等、今までの活動も継続しつつ、今年度4年ぶりに復活した6年生の職場体験、ミシンの授業補助、書き初め大会の補助等、多くの支援活動ができたことが大きな成果となりました。今後も、学校応援団の一員として積極的に関わっていきたいと思いますので、メンバーの皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

毎年、たくさんのお力をお借りして学校の教育活動を進められていることに感謝申し上げます。「子供は地域の宝」と言いますが、子供たちがたくさんの方々に関わっていただいていることを、とても有難く思います。子供たちにも自分たちの周りで力を貸して下さっている方々がたくさんいることを伝えていきます。今後も学校応援団の方々、地域の皆様に助けていただきながら子供たちを育ててまいります。引き続き、本校の教育活動にご支援・ご協力をお願いいたします。

# 篠崎第四小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第四小学校長 国分 靖  
 コーディネーター 風間 春彦

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	59人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備	月4回	10人
読み聞かせ	不定期	6人
登下校見守り	月1回	40人
防災部	不定期	3人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・校長の学校経営方針に基づき、ボランティア組織（ブックママ・おはなし隊・防災部）と連携をとり、現状できる活動をその都度確認しながら、学校応援団の活動を継続させることができた。
- ・図書室の整備では、児童の実態を考慮し、本に親しむ環境を整えることができた。また、録画による読み聞かせを行うことができた。
- ・町会と連携し、避難所開設についても共に考え、今後、実際に起こった時に備えられるよう情報共有を行うことができた。
- ・登下校の安全についても、地域と連携をとり見守ることができた。
- ・花の苗植えなど、学校環境美化についても協力できた。

### <課 題>

- ・ここ数年の限られた活動から従来のような活動に戻していく必要がある。今後に向けて、従来と同じような活動というより、新たな活動を工夫する必要がある。次年度以降も、活動を止めることなくできる範囲での活動を考えていかなければならない。
- ・学校応援団の活動を、あまり知らない保護者の方がいまだ少なくないので、学校ホームページなどで発信し、地域みんなで児童のためによりよい学校を創っていくよう努力を続ける。
- ・登校見守りについて、人数を増やしていけるとよいので今後も啓発、アピールを続けていきたい。
- ・今後も「共育・協働」をさらに進め、本校児童の心豊かな「育ち」と、確かな「学び」のために地域の資源・人材をより積極的に活用していく。

## 5 コーディネーターより

篠崎第四小学校は、学校・保護者・地域が一体となり、全校児童が、安全で安心して楽しく学校生活を送れるように取り組んでいます。「学校応援団」の活動と今後もその継続にあたり、その活動を少しでもお手伝いができるものと考え、本年度も活動を推進してきました。

今後も、応援団のスローガンにある「できるときに、できる人が、できることを」を合言葉に、保護者と地域の方の協力のもと、様々な学校への支援活動をしていきたいと思えます。

## 6 学校長より

篠崎第四小学校は、全校児童が安全で安心して楽しく学校生活を送れるように、保護者・地域のお力添えを得て、活動に取り組んでいます。既存団体をはじめ、ボランティアの方々の協力で、子供たちのために良い環境を作ることができています。子供たちの主体的・対話的で深い学びを実現するためにも、学校応援団の方の力を貸していただきたいと思っております。今後も、子供たちの伸びや高まりを目指し、本校の「共育・協働」をさらに一層進めていきます。

# 篠崎第五小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

篠崎第五小学校長 山田 勇一郎  
 コーディネーター 川上 巖

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	40人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	月1回程度	14人
農園ボランティア	5・6月…月1回 7・8・9・10・2月…月2回	20人
行事サポート	不定期	10人
学習サポート	不定期	10人
朝のあいさつ運動	年間6回程度（各1週間）	24人
下校パトロール	学期1回程度	12人



田植え補助（農園ボランティア）



読み聞かせ（図書ボランティア）

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

#### ・読み聞かせ

昨年までは、感染症予防のためオンラインでの読み聞かせであった。今年度は令和元年度までと同様に、低学年向けと高学年向けに分けて発達段階に応じた絵本を選定し、それぞれの読書タイムに対面での読み聞かせを学級ごとに行った。絵本の見せ方や読み方の練習を行ったことで効果的な読み聞かせが実現し、3年ぶりの対面での読み聞かせは、子供たちを本の世界にどんどん引き込んでいっている。子供たちは対面の読み聞かせに集中して、本の世界を楽しむことができ、本に対する興味もさらに深まってきている。

#### ・農園活動

本校には、竹林、田んぼをはじめ、広い農園が校舎の東側にある。タケノコ堀り、田んぼの代掻き・田植え・稲刈り・脱穀、畑の整備等、年間にわたって学校応援団の計画的な活動により、素晴らしい収穫を得ることができた。子供たちだけでは、この広い農園の整備や難しい作業を行うのは難しい。夏季休業中の猛暑の中での学校応援団の活動も含め、その活動のおかげで子供たちは様々な体験や収穫の喜びを得ることができた。

#### ・行事・学習サポート

今年度は、感染症の影響もなく様々な教育活動を進めていけるようになった。行事や学習のサポートで、行事や学習をスムーズかつ安全に行うことができた。



### <課 題>

・組織だった計画的な人員募集や年間を通した活動計画を、整備していきたい。

## 5 コーディネーターより

読み聞かせの活動では、3年ぶりの対面での読み聞かせができるようになったため、子供たちの生の反応を得ることができ、さらなる活動意欲の向上につながっている。今後も児童が本と触れ合う機会を増えることを望みつつ、読み聞かせの充実と人員確保を進めていきたい。

農園活動は、担当の先生との連携を図りながら進めていった。児童が怪我をしないよう、また目的の学習成果が得られるように、準備や作業を行ってきた。次年度はさらに連携を強化し、年間の活動の見通しをボランティア同士で周知し、活動に生かしていきたい。

## 6 学校長より

今年度は、様々な教育活動を感染症予防の制約を受けずに行えるようになった。本校の特色ある教育活動である農園活動はじめ、読み聞かせ、行事・学習のサポート等、様々な場面で学校応援団の皆様によるサポートで、学校教育の充実を図ることができた。今後も、学校と学校応援団の方と連携を図りながら、充実した教育活動を展開していくようにしたい。

# 南篠崎小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南篠崎小学校長 豊澤 みどり  
 コーディネーター 神子 雅史

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	65人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
畑の整備と運営補助	不定期	45人
図書室本の整理・装飾等	週1回（時期によって週2回等）	10人
読み聞かせ	通年	10人
登下校見守り	週5回	400人

### 【農園ボランティア】



2年生が生活科の小麦の栽培活動の一環として、脱穀機を利用した小麦の脱穀体験と小麦の実を石臼で小麦を粉にする体験をしました。1年生は、来年のために小麦の種まきをしました。

### 【図書ボランティア】



図書ボランティアの方々と学校司書が連携し、図書室の装飾や書庫の整理等行いました。また今年は、読み聞かせを全学級で行っていただき、子供たちがより本に興味をもついい機会になりました。

## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 特に低学年の生活科の学習で、農園ボランティアさんの専門的な知識や技能を活用させていただき、特に生活科では、栽培活動を通して、ものづくりのよさや大変さ、昔の人々の知恵や努力を体感することができ、栽培への意欲と関心が高まった。
- 農園ボランティアさんの計画的な農園の運営・管理を進めていただき、必要に応じた学習活動を展開することができた。また、教員と連携をとり、具体的な学習活動を教員からボランティアの方々へ伝えることができ、より質の高い学習活動を行うことができた。さらに、農園を初めて見た方が農園での取り組みについて知り、「子供たちのためにとても大切な経験につながる」といった声があり、児童の成長につながる活動になったと実感した。
- 学校図書館司書と連携し、書庫の整理や廃棄本の選定など効率的に進めることができた。それにより、調べ学習等必要に応じた学校図書館の機能の充実につながった。定期的なお話を各学年で行うことができ、本への関心をより高めることができた。

### <課 題>

- 活動内容の確認や予算の配分など、年間の計画を確認し、各ボランティアに周知する方法を考え、広く周知できるようにする。
- 以前の活動に戻りつつあり、活動内容の制限が緩和された状態で進めることができた。ボランティアさんの入れ替え等順調に進められているので、引き続き取り組む。

## 5 コーディネーターより

- 学校応援団の活動が以前の状態に戻りつつあり、次年度も、各ボランティアの代表の方と連携し、子供たちにとって有意義なものになるより工夫して実施できたらと思います。また、よりよい活動を目指していく上でも学校には引き続きご協力をお願いします。

## 6 学校長より

- 今年は活動の機会が増え、子供たちにとって有意義な時間が増えました。図書ボランティアの方々には、特に読み聞かせの活動において、その機会が昨年度より大幅に増え、児童の読書をしようとする意欲の向上につながったと思います。また、農園ボランティアの方々には、食糧生産に関する取り組みの体験を充実なものにしていただき、食に関する興味と大切さを学ぶことができました。さらには、多くのPTA主催の南っ子まつりにもご協力いただきました。本校の教育活動の一層の充実をめざし、これからも農園ボランティアの方々、図書ボランティアの方々の一層のご尽力を賜りますよう今後もどうぞよろしく願いいたします。

# 鎌田小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

鎌田小学校長            石渡 靖  
 コーディネーター        鷲尾 斎

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	35人
	学生ボランティア	1人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
花壇	年2回	6人
算数	不定期	4人
金管	不定期	1人
読み聞かせ	年11回	18人
図書	不定期	7人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

「一緒に手を携えて」「できるときにできることを」のスローガンのもと、地域・保護者の皆様にご支援、ご協力をいただきました。

読み聞かせボランティアは7回、朝読書の時間に各クラスに入らせていただき、本の読み聞かせを行っていただきました。図書ボランティアは、本の修繕、ラベルシール剥がし、書架の整理等を行っていただきました。花壇ボランティアは、体育館前の花壇の整備を11月に行わせていただき、3月に花壇の整備を行う予定である。算数ボランティアは、個別に助言を行っていただきました。金管ボランティアは、放課後練習に来ていただき、個別に指導・助言していただきました。今年度も、ボランティアの皆様のご協力があり、さまざまな教育活動を有意義に行うことができた。

### <課 題>

ご多用の中、活動に参加されたボランティアの方に、充実感をもっていただき、より良い活動ができるように、担当者と連絡を密にしていくことが大切だと感じた。今後も学校応援団の活動がさらに発展していうように、企画・立案をしていく。

## 5 コーディネーターより

「一緒に手を携えて」のもと、保護者や地域の方々の協力により、ボランティア活動がスムーズに行われました。子供たちの健やかな成長のために、お手伝いできたことが良かったと思っています。今後も、子供たちのために、地域の方々や保護者の方の力をお借りして、より良い学校応援団活動を進めていきたいと思っています。

## 6 学校長より

令和5年度も、保護者、地域の皆様との「かかわり」「共育・協働」を大事にし、心と心の絆を深めながら、鎌田小学校の学校応援団の充実を図ることができたと受け止めています。今後も、図書ボランティア、読み聞かせボランティア、算数ボランティア、金管ボランティア、花壇ボランティアの4つの柱を中核にして、学校と家庭と地域とが、一緒に手を携えて、鎌田小の教育活動や教育環境の充実を図ってまいりたいと思います。

次年度もさらに多くの方々との「かかわり」「共育・協働」のもと、これまで以上により良い学校応援団を築きあげていきたいと思っています。

# 小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

小岩小学校長 小松 広宣  
 コーディネーター 安武 久弥

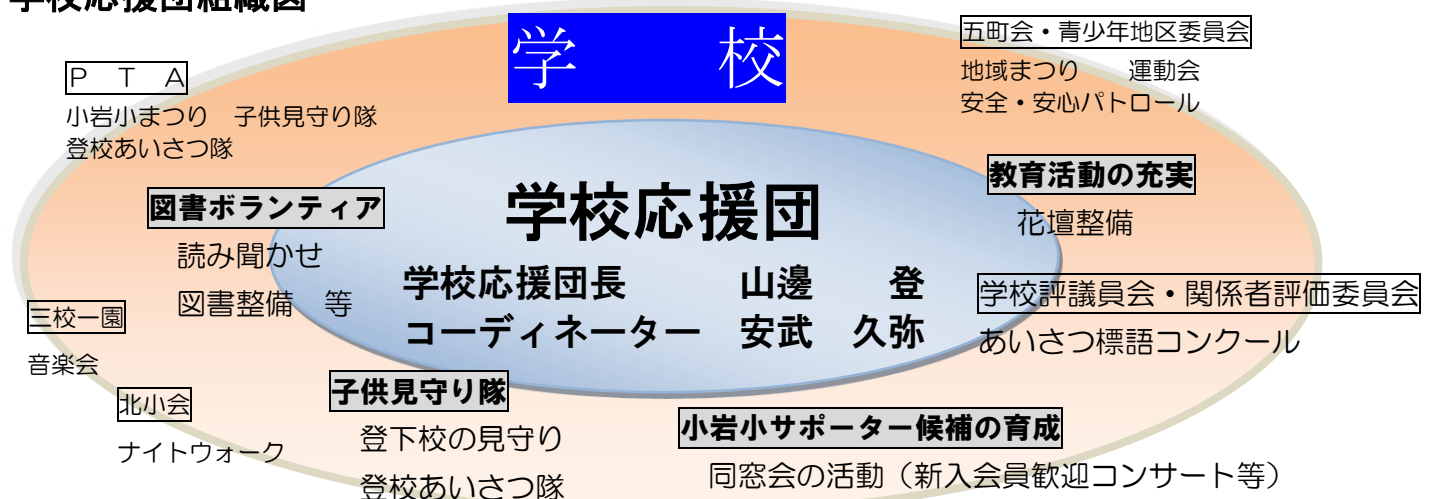
## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	310人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書整備	月2回(水曜日)	20人
読み聞かせ	月1回(水曜日)	20人
子供見守り隊(登下校時)	年2回	90人
子供見守り隊(校外学習)	年1回	10人
登校あいさつ隊	週1回	300人
教育活動の充実	不定期	5人
小岩小サポーター候補の育成	年1回	10人

## 学校応援団組織図



## 4 今年度の成果と課題



図書ボランティア



子ども見守り隊



同窓会

### <成 果>

今年度は、できるかぎり制限を設けずに様々な活動することができました。「子ども見守り隊」では、保護者や町会の防犯部の皆様を中心に、たくさんの方に児童の安全を支えていただきました。そして、本校図書ボランティアによる図書室整備や本の修理等を月2回、読み聞かせも月1回行っていただきました。そのため、児童が多くの本を手にとることができ、読書活動が充実したものとなりました。同窓会の活動では、次代の小岩小のサポーターの育成に大きな力を発揮していただいています。

### <課 題>

学校応援団の活動を広め、地域の人材を更に発掘し、様々な側面から支援していただけるようにしていきたいと考えています。そのために計画的に活動を進め、人材を募集したり活動内容をホームページで発信したりして学生等のボランティアを増やしていけるように努めていきます。

## 5 コーディネーターより

今年度は、時期や内容を学校と相談しながら、図書整備や読み聞かせ、見守り隊など、可能な範囲での活動に取り組みました。今後もこうした活動が継続・発展し、小岩小の特色ある活動として定着していくようにサポートしていく予定です。地域にあいさつの輪が広がるよう、保護者や地域、同窓会の組織と学校が一体となり、相互に理解と協調をもった温かい小岩小らしい学校応援団の活動を推進していきたいと思っています。

## 6 学校長より

小岩小学校では、新校舎落成となる開校140周年の数々の取組を行ってきました。小岩小の伝統やよさを活かしながら、バージョンアップした小岩スタイルづくりを進めています。新校舎が完成し、広い校舎で活動ができるようになったため、活動もより多様に、充実していくことができました。今年度も、保護者や地域の方々から多くの支援をいただきながら、教育活動を進めることができました。今後も、保護者、地域の皆様により信頼のある学校となるよう努力していきます。

# 東小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

東小岩小学校長 牧岡 優美子  
 コーディネーター 永井 邦房

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	35人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
○学習支援ボランティア	不定期（今年度は自粛中）	—
○図書ボランティア		
・図書選書ボランティア	月1回	3人
・読み聞かせボランティア	週1回	12人
○安全指導ボランティア	不定期	20人
○農園活動ボランティア	不定期	15人
○校外活動ボランティア	不定期	3人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- (1) 「農園活動ボランティア」では、地域から寄付していただいた「ふき農園」を理科で活用し、年間指導計画に位置付けて活動している。今年度は、3年「大根」「大豆」、4年「ジャガイモ」「小松菜」の収穫体験を行うことができた。学校応援団の方々に準備や日々の管理等をご協力いただき、今年度も継続して児童の活動を充実させることができた。
- (2) 「安全指導ボランティア」では、土曜授業の際に、平日の登校見守りに加え、ボランティアの保護者が参加しての旗振り当番を実施していただき、交通事故0を継続することができた。
- (3) 「読み聞かせボランティア」では、月に2回程度の回数で朝読書の時間に読み聞かせを実施していただいた。児童が目をキラキラ輝かせながらじっと聞いている姿が見られた。読書科の学習活動にも大いに役立った。

### <課 題>

- (1) 活動を自粛していただいた活動が複数あった。今後も、安全に活動できるよう、活動内容の変更を考えていく必要がある。教育活動の充実のために改善していきたい。
- (2) 持続可能な「学校応援団」の活動について紹介し、さらに多くの人材確保や依頼の準備を徹底していくことが必要である。

## 5 コーディネーターより

PTAや東小会（PTAのOB会）、小岩五町会が連携・協力して、児童の安全や健全育成に取り組む、平成21年度より学校応援団活動として統合しました。感染症の状況により、活動を自粛している応援団もありますが、「連携の伝統」を今年度も築くことができましたと思います。地域の方々の協力により「学校農園活動が今年も無事にできました」という話や、保護者の協力により「子どもたちが安全に活動できた」等を耳にして嬉しく思いました。今後も学校・保護者・地域が一体となって、さらに発展した活動を行ってまいります。

（コーディネーター 永井 邦房）

## 6 学校長より

農園活動を行っている「ふき農園」は、平成13年に元PTA会長から学校に寄付していただいた農園で、奥様のお名前（婦喜さん）から「ふき農園」と名付けました。この学習には、地域の方が「学校応援団」として協力してくださっています。今年度は、子どもたちと学校応援団の方々が一緒に種まきをしたり、学校応援団の方々のお力を借りて、大根やジャガイモなどの収穫を体験したりすることができました。学校応援団の皆様が、日頃から草むしりや防鳥対策など、農作物のお世話を続けてくださったお陰で、とてもありがたく感じています。

今後も「連携の伝統」を継続し、学校応援団の皆様のお力添えをいただきながら、地域とともに「地域に貢献できる子どもたち」を育ててまいります。よろしくお願いたします。

（校長 牧岡 優美子）

# 下小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

下小岩小学校校長 鶴田 麗子

コーディネーター 伊佐 厚子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	33人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
通学路安全運転呼びかけ隊	毎日	8人
学習サポーター	毎日	10人
図書ボランティア	月1回	15人



通学路安全運転呼びかけ隊



学習サポーター



図書ボランティア

## 4 今年度の成果と課題

### <成果>

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症についての法律上の位置づけが変わり、学校における感染症に対する対応も緩和してきました。令和2年の全国一斉臨時休業以来、思うように実施できなかった学校応援団活動も徐々に再開することができました。

通学路安全運転呼びかけ隊の皆さんは、児童の登校の交通安全を毎日見守ってくださっています。安心して通学するという学校教育活動の最も重要な部分を力強く支えていただいています。

図書ボランティアの皆さんは、各学級で月に1回の読み聞かせをしてくださっています。年間2回は大型絵本やスクリーンを用いて、いつもより趣向を凝らした「お話会」が行われます。「図書ボラだより」でのおすすめの本の紹介により、児童が読書への関心をもつ一助となっています。ボランティアメンバーの募集も行われ、お手伝いくださる方は当初よりずいぶん増えました。

学習サポートの皆さんは、下小岩第二小学校で同様の活動をされていた方が中心となって取り組んでくださっています。1、2年生の授業にかかわっていただき、児童の学習のサポートをお願いしています。なかにはご帰宅の際に職員室にお立ち寄りくださり「今日は楽しかった。」とお伝えいただくなど、応援団の皆さんも喜んでくださっているようです。

児童の学習に直結する活動が実施できていることが、本校の学校応援団の大きな強みであると考えています。

## <課 題>

本校は今年度旧下小岩小学校と下小岩第二小学校が統合して開校しました。

両校の学校応援団活動にコロナ禍以前からご支援いただいた方々の多くの取り組みが再開できていません。2校が統合したことにより、今後どのように活動を再開・再編していくか、また新たな取り組みを創造できるかどうか大きな課題です。

## 5 コーディネーターより

次代を担う子どもたちと肩を並べて学習できることを喜んでいます。

子どもや学校に対して貢献できている実感が心地よいのだと思います。

学習サポートに携わっている方々に感想をいただきましたので、以下に挙げます。

- 学習サポーターの立場でどこまで踏み込んで対応したらよいのか。具体的な場面でどのようにサポートすればよいのか。手探りの活動が多く、アドバイスが欲しい。
- サポートしている児童がサポーターのことをどのように感じているのか。児童のニーズに合っているのか。フィードバックが欲しい。
- 学習サポーターの活動が学校側の期待に応えているのか知りたい。

今後も児童、学校の皆さんとよりよいかかわりができるように努力していきたいと思います。

## 6 学校長より

いつも学校応援団の皆様には、本校の学校教育に多大なご協力をいただき感謝申し上げます。

児童の安全という教育活動の根幹を支えてくださる**通学路安全運転呼びかけ隊**の皆様。

読書科を推進する江戸川区の教育の一翼を担ってくださっている**図書ボランティア**の皆様。

学ぶ喜びと安心感を児童に味わわせてくださっている**学習サポーター**の皆様。

学校からはお願いをするばかりで心苦しい思いがありましたが、応援団の皆様が喜んで取り組みを推進してくださっていることに安堵いたしました。

今後は、主にホームページを通じて皆様の取り組みを発信し、その成果を共有するとともに、さらにたくさんの方々にお声がけし、価値的な活動を推進してまいります。

# 上小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

上小岩小学校長 宮本 知司  
 コーディネーター 石川 きよ子

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	35人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	毎週木曜日	5人
見守り隊	毎日	25人
学習・行事支援	不定期	5人





## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 図書ボランティアの読み聞かせや環境整備により、児童が読書に親しむことができた。
- 多くの保護者、地域の方の見守りや安全支援により、児童が安全に活動することができた。
- 地域の公園での遊びの見守り、行事の開催支援等により、児童の体力向上や学校・地域を大切にする心情を育むことができた。

### <課 題>

- 協力してくださる方が固定化してしまう傾向があるので、保護者への呼び掛けを活発にし、より多くの参加者を募るようにしていく。
- 学習支援や読み聞かせ等、次年度への引継ぎ資料を作る等、継続かつ活動内容が分かりやすくしていく。

## 5 コーディネーターより

上小岩小学校の子供たちの健やかな成長を願い「学校応援団」の代表として、学校の教育活動を支援しています。保護者、地域の皆様から多彩なご支援をいただいています。今後もより充実した応援体制がとれるようにしていきます。

## 6 学校長より

本年度も、児童の思いやりの心や、命を大切にする態度を育てるために、PTA・地域の方々に学校応援団としてご支援をいただき、充実した活動が行われました。

図書ボランティアによる読み聞かせ活動や図書館整備を通して、子供たち一人一人が本の世界、読書のよさを味わうことができました。見守り隊による登下校時の見守りは、たくさんの方々に見守られていることによる日々の安心感をもたらしています。

11月には、「エマージェンシー上小岩」という防災教育を目的とした行事を開催し、参加者の防災意識の向上を図ることができただけでなく、本校の伝統である「けやき音頭」を踊る機会をつくっていただくこともできました。

『子供たちのために』という学校応援団の皆様のご協力に大変感謝しております。今後も皆様の応援してくださる気持ちをしっかり受け止め、さらに連携を深め、皆様と共に歩む学校づくりを行っていきます。

# 上小岩第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

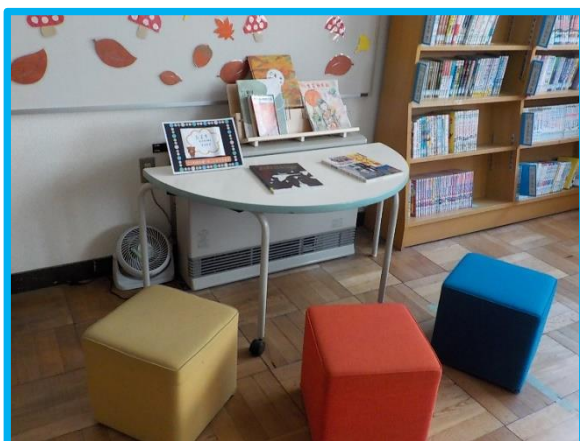
上小岩第二小学校長 小野塚 良朋  
コーディネーター 森谷 誠一郎

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	60人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書館整備	本の修理・整理整頓・室内装飾 (週1回実施)	8人
読み聞かせ	朝の読み聞かせ(月1回実施)	24人
地域安全パトロール(朝)	随時実施	20人
地域安全パトロール(夕)	年1回実施(11月)	18人
古紙回収	月1回実施	60人
交通安全教室	1～3年で年1回実施	15人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 図書ボランティアについては、週1回活動日とし、図書室の本の整理や修理、室内の飾りつけ等を行ってきました。季節に合わせて子どもたちが本を読みたくなるような掲示の仕方を工夫して親しみやすい図書室の環境を整備しました。また、本の出し入れをしやすくしたり、選びやすくしたりするために、本の入れ替え作業を行いました。
- 読み聞かせボランティアについては、月1回(朝8時30分～8時40分)行うことができました。書画カメラに投影したり、読み聞かせボランティアの周りに集まって本を見ながらお話を聞いたりしました。毎回楽しみにしている児童も増えてきています。
- 朝の旗振り、地域安全パトロール活動は、登校時や長期休業中の一定期間に行ってきました。そして、交通安全教室では実際に歩道を歩く際の児童の安全を確保するために、ご協力をいただきました。その際に、交通安全に気を付けさせるとともに、公園での遊び方や不審者対策などの見守りも行うことができました。また、11月に夜間パトロールも実施しました。
- その他、古紙回収のお手伝いに関しては、資源回収をすることによって環境に配慮した活動ができました。

### <課 題>

- 現在PTAが中心になって活動を行っていますが、図書ボランティアや読み聞かせボランティア等の活動に対し、活動ボランティアを募っている状況です。できるだけPTAの負担軽減を視野に入れながら、できる方ができる時間に実施する協力体制を築いていくことが課題です。

## 5 コーディネーターより

日頃から先生方、保護者の皆様、地域の皆様のご協力によって児童がより良い学校生活を送れるようたくさんのご支援をいただいていることに、心よりお礼申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症による活動制限がなくなり、少しずつ元の活動に戻すことができました。活動を通して子どもたちの笑顔を多く見られるように計画・実施することができました。これからも児童が豊かな学校生活を送れるよう、一同力を合わせて頑張ってお参ります。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

## 6 学校長より

今年度は、これまでできなかった活動が再開されたことにより、子どもたちの笑顔が多く見られた1年でした。子どもたちのため、学校のために活動していただいたボランティアの方々に厚くお礼申し上げます。

本校の学校応援団は、学校行事全般についてもきめ細やかに子どもたちの安心安全と健やかな成長のために活動していただいています。

今後とも子どもたちの笑顔あふれる学校づくりのためにご支援・ご協力の程よろしくお願いいたします。

# 西小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

西小岩小学校長 大野 知子  
 コーディネーター 植草 誠

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	45人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数(実人数)
花壇ボランティア	花壇の花の植え替え・整備（不定期）	12人程度
家庭科ボランティア	家庭科の授業の補助（不定期）	6人程度
図書ボランティア	学校図書館の環境整備（月2・3回）	15人程度
登校安全ボランティア	登校時の見守り（毎日）	12人程度

図書ボランティアの活動の様子



花壇ボランティアの活動の様子



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 登校安全ボランティアでは、通常の個人登校時、各学期始めの登校班登校週間ともに、保護者による登校の付き添いや見守りのお陰で、事故なく登校ができた。
- 花壇ボランティアでは、学校を訪問される方々をきれいな花や花壇でお迎えすることができた。
- 図書ボランティアでは、活動が軌道に乗り、学校図書館の環境整備に加え、読み聞かせを実施することができた。
- 家庭科ボランティアをスタートさせることができた。高学年の授業に入ることで、調理実習やミシンをするときに助言があるので児童が安心して取り組めた。

### <課 題>

- 朝の登校時の見守りのほか、下校時の見守りについても、学校評議員会で話題にあがっている。PTAや近隣町会等とも連携し、子供たちの安全につながる活動を進めていく必要がある。
- これまで学校応援団の活動にご協力いただいていた方が、子供の卒業や転居、その他の事情等で継続が難しくなっている現状がある。今後は、保護者の方々にボランティア活動に興味をもっていただけるような広報活動を行なう必要がある。
- 今後は、児童にボランティア活動をしてくださる方々への感謝の気持ちをもたせたり、伝えさせたりする中で、子供たちのボランティア精神を高めたりする一助としていきたい。

## 5 コーディネーターより

学校応援ボランティアの活動が徐々にコロナ禍前の様に活発になってきたことを嬉しく思います。登校時は、子供たちの安全を見守ってくださいました。子供たちの登校時の様子に触れ、登校見守りボランティアの必要性を改めて感じたことでしょう。

また、学校の花壇は、花壇ボランティアの方々のお陰で季節に合った綺麗な花が咲いていました。

これからも学校応援団の活動の輪が広がり、学校・PTA・地域が連携して、子供たちのよりよい成長と学びのためにみんなで力を合わせたいと考えています。

## 6 学校長より

本校では、学校応援団が設立する前より、保護者や地域の皆様のご協力をいただき、学校ボランティアの支援体制が整っていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が拡大したことで、積極的な活動をしていただくことが難しい状況がありました。そんな中でも、できる範囲で活動を継続していただきました。コロナ禍の今、新たにボランティアの組織を立ち上げる気持ちで、それぞれのボランティアの皆様が心機一転、熱心に取り組まれています。

次年度は、学校応援団の方々と協力をして、充実した学校教育活動を進めていきたいと思っております。

# 上一色南小学校応援団実践報告

## 1 校長及びコーディネーター氏名

上一色南小学校長      平田 鐘明  
 コーディネーター      吉田 貴之

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	74人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
図書ボランティア	月1回(火曜日)	20人
登校見守りボランティア	毎日	37人
ベルマーク・アルミ缶	月1回	3人
お父さんボランティア	運動会運営協力・上南まつり	12人
陶芸ボランティア	夏休み・冬休み(各2日)	2人

図書ボランティア(読み聞かせ)



旗振りボランティア(交通安全教室)



上南まつり



運動会運営協力



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

○対面での読み聞かせが通常実施できるようになり、子供たちの聞く態度が目に見えて意欲的になりました。また、図書室の掲示物や図書の整備などの活動が充実したことや、貸出しの電算化により図書室の利用も増えてきました。

○登校見守りでは、地域の協力を得て進められています。無理のない範囲で、出来るときに、できるだけ呼びかけにより、子供たちの安全を見守っていただいています。

### <課 題>

○登校見守りにおけるボランティアの人数が年々減少し、今後の継続が難しくなっている。

○ボランティアの方々の活動時間と教員の勤務時間とが合わないことも多く、教員の勤務時間外での打ち合わせもある。また、学校が週休日であるときの活動場所の確保などに困難さがある。

## 5 コーディネーターより

興宮町、本一色、上一色。子供たちが通うこの地域は、人情味に溢れ、古き伝統が根付いた地域です。そのような暖かい町で本校は、未来ある子供たちの育成を主とし、運動会・盆踊り、サークル活動など地域活動の拠点として、地域コミュニティの場としての役割も果たしてきました。親・子・孫が同じ小学校を卒業し、学校を中心に話題を共有する。これからもこの関係は変わらないものだと思います。子供たちの安全・安心、そして健やかな成長のため、学校と力を合わせ、多くの方の御協力をいただきながら活動しておりますが、更なる支援の輪を広げるべく、皆様のお力をお貸しいただければ幸いです。

PTA 会長 吉田 貴之

## 6 学校長より

上一色南小学校は、保護者や地域の方々から「読み聞かせ」「登校見守り」「運動会」「上南まつり」などに御協力していただき、教育活動を行っています。

日々の教育活動が充実したものになっているのも、学校・家庭・地域の連携があつてこそと、感謝しています。これらのことは、今後も子供の安全を守り、心と体を育てていく極めて大切なことであると考えます。

今後も三者の連携のもと、学校応援団としての組織の充実と、幅広い協力体制を確立していきたいと思っています。そして「たくましく、やさしい」上南の子を育てていきます。

上一色南小学校 校長 平田 鐘明

# 南小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南小岩小学校長 吉田 友信  
コーディネーター 島田 雅人

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア登録数	一般ボランティア	43人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせボランティア	月1回 第2金曜日	18人
図書ボランティア	図書整備 不定期	10人
旗振り 登校見守り	毎日	15人
おやじの会	不定期	10人



読み聞かせボランティアによる読み聞かせ



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

読み聞かせボランティアは、保護者・地域の方々で構成されており、毎月1回各学級での読み聞かせを実施している。子供たちは、毎月の読み聞かせをとても楽しみにしており、読んでいただいた本を更に自分で読み返したり、同じ作者の作品を探して読み進めたりする姿が見られる。読み聞かせは、子供たちが地域の方と共に学ぶ大切な機会であり、地域に愛着をもつ子どもの育成につながっている。

また、図書ボランティアは、おすすめの本の選書、本の修理、学校図書館の環境整備等を実施している。毎回、担当教員との打ち合わせを行い、ボランティアの専門知識を活かして活動している。登校見守りボランティアは、学区域の多くの場所で子供たちの安全を見守っていただいている。

どの活動も組織的に行われており、安定した活動が進められているため、教職員も校務負担の軽減を感じている。

### <課 題>

今年度より本校は新校舎での学校生活となり、おやじの会を始めとして、昨年度まで、未実施であった活動が再開した。しかしながら、学校応援団活動を活発にしていくなことや、活動を充実させるための予算執行の在り方等の検討が課題となる。そのためには、魅力ある応援団の活動を、学校ホームページ等で積極的に広報するとともに、人員募集を行ったり、人材を発掘したりして応援団組織の層を厚くし、活動を活性化したい。

## 5 コーディネーターより

南小岩小学校の子供たちを伸び伸びと成長させたいという願いで始まった学校応援団。読み聞かせボランティア、図書ボランティア等の組織を通じて南小岩小学校の教育活動を支え、保護者や地域の皆様と協力し合い、活動を広めたいと常に考えてきました。様々な情報交換をして、更に支援を図りたいと考えています。登下校の見守りや、すすくスクールとの連携も引き続き必要です。これまでも三自治会（一南、司、扇子田）とは、様々な地域行事に協力させていただき、参加することで親交を深めてきました。さらに、南小岩小学校の学校応援団が活発に活動していけたらと考えています。

## 6 学校長より

保護者・地域の皆様には、読み聞かせボランティアによる読み聞かせ、図書ボランティアによる図書館環境整備、毎朝の登校見守り、ふれ愛まつり等にご協力いただき感謝しております。

今後も、地域の方々と連携を深めながら、子供たちが「南小岩小学校に通って良かった」と実感できるように学校環境を整備しき、学力向上・体力向上・豊かな心の育成を図ってまいります。地域や保護者に信頼される学校となるよう全力を尽くしてまいります。ご支援・ご協力をお願いいたします。

# 南小岩第二小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

南小岩第二学校長      安田 真理  
 コーディネーター      苅部 隆之

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	83人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
読み聞かせボランティア	毎週木曜日	25人
基礎タイムボランティア	毎週水曜日	21人
図書室整備ボランティア	毎月第一水曜日	14人
父子会（ちゃんこ会）	不定期	20人
交通安全見守り	週5回	3人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- ・毎週木曜日に、読み聞かせを行っていただいた。学年にあった選書をして下さり、子供たちは毎週楽しみに聞いている。読み聞かせで聞いた本を、読む子供もおり、読書に親しむきっかけとなっている。
- ・毎週水曜日に、基礎タイムボランティアによる朝学習の指導補助や丸付けをしていただいた。
- ・毎月第一水曜日に、図書ボランティアに書架整理を行っていただいた。図書館司書と連携をし、廃棄本の処理や、新しい本のラベリング、ブックカバー貼りなども手伝っていただいた。
- ・父子会（ちゃんこ会）は、5月「運動会」の片付けの手伝い、7月「夏のお楽しみ会」の企画・運営、12月「にこにこ祭り」への出店等、PTAと連携をして子供たちの笑顔のために活動していただいた。
- ・交通安全見守り活動は、PTA交通当番と連動し、児童の登校の安全安心と、挨拶の促進の啓発につながる活動となっている。

### <課 題>

- ・テトルやホームページ等を通じて活動状況を広く伝えていき、ボランティアをする人を増やしていく必要がある。

## 5 コーディネーターから

長く続いたコロナ禍の制限が緩和され、今年度は様々な行事が戻ってきました。

これまで、感染症対策の観点から考えることの多かった「活動の見直し」は、今後の課題となり模索を続けている一年にもなっています。そのなかで、昨年同様に、通年の交通当番・読み聞かせ・図書室整備は、地域の方々と保護者が手を取り合い継続しています。

また、しばらく休止していた基礎タイム（計算プリントの丸付け）も再開し、多くの保護者が身近な学校を思い出すことが出来ていると思われます。学校の寛容な指針のもと、PTA や父子会といった保護者主体のイベント開催によって、子供たちの笑顔が増えていることをとても望ましく思うところです。低学年の保護者にとっては、当たり前を感じることも多くあるなか、運動会・げいじゅつ祭と言った参観機会の行事も、コロナ禍における工夫を活かしつつ開催されていること、学校・地域・保護者、三位一体の関係性を伝えることに、これからも一役を担いたいと思います。

## 6 学校長から

学校応援団の皆様には、日頃から本校の教育活動にご協力をいただき感謝しております。コーディネーターの荻部さんはじめ、交通安全当番の皆様、読み聞かせサークル「ずんずん」の皆様、図書室整備ボランティア、基礎タイムボランティアの皆様には、今年度も大変お世話になりました。読書環境を整えていただくことは、本校の読書科の充実とともに、児童の読書意欲を高めることのできる大きな成果でした。

また、今年度は、父子会主催の「子供夏のお楽しみ会」やPTA 主催の「にこにこまつり」等も復活し、学校応援団の皆様にはたくさんご協力いただきました。児童の笑顔があふれる行事となったこと、一年を通していろいろな場面で本校児童を学校とともに育成していただけていることに心から感謝申し上げます。

# 中小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

中小岩小学校長            鈴木 薫  
コーディネーター        内田 泰雄

## 2 ボランティア登録数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	48人
	学生ボランティア	0人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
子ども見守り隊	週5回	20人
図書整備・装飾	月1～2回	18人
環境整備	年2回	10人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

- 「子ども見守り隊」では、毎日の登下校時に交通安全などの見守りをしていただいた。毎日声かけをして児童と地域の方々がふれあうことは、関わりが取れるよい機会となっている。地域と連携していくことは大切なことだと感じている。
- 図書ボランティアの方には、本の整備・修繕、季節に合わせた図書館の装飾や特設コーナーに設置等をしていただいた。本が整理され、使いやすい図書室になっている。図書室の環境整備に力を入れていただいた結果、児童の読書への意欲・関心が高まった。

### <課 題>

- ボランティアをしてくれる方の確保が年々難しくなっている。卒業生の保護者の中に申し出てくださる方もいて助かっている。次年度も、様々な機会を通じて呼びかけ、新しい学校応援団の人員を増やしていく必要がある。
- 見守り隊の方々の高齢化が進み、新たに協力していただける方の確保が困難であることが毎年の課題である。PTAを中心に保護者の方々にも協力していただき見守りを続けているが、共働きも増え近い将来この形で行うことは難しいと予想できる。登下校の見守りは、保護者・地域で行うきまりになっているが、実行するには社会の仕組みや意識を変えていかなければ難しいと考える。

## 5 コーディネーターより

子ども見守り隊の活動として、毎朝子供たちと毎日ふれあっています。登校姿や日々の生活の中でも成長していく姿を見ることができ、うれしく思っています。

現在はさまざまものを簡素化し、ボランティアに参加しやすい環境を整えていきたいと考えています。子供のために学校と連携を取り、できる限りの応援活動をしていきたいと思えます。

今後も子供たちが心豊かに成長してくれることを願って、地域や保護者の方々と連携・協力しながら、学校を応援する様々な活動を続けて参ります。

## 6 学校長より

「子供見守り隊」や「図書整備」、「環境整備」について、本校で学ぶ児童のために惜しみないご支援とご協力を賜りましたことに対して深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス・ハンデミックは、学校応援団の活動に対して様々な影響をもたらしましたが、一方学校応援団活動の在り方を再考する機会となりました。これまでの取組の成果を生かしつつ、新しい時代に向けた学校応援団の活動について再考し、地域並びに保護者の皆様方と課題を共有し、ともに改善に取り組んでまいります。

# 北小岩小学校 学校応援団 実践報告書

## 1 校長及びコーディネーター氏名

北小岩小学校長 藤島 寿晴  
 コーディネーター 鈴木 充孝

## 2 ボランティア数（令和6年1月末現在）

学校応援団ボランティア数	一般ボランティア	13人
	学生ボランティア	2人

## 3 今年度の活動状況

応援団の種類・名称	活動状況(週、月、不定期)	ボランティア数 (実人数)
学校図書館の装飾・整理	不定期	8人
花壇の整備	不定期	7人



## 4 今年度の成果と課題

### <成 果>

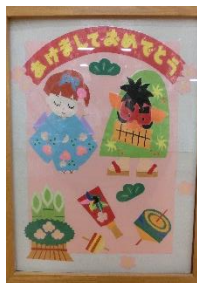
新型コロナウイルス感染症対策が5月から5類に移行され、活動の制限がなくなったので、今年度は図書ボランティアの活動に本の修繕に関する研修会を設定しました。残念ながら台風の影響で実施はできなかったのですが、活動の広がりが見られているのは成果の一つであると感じています。図書ボランティアの環境整備や花壇ボランティアの整備は例年通り、限られた時間を利用して、ボランティアの皆さんと実施することができました。

### <課 題>

昨年度までもそうでしたが、ボランティアの活動を周知して人数を確保することが難しい状況です。活動日を学校公開がある土曜日などに設定し、参加しやすいように配慮しているのですが、さらなるアピールや宣伝活動をして、参加人数を増やしていきたいと思います。コーディネーターを現役のPTA会長としたので、PTAの方ともさらに連携を深めていきたいと考えています。

## 5 コーディネーターより

今年度から新たにコーディネーターとなりましたPTA会長の鈴木充孝と申します。前任の方から引き継ぎながら活動を充実させていきたいと考えています。今年度は今までやってきている学校図書館と花壇の整備の両方に取り組むことができ、子供たちに喜んでもらうことができました。図書ボランティアで、本の修繕の研修会を予定したのですが、残念ながら実現はできず、来年度の課題としたいと思います。今後も活動内容を広く周知し、ボランティアの皆さんが加入しやすい雰囲気作りを心がけ、活動の継続を進めていきたいと考えています。



## 6 学校長より

新しいコーディネーターの鈴木さんを迎え今年度の活動がスタートしました。常に子供たちのために活動してくださる学校応援団の皆様は学校にとって本当に貴重な存在です。

季節を感じさせる草花に溢れている花壇を見るたびに嬉しく思い、学校応援団の皆様に感謝の気持ちでいっぱいになります。学校図書館は常に本の修繕や整理がされ、また、季節ごとの掲示物の工夫は、図書室に足を運ぶ子供たちを増やし、子供たちの本に親しむ気持ちを後押ししてくれています。

今後も学校応援団の皆様と協力して、子供たちの笑顔いっぱいの学校にしていきたいと思っています。